

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査

地域産業の担い手及び支援人材育成推進調査 報告書

平成 22 年 3 月

経済産業省中国経済産業局

【目 次】

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 本調査における地域産業の定義	1
3. 調査の内容	2
4. 調査実施方針	4
5. 本調査で定義する中山間地域の対象市町村	5
第2章 実証研修実施案の策定及び実施準備	7
1. 実証案策定のための状況把握調査	7
2. 実証研修実施案の策定	19
3. 実証研修の実施準備	26
第3章 実証研修の実施と成果の検証	29
1. 実証研修の実施	29
2. 実証研修結果の検証	41
第4章 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施	49
1. 研修のねらい	49
2. 研修プログラムの作成	50
3. 研修講座の開催準備	54
4. 研修講座の実施	61
5. 研修の成果検証と今後の展開	74
第5章 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言	78
1. 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言	78

資料編	93
1. 産業の担い手及び産業支援人材育成実証研修 参加者アンケート調査票	94
2. モデル地域における地域産業人材育成研修 参加者アンケート調査票	97
3. 地域産業の担い手及び支援人材育成推進調査 調査委員会 委員・事務局	100

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

経済産業省では、農林水産業と商業・工業等の産業間での連携（農商工連携）を支援する施策を集中的に実施し、新商品の開発や販路開拓を支援している。また、地域の強みとなる地域資源を活用した中小企業による新商品・新サービスの開発や販路開拓等についても支援を行い、地域の活性化を図っている。

しかしながら、中国地域においてこのような新事業への取り組みにより自立した地域経済の確立を目指すには解決すべき課題も多い。農林水産物やその他の地域資源が豊富に存在している場合でも、事業実施主体となる企業等が少なく、また、新たな事業に取り組む際の人材やノウハウが不足している。一方で、地域と一体となった取り組み等により大きな波及効果を上げている事例も存在している。

このため、平成20年度においては、成功事例の要因等を検証し、中山間地域の活性化につながる地域産業の担い手を創出する上で、地域において実践可能な人材育成及び産業支援ネットワーク形成方策を「地域産業の担い手創出のための方策調査」（以下、「担い手調査」という。）としてまとめたところである。

本調査は、平成20年度「担い手調査」の結果を踏まえ、地域の底力を発揮する仕組みづくりとして、地域産業の担い手及び支援人材の育成策を実証的に推進し、その育成手法を確立することを目的として実施した。

2. 本調査における地域産業の定義

本調査において対象とする地域産業は、平成20年度「担い手調査」の定義を踏襲する。その内容は下記のとおりである。

■本調査における地域産業の定義

- ① 中山間地域における農林水産業、工業、商業、観光等のサービス業及びこれらの複合産業
- ② 中山間地域において、地域資源の活用や地域内の産業連関を創出している内発型の産業
- ③ 主として地域外に市場を開拓している産業
- ④ 中山間地域の雇用や経済波及効果を創出する等地域社会への貢献を行っている産業

なお、本調査の報告書において、「農商工連携」及び「地域資源」という言葉を用いる場合には、特段の説明がない限り、広義の一般的な意味として、農林水産業と商業・工業等の産業間での連携及び地域固有の活用可能な自然・人的・文化的資源を指す。

3. 調査の内容

調査内容は、当初、仕様書に基づき下記の調査項目について実施計画案を作成し、調査委員会に諮ったところであるが、原案について検討を行った調査委員会における委員の意見を踏まえ、一部事業の実施方法の見直しを行った。

(1) 当初調査内容（仕様書に基づく原案）

① 地域産業の担い手育成のための実証研修の実施

- 平成 20 年度「担い手調査」で提言された担い手人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえた担い手人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

② 地域産業の担い手を支える産業支援人材育成のための実証研修の実施

- 平成 20 年度「担い手調査」で提言された産業支援人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえた産業支援人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

③ モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

- 真庭地域において「担い手調査」で提言された木質バイオマス産業の担い手育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえたネットワークの形成とバイオマス人材の実績づくり
- 継続的な人材育成プログラム展開の可能性の検討

④ 地域における交流の場づくりの実証研修の実施

- 上記①②の実証研修中山間地域における事業を育てる支援ネットワークを形成するため、担い手候補と支援人材を中心とする学びの場「まちむらビジネスカフェ(仮称)」の実証実験を実施
- 実証研修結果を踏まえた課題の抽出と解決方策の検討



⑤ 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定

- 上記①②④を踏まえた結果をもとに地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定
- 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

(2) 修正後の調査項目（確定内容）

① 地域産業の担い手及び産業支援人材育成のための実証研修の実施

- 平成 20 年度「担い手調査」で提言された担い手及び産業支援人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 交流プログラムとしての「まちむらビジネスカフェ（仮称）」の実証実験の実施
- 実証研修結果を踏まえた担い手及び産業支援人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

② モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

- 真庭地域において「担い手調査」で提言された木質バイオマス産業の担い手育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえたネットワークの形成とバイオマス人材の実績づくり
- 継続的な人材育成プログラム展開の可能性の検討



③ 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定

- 上記①を踏まえた結果をもとに地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定
- 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

4. 調査実施方針

調査項目	調査の実施ポイント
1 地域産業の担い手及び産業支援人材育成のための実証研修の実施	(1)実証研修実施案の策定 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施案を策定する。 ○ 実施案策定のための状況把握調査 ○ 実証研修テーマ等実施概要の策定 ○ 実証研修プログラム及び講師の選定及び調整
	(2)実証研修の実施準備 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施に向けた準備を行う。 ○ 講師依頼及び管理に関する準備 ○ 開催会場等協力機関との調整に関する準備 ○ 受講者募集及び管理に関する準備
	(3)実証研修の実施 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修を実施する。 ○ 担い手及び産業支援人材育成研修の実施 ○ 交流プログラムとしてのまちむらビジネスカフェの実施 ○ 実証研修の記録 ○ 受講者へのアンケート調査の実施
	(4)実証研修結果の検証 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施結果をもとに課題と成果を検証する。 ○ アンケート調査結果の分析 ○ 受講者への受講後ヒアリング調査の実施 ○ 実施結果の検証
2 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施	(1)モデル地域における地域産業人材育成実証研修実施案の策定 岡山県真庭市をモデル地域とし、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修実施案を策定する。 ○ 木質バイオマス産業人材育成プログラムへの地元関係者の意向把握 ○ 実証研修テーマ等実施概要の策定 ○ 実証研修プログラム及び講師の選定及び調整
	(2)実証研修の実施準備 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修実施に向けた準備を行う。 ○ 講師依頼及び管理に関する準備 ○ 開催会場等協力機関との調整に関する準備 ○ 受講者募集及び管理に関する準備

調査項目	調査の実施ポイント
2 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施	(3)実証研修の実施 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修を実施する。 ○ 木質バイオマス産業人材育成研修の実施 ○ 実証研修の記録 ○ 受講者へのアンケート調査の実施
	(4)実証研修結果の検証 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修の実施結果をもとに課題と成果を検証する。 ○ アンケート調査結果の分析 ○ 地元関係者の意見整理 ○ 実施結果の検証に基づく今後の展開に関する提言
3 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定	(1)地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定 実証研修結果をもとに、地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムを策定するとともに、関連事業に関する提言を行う。 ○ 地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの策定 ○ 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

5. 本調査で定義する中山間地域の対象市町村

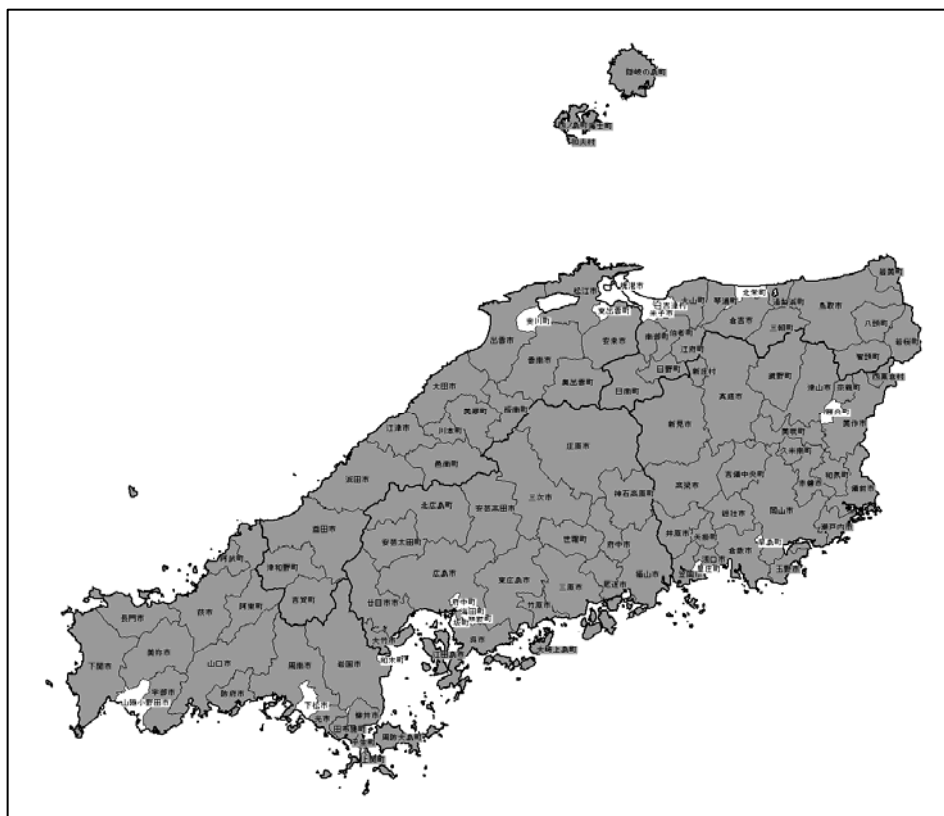
本調査における中山間地域とは、平成20年度において定義した「特定農山村」「振興山村」「過疎地域」「半島振興地域」「離島振興地域」の指定市町村を対象とする。

関係5法の指定状況

県名	特定農山村		振興山村		過疎地域		半島振興地域		離島振興地域		5法指定状況 (一部指定含む)
	全域	一部	全域	一部	全域	一部	全域	一部	全域	一部	
鳥取県	8	6	4	10	4	4	0	0	0	0	15
島根県	12	7	3	12	16	3	0	2	4	1	19
岡山県	6	16	2	17	11	7	0	0	0	5	24
広島県	4	14	0	14	9	7	1	1	1	6	19
山口県	2	11	1	8	8	5	4	0	0	11	17
合 計	32	54	10	61	48	26	5	3	5	23	94

指 定 市 町 村 （ 網 掛 け を 除 く 市 町 村 ）

	市町村名							
鳥取県	鳥取市	米子市	倉吉市	境港市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町
	三朝町	湯梨浜町	琴浦町	北栄町	日吉津村	大山町	南部町	伯耆町
	日南町	日野町	江府町					
島根県	松江市	浜田市	出雲市	益田市	大田市	安来市	江津市	雲南市
	東出雲町	奥出雲町	飯南町	斐川町	川本町	美郷町	邑南町	津和野町
	吉賀町	海士町	西ノ島町	知夫村	隠岐の島町			
岡山県	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市
	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市	浅口市	和気町
	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西粟倉村
	久米南町	美咲町	吉備中央町					
広島県	広島市	呉市	竹原市	三原市	尾道市	福山市	府中市	三次市
	庄原市	大竹市	東広島市	廿日市市	安芸高田市	江田島市	府中町	海田町
	熊野町	坂町	安芸太田町	北広島町	大崎上島町	世羅町	神石高原町	
山口県	下関市	宇部市	山口市	萩市	防府市	下松市	岩国市	光市
	長門市	柳井市	美祢市	周南市	山陽小野田市	周防大島町	和木町	上関町
	田布施町	平生町	阿武町	阿東町				



第2章 実証研修実施案の策定及び実施準備

1. 実施案策定のための状況把握調査

(1) 産業の担い手及び支援人材育成活動の取り組み状況と意識

平成20年度「担い手調査」による中山間地域市町村アンケート及び企業ヒアリング結果を人材育成研修の実施状況等に絞って再整理を行った。

1) 中山間地域市町村アンケート結果からの考察

■市町村アンケート調査結果に見る人材育成研修状況の考察ポイント

- ☐ 自治体による産業人材育成研修等はほとんど実施されていない。(実施団体:13.3%)
- ☐ 産業振興策における企業人材育成活動の重要性の認識度は低い。(回答割合 7.8%)
- ☐ 産業人材確保・育成における主体的な活動を実施している自治体は全項目で1割前後。
(「他機関の実施情報の提供」が約3割を占める。)
- ☐ 企業のリーダー人材育成はほとんど実施されていない(下表問 選択項目 NO6:6.6%)
- ☐ 企業支援を行う行政職員の人材育成もほとんど実施されていない(下表問 選択項目 NO7:6.6%)

■市町村アンケート調査結果から抜粋

項 目	構成比	件数
産業振興・企業振興のための人材育成・能力開発機会を提供している自治体	13.3%	8/60
中山間地域の産業振興を図る上で、行政の役割として「後継者・人材育成活動」が特に重要だと思うとの回答(複数回答可)	7.8%	15/192

■市町村アンケート調査結果「産業人材確保・育成のために実施していること」(複数回答可)

選択項目	構成比	件数
企業人材能力開発・技術取得等を目的とする他機関主催研修会等の情報提供	29.5%	18
企業等の人材育成を目的とした活動への助成制度の創設	13.1%	8
企業人材の能力開発・技術取得等を目的とする自治体主催研修会等の開催	11.5%	7
地元企業の人材ニーズの的確で具体的な把握	8.2%	5
企業等の人材ニーズを踏まえた必要な外部専門家の人材誘致活動	8.2%	5
地域産業を担うリーダー育成プログラムの提供	6.6%	4
企業に対して的確な支援を行うことのできる行政職員の人材育成・能力開発	6.6%	4
企業等の人材育成を目的とした異業種・異分野間の人材交流の支援	4.9%	3
大学等の教育機関と連携した人材交流機会や人材育成プログラムの提供	4.9%	3
その他	4.9%	3
企業人材ニーズを踏まえた外国人労働者の確保、受入環境整備の活動	1.6%	1
合 計	100.0%	61

2) 中山間地域における企業ヒアリング結果からの考察

■企業ヒアリング結果に見る人材育成研修状況の考察ポイント

- ☐ 経営者の人材育成の重要性に対する認識は高い。
- ☐ 成長軌道に乗りつつある企業ほど人材育成ニーズが大きくなる傾向にある。
- ☐ 事業規模の大きい会社では、民間の実施する専門性を高める人材育成研修等への参加を奨励し、資格取得支援を行っているケースが増える。
- ☐ 従業員が少ない企業では人材育成に時間をとる余裕がなく、OJT中心、または具体的な育成プログラムをもっていないケースが多い。
- ☐ 販売先に従業員を派遣し、「市場の評価基準、感覚」の育成を行っているケースがある。
- ☐ 地域内の資源活用や農商工連携を図るためのコーディネーター育成を図るため、人材育成の視点で生産者や販売先関係者、消費者等との交流機会を活用しているケースがある。
- ☐ 企業の経営ノウハウを活かし、連携先の生産者の農業経営改善に協力しているケースもある。
- ☐ UIターンによる人材確保に期待し、重視している企業が多い。

■企業ヒアリング結果から抜粋

○人材確保・育成

- ・事業の発展段階によって人材確保・育成への取り組みに違いがある。
- ・起業から3～5年程度までの企業や新規事業に着手した段階の企業等では、人材確保の緊急性は低く、取り組みを継続的に行っているケースはほとんどない。
- ・事業規模の拡大、新規分野への進出を検討している段階の企業では、新部門担当者や次世代リーダー候補の確保・育成ニーズが大きくなる傾向にある。
- ・人材確保・育成の最大の課題は、そもそも地域内の就労人口規模が小さいため、就業者の確保自体が困難であること。
- ・UIターンによる人材確保に期待し、重視している企業が多い。
- ・すべての経営者、担い手が人材育成の重要性を認識していたが、実施状況には前述のとおり若干の差異がある。
- ・従業員数が多くなるに従い、人材育成のためにコストと時間をかけ、外部研修等への参加、資格取得への支援等を行っているケースが増える傾向にある。
- ・従業員が少ない企業では人材育成に時間をとる余裕がなく、OJT中心、または具体的な育成プログラムをもっていないケースが多い。
- ・工夫のポイントとしては、大きく「人材が育つ仕組み・環境づくり」と「人材を育てるための具体的取り組み」に分かれる。
- ・販路開拓に力を入れている企業では、販売先に従業員を派遣。「市場の評価基準、感覚」の育成を行い、自社のものづくりに活かそうとするケースがある。
- ・地域内の産業連関創出に関する人材育成では、生産者とのネットワーク化を進めるコーディネーターの育成を図っているケースが複数ある。該当するケースでは、生産知識の学習や生産情報の収集活動等、生産者との交流を通じて、人材を育成しているケースが多い。
- ・企業の経営ノウハウを活かし、生産者への指導を通じて生産組織の経営改善に協力しているケースも現れている。

(2) 産業の担い手及び支援人材育成にかかる類似研修

① 中小企業大学校 広島校

■開設の背景

国の中小企業施策に基づいて設置された中小企業を対象とした専門研修機関

■運営主体

独立行政法人中小企業基盤整備機構（以下中小機構という。）

■開設地域

広島校を常設。（対象地域：中国五県及び愛媛、高知の各県）

■研修の特色：

- 1) 企業経営に求められる実務能力全般を体系的に修得できるメニューにより構成。
- 2) 中小機構の全国ネットワークを通じて、各分野における実務経験豊富な専門家を講師陣
- 3) 実践的な体験型研修（中長期コースを中心とした課題解決型研修）
- 4) 階層別、分野別に構成した研修体系
- 5) 個室の宿泊施設と談話室、食堂、無線LAN環境を完備
- 6) 校外研修メニューの開設
- 7) 受講料による参加制。雇用・能力開発機構キャリア形成促進助成金制度の活用可
- 8) 研修フォローとして、中小機構中国支部の個別相談・専門家派遣、「新連携支援事業」、「販路拡大事業」を準備

■研修メニュー（平成21年度）

分野・目的	コース名	期間	受講料
総合力・能力開発（総合学習）	経営管理者養成コース(第21期)	28日間	285,000円
総合力・能力開発（経営者）	トップセミナー「これからの中小企業経営」	2日間	21,000円
	学生と考える新・経営塾	4日間	30,000円
	同族企業のための事業承継講座	2日間	21,000円
	成長企業のための経営戦略・経営計画策定講座	2日間	21,000円
総合力・能力開発（管理者）	部下のほめ方・叱り方(岡山・周南・松山)	2日間	21,000円
	女性リーダー育成講座	3日間	27,000円
	ビジネスに活かす企画とプレゼンスキル	3日間	27,000円
	コーチングによる部下の指導法	3日間	27,000円
	プロジェクトリーダー養成講座	3日間	27,000円
	ロジカルシンキングによる問題解決の実践	3日間	27,000円

分野・目的	コース名	期間	受講料
総合力・能力開発（管理者）	リーダーシップとコミュニケーション	3 日間	27,000 円
	経営管理のためのマネジメント基礎講座	2 日間	21,000 円
総合力・能力開発（若手リーダー）	リーダーのための能力アップ総合講座	4 日間	34,000 円
財務・組織（総合学習）	財務管理者養成コース(第6期)	6 日間	48,000 円
	人事管理者養成コース(第5期)	7 日間	56,000 円
財務・組織（経営者）	戦略的人材マネジメントの進め方	2 日間	21,000 円
	利益を生み出す会計情報活用法	1 日間	15,000 円
	管理者のためのチームマネジメント	2 日間	21,000 円
	管理者のためのチームマネジメント	2 日間	21,000 円
	人事労務の実務	2 日間	21,000 円
	経営力強化のための経営分析入門	5 日間	41,000 円
	キャッシュフロー経営術	2 日間	21,000 円
財務・組織（若手リーダー）	新任リーダーのための5つの必修スキル	5 日間	18,000 円
販売・営業（総合学習）	営業管理者養成コース(第9期)	12 日間	113,000 円
販売・営業（管理者）	営業マネージャーの役割と能力	2 日間	21,000 円
	営業力を高める提案営業	5 日間	41,000 円
	セールストーク・交渉術の向上	2 日間	21,000 円
	新規顧客開拓の進め方	3 日間	27,000 円
販売・営業（若手リーダー）	ニューリーダーのための営業力強化シリーズ1～4	1 日間	15,000 円
生産管理（総合学習）	工場管理者養成コース(第17期)	18 日間	174,000 円
生産管理（管理者）	5Sと製造現場の見える化	2 日間	21,000 円
	リーダーのための現場改善の教え方	2 日間	21,000 円
	生産現場のコストダウンマネジメント	5 日間	41,000 円
	現場改善技法とその実践	5 日間	41,000 円
	生産現場の品質管理手法とその実践	5 日間	41,000 円
	実践的生産管理の進め方	5 日間	41,000 円

分野・目的	コース名	期間	受講料
生産管理（若手リーダー）	よくわかる現場改善のポイント	2 日間	21,000 円
新規創業・第二創業・ビジネスプラン作成	新規事業の進め方	4 日間	34,000 円
税理士	中小企業のための経営計画策定支援研修	1 日間	15,000 円

② まちむら交流きこう地域産業育成マネージャー研修

■開設の背景

農村地域の活力低下、集落の維持存続が困難な状況になっていること、担い手が不足している等の現状を踏まえ、資源活用による産業振興等の促進を目指し、地方へのU J I ターンを希望している都市在勤者及び農村地域での活性化に取り組み始めた層（官民間わず）を対象とする担い手育成研修として平成 18 年度から実施。

■運営主体

平成 18～19 年度：まちむら交流きこう（農林水産省補助事業・委託事業）

平成 20 年度：㈱ランドブレイン（農林水産省補助事業・委託事業）

■開設地域

東京都内、新潟県上越市

■研修の特色（平成 20 年度）

- 1) 地域の固有性・豊かさの発見から持続可能性を実現するための意識醸成
- 2) 地域資源活用による起業・体験交流事業等に必要な知識等の習得
- 3) 農村地域における新たな事業実施に向けての知識、企画力、地域住民とのコミュニケーション能力、事業運営能力の育成
- 4) 研修の基本方向

■座学研修 東京都内

理論編

- ① 地域活性化に向けたコンセプトづくり
- ② 地域資源の発見、評価、活用（地域の個性の見極め方）
- ③ 経済的価値以外（地域独自の生活文化）の価値の重要性
- ④ 地域における起業の新たな「ものさし」

実践編

- ⑤ 地域資源を磨く
- ⑥ 地域の個性を活かす
- ⑦ 人の個性、智慧を活かす

■現地実習 新潟県上越市

- ① 地域活性化に向けたコンセプトづくり
- ② 地域資源の発見、評価、活用（地域の個性の見極め方）

- ③ 人の個性、智恵を活かす
- ④ 地域の個性を生かした「真似をされない独自の産業化」
- 5) 大学教授、中山間地域振興に詳しい専門家（都市側・地方側）、中山間地域における地域づくり実践者、中山間地域の地域資源活用による企業経営で成功事例をもつ実践者
- 6) 参加費用は現地研修の場合 1 泊につき 10,000 円負担。その他は懇親会参加費負担。

③ 株式会社いろどり 起業ノウハウセミナー

■開設の背景

いろどりビジネス仕掛け人として知られる横石知二氏が、同社事業での実践経験から積み上げた中山間地域ビジネスの起業ノウハウを公開し、全国の中山間地域産業の出番づくり・仕事づくりのプロデューサー育成を目的として、自社で展開している「いろどりセミナー」の新メニューとして 2009 年に開設。

■運営主体

株式会社いろどり（徳島県上勝町 第3セクター）

■開設地域

徳島県上勝町

■研修の特色

- 1) 対象は社会企業家を志向する層、農業での起業を志向する層 いろどりノウハウを深く学びたい層（1 回定員 20 名）
- 2) オリジナル教本『いろどりノウハウマニュアル』を使って仕事づくりの方法を修得
- 3) 彩り産業を支える農家の高齢者訪問
- 4) 1 泊 2 日研修。参加費は 50,000 円（テキスト代、送迎、宿泊費、1 日目夕食・2 日目朝食・昼食込）
- 5) 中山間地域の企業が自社の事業として、同種の研修を定期的の開講している事例は少ない。

主な講義

- 社会起業家の本質と実行の 3 つのステップ（横石氏講義①）
- 現地見学①（彩農家の作業現場、畑、P C 戦略視察）
- 現地見学②（上勝町の彩以外の取り組み視察）
- 仕事づくり・商品づくりの具体的ステップ（横石氏講義②）

④ 島根県「しまね立志塾」

■開設の背景

島根県が県内市町村における地域産業支援人材の育成を目的として平成 19 年にスタート。市町村の産業振興担当職員を中心に、商工会・商工会議所職員等を対象とする産業支援人材育成の研修プログラムを実施。対象は 30 代を中心とする若手職員としており、一定の行政経験を踏まえて産業支援活動という領域に柔軟に挑戦していける人材の育成を目指している。

■運営主体

島根県

■開設地域

島根県内各地を中心に県外への視察研修あり

■研修の特色

- 1) 対象は 30 代を中心とする市町村の産業振興担当職員、商工会・商工会議所職員等
- 2) 塾頭に関満博一橋大学大学院教授を迎え、松永桂子島根県立大学准教授、元大手メーカー経営幹部、金融機関の実務担当者等による講師陣
- 3) 研修メニューは、座学、企業訪問、実習（最終回にプレゼンテーションあり）で構成
- 4) 県内各地の企業を巡りながら 1 泊 2 日研修を 6 回シリーズで開催（平成 20 年度）
- 5) 若手産業支援人材の研修を実施しているケースとして成果をあげており、他地域からの注目を集めている。

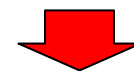
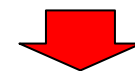
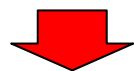
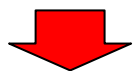
[平成20年度しまね立志塾実施状況]

回	実施日	実施場所	日数	主な研修内容	講 師
1	6/4~5	大田市	2	開講式 産業振興とは（講義） 今後の産業振興あり方（講義） 各地域のSWOT分析報告	関 満博 氏 （一橋大学大学院教授）
2	7/8~9	斐川町	2	財務諸表の見方（講義） 製造現場の見方（講義） 企業訪問、グループ討議・意見交換 まとめ（講義）	長村俊則 氏 （広島修道大学講師） 矢野俊人 氏 （山陰合同銀行地域振興部副部長）
3	8/28~29	浜田市 益田市	2	産学官連携（講義） 岩手県宮古市の産業振興の取組（講義） 企業支援のあり方（意見交換） 企業訪問、グループ討議・意見交換	松永桂子 氏 （島根県立大学准教授）
4	10/30~31	雲南市 奥出雲町	2	やればできると思うなよ!（講義） 地域の産業振興（講義） しまね立志塾の皆さんへ（講義） 地域の産業振興（意見交換） 企業訪問、グループ討議・意見交換	佐藤日出海 氏 （宮古市産業支援センター所長） ほか
5	11/20~21	岡山県 津山市	2	つやま新産業創出振興機構の概要（講義） 津山市の企業誘致（講義） 中小零細企業の多い地域の産業振興の進め方（講義） 産業支援機関の体制・役割（意見交換） 企業訪問、グループ討議・意見交換	
6	1/22~23	江津市	2	研修成果報告発表 修了式	

⑤中山間地域において実施されている類似・同種の人材育成研修の基本方向

	中小企業大学校 広島校	まちむら交流きこう 地域産業育成マネージャー研修	(株) いろいろ 起業ノウハウセミナー	島根県「しまね立志塾」
基本方針	■企業経営に求められる実務能力全般を体系的に修得できるメニューにより構成。	■中山間地域産業(主として農業)の担い手育成を目指し下記の研修テーマでメニューを構成。 ①地域の価値を創造する意識醸成 ②資源活用による起業の基本修得 ③事業企画力、コミュニケーション能力、運営能力の育成。	■同社事業の成功モデルをもとに中山間地域ビジネスの起業ノウハウを公開。中山間地域の産業プロデューサー育成を目指し、社会企業家として知られる同社横石知二代表取締役が全課程で講師を務める。	■島根県が県内市町村における地域産業支援人材の育成を目的として平成19年から実施。
受講対象	■主として中小企業の経営者、従業員等。	■地方へのUJIターン希望者と農村の担い手候補(官民間わず)。(現地研修は1回定員7-12名)	■社会企業家を志向する層、農業での起業を志向する層、いろいろノウハウを深く学びたい層。(1回定員20名)	■30代を中心とする若手の自治体産業振興担当職員、商工会・商工会議所職員等。
研修内容	■実践的な体験型研修(中長期コース中心。課題解決型研修) ■階層・分野別による研修体系(研修テーマの例) ①総合力・能力開発 ②財務・組織 ③販売・営業 ④生産管理 ⑤生産管理 ⑥創業第2創業・ビジネスプラン ⑦税理士向講座	■座学研修 【理論編】 「地域個性の見極め方」「地域での起業の新たな「ものさし」」等。 【実践編】 「地域資源活用」「人材活用」等。 ■現地実習 新潟県上越市 ① 活性化のためのコンセプト立案 ② 地域の個性の見極め方 ③ 人の個性、知恵を活かす ④ 地域個性で「独自の産業化」	■座学研修 「横石知二氏 講義」2回 ■現地研修 「彩農家の視察」 「彩以外の町事業視察」	■座学研修 産業・企業支援に求められる基礎的な知識の取得。 ■企業訪問 県内の注目企業を訪問し、現場を見る目、企業人材とのコミュニケーション能力向上。 ■実習 「SWOT分析」「ビジネスプラン検討」「プレゼンテーション」
日程	■1日～長期研修まで各種	■全5回 ■座学研修:1日×3回(東京都内) ■現地研修:1泊2日×2回(上越市)	■1泊2日研修	■1泊2日研修の6回シリーズ

	中小企業大学校 広島校	まちむら交流きこう 地域産業育成マネージャー研修	(株) いろどり 起業ノウハウセミナー	島根県「しまね立志塾」
講師	■ 中小機構の全国ネットワークを通じて、各分野における実務経験豊富な専門家により構成。	■ 大学教授、中山間地域振興に詳しい専門家(都市側・地方側)、中山間地域における地域づくり実践者、中山間地域の地域資源活用による企業経営で成功事例をもつ実践者により構成。	■ 横石知二氏が全課程講師。	■ 塾頭・関満博一橋大学大学院教授の他、松永桂子島根県立大学准教授、元大手メーカー経営幹部、金融機関の実務担当者により構成。
開催地	■ 広島校校舎の他郊外研修、出張研修	■ 東京都内、新潟県上越市(平成 20 年度)	■ 徳島県上勝町内	■ 島根県内各地、県外視察研修
費用負担	■ 受講料による参加制。雇用・能力開発機構キャリア形成促進助成金制度の活用可	■ 現地研修の場合: 1泊 10,000 円 ■ その他: 懇親会参加費のみ(農林水産省補助事業)	■ 50,000 円(テキスト代、送迎、宿泊費、1日目夕食・2日目朝食・昼食込)	■ 交流会参加費負担
特徴	■ 研修フォローとして、中小機構中国支部の個別相談・専門家派遣、「新連携支援事業」、「販路拡大事業」を準備。 ■ 研修宿泊施設を完備。	■ UI ターン希望者と農山村の担い手候補の交流型研修。 ■ 中山間地域を訪問し、交流体験型研修を実施。	■ 中山間地域のビジネスノウハウのつまったオリジナル教本『いろどりノウハウマニュアル』(経済産業省事業により作成)を活用した仕事づくりの研修。 ■ 彩り産業を支える高齢者の生産現場で学ぶ。 ■ 中山間地域企業が自社事業として、同種の研修を定期開講する事例は少ない。	■ 必ず宿泊を伴った開催とすることで、参加者の意識醸成と志の育成に力点を置く。 ■ 同種の研修のなかで、成果をあげている取り組みとして他県からも注目を集めている。



注目点	【施設を有効活用した内容】 【中小企業全般の育成ニーズ全般を網羅した内容、講師構成】 【フォローメニューとの連動性】	【都市・農村双方の参加】 【農村地域振興との接点】 【座学と活動現場の組合せ】 【実践者中心の講師構成】	【中山間地域の社会企業家の第一人者が直接指導】 【技術移転マニュアル活用】	【若手支援人材の育成に絞った研修】 【参加者の意欲が高い】 【他地域も注目する取り組み】
-----	---	---	--	---

(3) 調査委員会における検討

① プログラムに関する意見

1) 基本方針に関する意見

前年度調査を踏まえた基本構成とする。

一般解ではなく、具体的な企業の商品開発ニーズに応える内容とする。

中山間地域の人材育成にかかる他の研修との整合性に配慮する。

中山間地域の産業立ちあげ段階を支援することに実証研修の意義を置く。

「誰に」「何を目標として」「どの水準で」実施するのかを明確にする。

「50 人の地域ビジネスリーダー」事例集を活かし、研修の特徴付けを行う。

2) 受講対象に関する意見

〔再掲〕:「誰に」「何を目標として」「どの水準で」実施するのかを明確にする。

受講対象者を高い技術・商品力をもち、世界を目指す経営者に絞る。

3) 研修テーマ・プログラムに関する意見

参加者の実践段階、指向性と視察現場先のマッチングがうまくいくよう選定に留意する。

中国地域の産業戦略に基づき、特徴となる産業分野の設定を行う。

総花的にならないよう、焦点を絞り、実効性の高い企画内容とする。

【例: 環境エネルギー、森林資源、農林業、水資源等活用型ビジネス等】

大都市から中山間地域を支えようとする動きをとらえた仕組みを組み込む。

4) 講師・開催地に関する意見

担い手及び支援人材として、産業振興を実践してきた実践者を講師とする。

ケーススタディ型の企画を実施する場合は、協力団体の理解を得て進める。

講師には第一線で活躍している経営者を迎える。

使用施設の収容能力も考慮して研修規模設定する。

5) まちづくりビジネス・カフェに関する意見

カフェは自己満足に終わる懸念があり、効果が期待できない。

意義ある企画だが、地元との信頼関係づくりを行う過程が必須であり、今回は難しい。

② 調査委員会意見のプログラム反映方向

1) 基本方針

- H20 年度「担い手調査」を踏まえ、以下の修正を行う。
- ・「担い手」「支援人材」「カフェ」の3研修をひとつの研修とする。
- ・上記研修を2泊3日(1回開催)の日程で実施する。
- ・研修内容の実施コンセプトは、対象とする次世代担い手候補層等(下記2)参照)に対する、「地域資源を活かしたビジネスモデル構築」とし、テーマを絞った内容とする。(下記3)参照)

2) 受講対象層

- 担い手研修については、50 人の地域ビジネスリーダーに続く、次世代リーダー候補層とする。
- 支援人材研修については、上記担い手研修参加者が所属する企業の立地する自治体等職員(実際に企業支援にあたる中堅層)とし、カップリング参加の効果検証を行う。

3) 研修テーマ・プログラムの内容

- 研修プログラムのテーマを「地域資源活用ビジネスの立案」とし、産業戦略とトレンドを踏まえた資源活用方向を「健康・環境」とする。
- ケーススタディ先は、「健康・環境」ととらえた地域資源活用ビジネスの実践企業の視察先として位置付け、原案にある「事業化提言」ではなく、参加者による自社ビジネスの「ブラッシュアップ・プランの立案」に反映する。
- 中山間地域の企業及び事業と連携している企業・支援機関等からの講師を選定する。(下記4)にも記載)

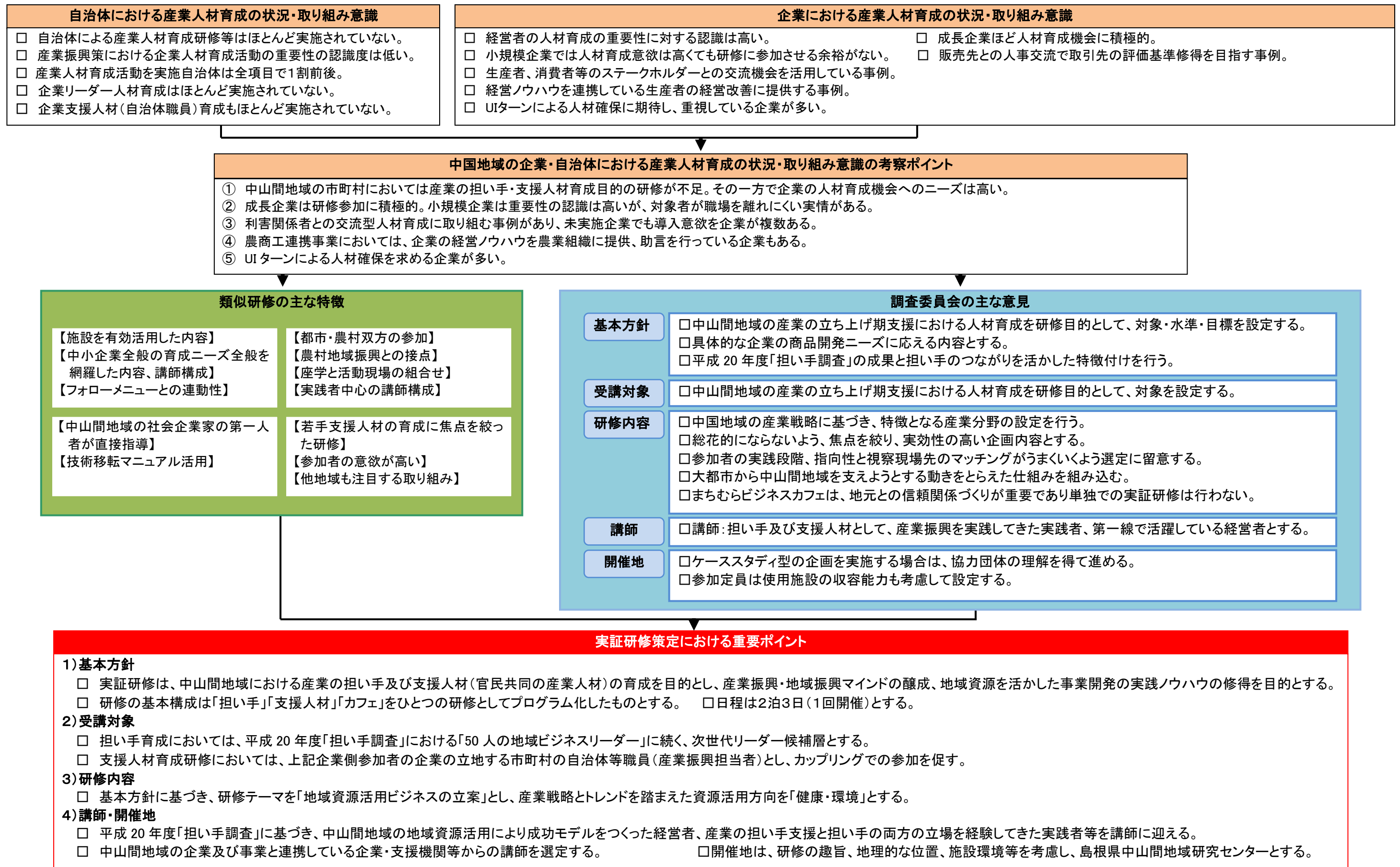
4) 講師・開催地

- 地域資源活用による成功モデルをつくった経営者を講師として迎える。
- 支援と担い手の両方の立場を経験してきた講師を迎える。
- 中山間地域の企業及び事業と連携している企業・支援機関等からの講師を選定する。

5) まちづくりビジネス・カフェ

- 上記1)に基づき、全体研修のなかで開催する。
- 現地開催でなく、「持ち寄り交流会」の形態で実施する。

(4) 実証研修の検討フレーム



2. 実証研修実施案の策定

1（4）で整理した実証研修策定における重要ポイントを踏まえて、実施概要とそれに基づく研修プログラムの検討を行った。

なお、検討にあたっては、当調査委員会委員及びメイン講師を務めていただいた中澤さかな氏（山口県萩市・道の駅萩シーマーと駅長）から貴重な助言、提案をいただき、内容に反映した。

（1） 実施概要

① 研修講座名

産業の担い手及び産業支援人材育成研修

②研修基本方針

この研修は、中国地域の中山間地域にあって、地域資源の活用によるビジネスモデルを確立するとともに、雇用創出、経済活動の活性化等をはじめ、様々なかたちで地域社会に貢献している企業経営者や市町村の産業支援人材の方々の実践の足跡と成長過程そのものを生きた教本と位置づけ、各地域において次世代の産業の担い手及び支援人材を育成することを目指して実施するものである。

③研修テーマ

- ☐基本テーマ「地域資源活用による中山間地域ビジネスの創出手法を学ぶ」
- ☐具体的テーマ「食と健康に関する地域資源を活かした中山間地域ビジネスの開発」

④開催日時

平成 22 年 1 月 20 日（水）13：00～同年 1 月 22 日（金）12：00（2 泊 3 日研修）

⑤開催場所

島根県飯南町（島根県中山間地域研究センター及び視察現場）

⑥受講対象

産業の担い手

平成 20 年度「担い手調査」で調査対象となった中国地域の中山間地域で活動する注目すべき企業等 50 社・団体の正社員または正職員で、次世代の担い手として期待される人

産業支援人材

上記企業の立地する市町村の産業担当課または産業支援機関における若手・中堅職員

⑦研修プログラム策定コンセプト（本研修の特徴）

1）中国地域の中山間地域で活躍する産業の担い手に学ぶ現場重視の研修プログラム

中国地域の中山間地域における産業の担い手が有する実践ノウハウを次世代の担い手及び産業支援人材に提供してもらうことで、中山間地域産業の振興に関する形式知と暗黙知を学び、継承する場とする。

2）官民協働参加による学び合う研修プログラム

中山間地域産業の成功事例には、企業活動を熱心に支援する信頼できる行政職員とのパートナーシップが成立していたことがあげられることから、相互理解の促進と学びあいの場とする。

3）開催地の産業課題解決型ケーススタディで地域貢献性をもった研修プログラム

開催地の地域資源活用による産業振興方策の課題をもとに、ケーススタディのテーマを設定し、講師と受講生が地元関係者の協力を得ながら、課題解決についてワーキング形式で検討・提案する場とする。

⑧プログラムの基本構成

1) 中山間地域の産業の担い手、支援人材としての意識醸成を目的とする講義
2) 地域資源活用により「食と健康」型の事業開発ノウハウを実践者に学ぶ講義
3) 上記2の手法と考え方を深めるケーススタディ型ワーキング
4) 地域資源活用により「食と健康」型の事業開発に成功した起業家・支援人材訪問
5) 解説講義によるポイントの理解深耕

⑨ワーキングのプログラム

1) 実施目的

地域資源活用により「食と健康」型の事業開発ノウハウを実践者に学ぶ講義（上記⑧-2 参照）受講後に、講義内容を踏まえた実習活動を行うことで講義内容のポイントの定着を図ることを目的として実施する。

2) コンセプト設定の前提

中山間地域といえども様々な環境、条件の異なる中国地域各地からの参加を求めること、開催地とのつながりを重視する視点をもつことで次年度以降、市町村等からの開催協力を得やすくする工夫が求められることの2点を踏まえたワーキングとすることが求められる。

3) コンセプト

開催地（島根県飯南町＝中山間地域）における産業振興の課題を発見し、その課題解決をテーマとするケーススタディ型のワーキングとする。

4) ワーキング・プログラム

ケーススタディ

飯南町が特産として開発に力を入れているヤマトイモの販売戦略の立案
グループ演習形式

ワーキングの流れ（講師中澤さかな氏作成）

第1回ワーキング【地域資源の与件把握①】

- ☐ 対象資源（今回はヤマトイモ）のポジショニングを明確にするため、地元の生産者、加工業者、行政担当者に取材を行い、製品や生産手法の特徴、各種データ、製品にまつわるストーリー、郷土料理等に関する情報収集を実施する。
- ☐ 収集した情報をもとに、最初のSWOT分析を行う。

第2回ワーキング【地域資源の与件把握②】

- ☐ 対象資源について、他産地の製品化状況や販促プロモーション状況及び製品の認知度や利用意向について検証し、特記事項を箇条書きでピックアップする。
- ☐ 対象資源のセールスポイントを端的に象徴するキーワードに整理し、キャッチフレーズにまとめる。
- ☐ 対象資源のネックと対処策の仮案をリストアップする。

第3回ワーキング【製品プロデュース～PR広報&販促プロモーション】

- ☐ 与件検証の作業を踏まえ、主要なターゲット層・ターゲットエリア・チャネルを仮設定する。
- ☐ ターゲットをイメージし、商品化（メニュー・加工品）のアイデアをリストアップする。
- ☐ PR手法について優先順位をつけてリストアップする。
- ☐ PR&販促イベントを立案する
- ☐ 販路確保の手法について優先順位をつけてリストアップする。

(2)産業の担い手及び産業支援人材育成研修プログラム

□1月20日 水曜日 [1日目]

時間	プログラム		備考	
12:00	受付開始			
13:30	オリエンテーション 1. 開会あいさつ 2. 研修実施にあたって	中国経済産業局 (株)シーズ総合政策研究所	演習の進め方 研修の留意点	
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
14:00	『中山間地域における地域資源活用 ビジネス成功法』【60分】	緒方英雄氏 大分県日田市 (株)おおよ ま夢工房取締役総支配人 (元 大山町職員)	大分県日田市大山町における地域資源活用ビジネス成功 実践例を通じて、「地域資源の見かた、事業構想力・構想推 進力」「地域振興＋産業振興＋企業振興の視点の融合」 「企業等民間人材の役割 行政職員の役割」等について学 ぶ。	本研修全体のテーマの理解 を促し、参加者の目的意識 を共有する。
15:00	□解説講義 『講義をめぐっての意見交換』 【30分】	後藤昇氏 広島県自治総合研修セン ター研修企画監 広島大学大学院客員教授	【全体ワーキング】 参加者と講師の意見交換のコーディネートによるワーキン グを実施する。	上記講義内容の理解深耕を 図る。
15:30	【休憩 10分】			
15:40	『地域産業リーダーが伝授する地域 資源活用ビジネスの展開～食と健 康の視点から』 「①地域資源の与件整理とポジショ ニング評価」【60分】	中澤さかな氏 道の駅萩しーまーと駅長	資源活用ビジネスにおける情報収集活動の重要性を理解 するとともに、資源の価値を見抜き事業価値の分析方法に ついて、実践事例を通じて学ぶ。	H20年度「担い手調査」にお ける「50人の地域ビジネスリ ーダー」の一人である中澤 氏を講師に迎え、実践的な マーケティングのノウハウの 理解深耕を図る。
16:40	【バス乗車により移動】 飯南町役場2F 会議室でのワーキング 道の駅赤来高原視察			

時間	プログラム		備考	
16:50	□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90 分】 ■訪問先① 飯南町役場2F 会議室 ■訪問先② 道の駅赤来高原	解説講師 後藤昇氏 取材助言 中澤さかな氏 地元講師 飯南町役場 田部宏幸氏 道の駅赤来高原 専務取締役 宮脇良晴氏	①地元講師からの概要説明 20 分 ②ワーキング 60 分 ③道の駅視察 10 分程度 飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。第 1 回は、上記講義を踏まえて、関係者取材を実施し、ヤマトイモの情報収集とポジショニング整理、問題発見の演習を行う。	地域資源活用事業の事業化における第一段階である「情報収集とポジショニング整理」を体験実施し、問題発見能力の向上を図る。
18:20	終了			
18:25	【バス乗車により移動】⇒中山間地域研究センター			

【交流プログラム】

時間	プログラム	備 考
18:30	参加者宿泊棟へ移動 休憩	
19:00	宿泊棟内食堂集合	
19:00	ビジネス交流会 ゲストを交えての交流会	①ヤマトイモ焼酎開発に関する事例紹介 道の駅赤来高原専務取締役 宮脇良晴氏 ヤマトイモ生産組合長 山崎一二三氏 ②参加者交流会 参加者自己紹介 情報交換

□1 月 21 日 木曜日 [2 日目]

時間	プログラム		備 考	
7:00	朝食			
7:55	研修棟 正面玄関集合			
8:00	バス乗車 出発			
【バス乗車により移動】⇒桜江町桑茶生産組合				
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
9:30	『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』【60 分】 ～地元で忘れられていた桑を見出し、商品化に成功した I ターン夫婦の起業物語～	古野房子氏 (有)桜江町桑茶生産組合 常務取締役	①工場見学【15 分】 ②現地講義【45 分】 社長である夫・俊彦氏とともに事業開発・創業に尽力し、現在も経営者として妻として俊彦氏を支える房子常務の実践事例を学びます。	「資源の発見から活用」 「商品開発の試行錯誤」 「事業経営」「人材育成」についての気構え、リーダーとパートナー連携、後継者育成の重要性を学ぶ。
10:30	【バス乗車により移動】⇒風の国			
10:50	『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』【70 分】 ～桑茶事業を成功に導いた行政と起業家の協働に学ぶ～	釜瀬隆司氏 江津市建設経済部長 古野房子氏 コメンテーター 後藤昇氏 進行 事務局	①釜瀬隆司氏講義【20 分】 I ターン者である古野氏の経歴に着目し、事業化を支援。新産業創出と雇用の場の拡充を推進してきた行政側のキーパーソンに成功要因を学ぶ。 ②トークセッション 釜瀬氏及び古野氏のお話をもとに、中山間地域における企業と行政の協働のすがたを考える。	中山間地域における資源活用ビジネスの事業化に欠かせない要素である行政と企業の協働について実践例からその重要要因を学ぶ。
12:00	◆ランチタイムミーティング【60 分】 昼食とりながら、参加者を交えての意見交換			参加者からの質問、意見交換を交えて理解を深める。
13:00	【バス乗車により移動】⇒中山間地域研究センター			
15:00	地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から 『② 地域資源のプロデュース その手法あれこれ』【60 分】	中澤さかな氏 道の駅萩しーまーと駅長	商品づくりの実践事例を通じて資源活用ビジネスのプロデュースのポイントを学ぶ。	中澤さかな氏を講師に迎え、実践的なマーケティングのノウハウの理解深耕を図る。

時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
16:00	□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90 分】	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。第 2 回は、上記講義を踏まえて、前日整理したポジショニング等の分析結果を踏まえ、商品化に向けた開発シナリオを作成する。	地域資源活用事業の事業化における重要段階である「事業化仮説の立案・検証」「開発・プロデュース」力を演習により習得を図る。
17:30	自由時間			

【交流プログラム】

時間	プログラム	備 考
19:00	宿泊棟内食堂集合	
19:00	ビジネス交流会 ゲストを交えての交流会	『わが社・わがまち 自信の品プレゼンテーション』 参加者からの持ち込み商品の紹介と品評会 コメンテーター 中澤さかな氏 竹岡宏文氏 (ひろしま信用金庫インキュベーションマネージャー) 陣山繁紀氏 (中国経済産業局総務企画部長)
21:00	終了	

□1 月 22 日 金曜日 [3日目]

時間	プログラム		備 考	
7:00	朝食			
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
8:15	地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から 『③ PRと販路確保プロモーション手法』 【75 分】	講師 中澤さかな氏	商品づくりの実践事例を通じて資源活用ビジネスの販路獲得のポイント、プロモーションのポイントを学ぶ。	中澤さかな氏を講師に迎え、実践的なマーケティングのノウハウの理解深耕を図る。
9:30	□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90 分】	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。最終回となる第 3 回は、上記講義を踏まえて、前 2 回を踏まえ、商品の販路開拓・販売戦略とプロモーション手法を検討する。	地域資源活用事業の事業化における重要段階である「事業化仮説の立案・検証」「開発・プロデュース」力を演習により習得を図る。
11:00	休憩【10 分】			
11:10	□ワーキング成果発表 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」 【各発表 10 分×2 班＋講評】	発表 研修生 助言者 中澤さかな氏 進行 事務局	研修生のグループワーク結果を発表し、講師からの助言をいただくとともに、自身の事業計画への反映を考える。	成果発表による目標達成の程度を確認するとともに、助言をもとに自身の活動に反映出来るテーマやポイントを整理する。
12:00	◆ランチタイムミーティング【60 分】 講評 全体を通じての意見交換 受講証授与	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	研修全日程を通じてのポイントを講評いただく。	研修成果を今後の自身の活動に反映する上でのまとめを行う。
13:00	研修終了			

3. 実証研修の実施準備
(1) 講師依頼

①講師一覧

講義名	講師名	所属等
基調講演	緒方 英雄 氏	(株)おおやま夢工房 取締役総支配人、 元 大分県日田市大山町職員
【経歴】 □大分県大山町役場職員時代に「一村一品運動」の先駆者・矢幡町長のもと、「梅・栗植えてハワイに行こう」として知られる産業おこし・NPC運動を推進。 □農山村ではもっとも早くCATVの導入を手がけ、産業振興と情報戦略に関する重要性を訴える等、全国の地域づくりに大きな影響を与えてきた。 □町参事を経て定年を前に2002 年3 月役場退職。 □同年4 月第3セクター「豊後・大山 ひびきの郷」総支配人就任。 □産業支援の立場から産業の担い手に転身。この間、「豊の国ふるさと祭り」や「梅干しの全国コンクール」「九州ダムサミット」「おおやま生活領事館イン福岡」開設等を手掛け、「大山の梅」を紀州産に務らぬブランドに育てました。また、高級梅酒の商品化に取り組み、2006 年6 月、フランス・ボルドー・ワイン・フェスティバルで商品発表。国内外で大きな話題を集める。 □現在、同社の高級梅酒は、フランス、アメリカ、香港等海外でも人気商品となっている。農商工連携88 選 選定企業。		
【ねらい】 村づくり先進地・大分県旧大山町職員としての産業支援経験、経営者としての企業経営経験という官民双方の立場で地域産業を牽引してきたご経験から、中山間地域型ビジネスの成功に果たす官民それぞれの役割、協働の重要性等について学ぶ。		
講義名	講師名	所属等
リーダー直伝 実践マーケティング講座（3回講座）	中澤 さかな氏	道の駅 萩しーまーと 駅長 (山口県萩市)
【経歴】 □道の駅萩しーまーとは、中国地方有数の人気道の駅として知られるスポットである。 □中澤さかな氏は、観光地として全国に知られる萩市にあって、顧客対象を地元購買者に設定するなど、当初想定されていた観光型道の駅の問題点や施設への過剰投資による運営上の問題を見抜き、地産地消をテーマとするコンセプトに転換させた中心人物である。 □大手情報出版社で長年マーケティングを手掛け、様々なプロジェクトを成功に導いてきた経験をもつ。 □魚好きが高じて、海のまち萩にIターンしたのが、同施設を任されたきっかけとなった。		
【ねらい】 中澤氏が前職時代に業務を通じて修得されたマーケティング技術と経験に、萩での実践・成功体験からの検証を加味して生まれた、現場起点のマーケティング論を学ぶ。		
講義名	講師名	所属等
企業訪問（起業家 支援人材）	古野 房子氏 釜瀬 隆司氏	(有) 桜江町桑茶生産組合 常務取締役 島根県江津市建設産業部長
【経歴】 □中国地方随一の大河であり、氾濫を繰り返してきた江の川流域では、かつては養蚕業が暮らしを支えていた。しかし、戦後は養蚕業が急速に衰退し、町内の桑園も栽培されず、放置されていた。 □I ターンで同町に移住した古野さん夫妻は、この桑を活かした事業開発を構想。様々な苦勞を乗り越え、桑茶を主軸とする健康食品事業を確立した。その構想力と情熱は中山間地域起業家のモデルとなっている。 □古野氏の事業を行政の立場で支援し成功に導いたのが、江津市建設産業部長 釜瀬隆司氏である。 □その取り組みは中山間地域で行政が企業振興、産業振興に果たす役割のモデルとして注目されている。		

【ねらい】 地域産業おこしと雇用の場づくりに情熱を燃やし、全国的にも注目を集める成功モデルをつくりあげた、担い手と支援人材(行政職員)の講義と現場訪問により、中山間地域産業振興における官民協働の重要性を学ぶ。		
講義名	講師名	所属等
解説講義他	後藤 昇氏	広島県自治総合研修センター研修企画監 広島大学大学院客員教授
【経歴】 □広島県庁入庁後、総合研究開発機構研究員等を経て、広島県政策企画局主任企画員、同国際企画室事業調整監等を歴任し、市町村行財政、公営企業経営、教育行政、空港行政等の他、国際貢献分野では、国連機関誘致、カンボジア支援等のプロジェクトを担当。この間、政府系シンクタンクで、国土政策研究等に携わる。 □広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻(地域経済論)教授を経て、現在、広島県自治総合研修センター研修企画監、広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻客員教授。 □2007年度 中国経済産業局「地域資源を活用した新事業創出方策検討委員会」委員長。 □2009年度 中国経済産業局「地域産業の担い手及び支援人材育成検討委員会」委員。 □人材育成機関にあって市町村職員を対象とする様々な研修を実施している他、地域政策にも精通している。		
【ねらい】 実践を行ってきた講師による講義のポイント解説や受講生が自身の課題解決に活用を図るための解説講義をとおして、重要ポイントを学ぶ。		

②講師依頼とその他の承諾事項

講師には、事前に講義に関する依頼内容の他、下記の項目に関して文書で承諾をいただいた。
☐ 講義中の写真撮影 ☐ 講義の録音 ☐ 講義状況写真の経済産業局 HP 及び同調査サイト「担い手たちの挑戦」への掲載

③開催会場等協力機関の調整

- 1) 島根県中山間地域研究センターとの調整
事前に3度訪問の上、担当者との協議を行った。主な協議事項は下記のとおりである。
 - ・使用会場に関する事
 - ・使用備品に関する事
 - ・上記の使用時間に関する事
 - ・宿泊に関する事
 - ・交流会の料理手配に関する事
 - ・その他
- 2) 島根県飯南町等との調整
事前に3度訪問の上、町担当者、道の駅赤来高原経営者との協議を行った。主な協議事項は下記のとおりである。
 - ・ワーキングでの会場利用に関する事
 - ・ワーキングでのレクチャー依頼に関する事
 - ・ワーキングの進め方に関する事
 - ・ヤマトイモに関する資料提供に関する事
 - ・交流会に関する事
 - ・その他

3) (有) 桜江町桑茶生産組合等との調整

事前に1度訪問の上、同組合古野常務取締役、研修会場となる「風の国」担当者との協議を行った。主な協議事項は下記のとおりである。

- ・講義の内容に関する事
- ・視察の進め方に関する事
- ・講義資料の作成に関する事
- ・会場使用及び使用設備に関する事
- ・昼食に関する事
- ・その他

4) 各講師との協議

大分県日田市からお招きする緒方英雄講師以外の講師には、事前に面談形式で研修概要の説明、講義内容に関する協議を行った。

④参加募集と参加状況

1) 参加者募集

参加者募集にあたっては、会場宿泊施設の収容人数を考慮し少人数形式で実施することとし、公募方式ではなく、研修テーマ、内容と同種あるいは類似の事業を行っている企業団体に対して、個別に募集を行った。その上で、参加希望のあった企業が立地あるいは関係する市町村の産業振興担当課に対して参加の呼びかけを実施した。

2) 参加者状況

参加者の属性は以下のとおりである。

☐全課程受講 11 名（一部受講 1 名）

☐所属機関（全課程受講者）

・企業（食品製造業）：5 人、NPO：2 人、行政 4 人

☐地域（全課程受講者）

・鳥取県：3 人、島根県：4 人、岡山県：3 人、広島県：1 人

第3章 実証研修の実施と成果の検証

1. 実証研修の実施

研修1日目

研修講座のねらい①
産業の担い手と支援人材がともに、考え、話しあう機会の設定により、中山間地域の産業振興に必要な人材の育成と連携・協働の重要性を認識してもらい、参加者意識の共有化を図る。
研修講座のねらい②
中澤さかな氏を講師に迎え、中山間地域での実践により得た考え方とノウハウを学び、実践力の向上を図る。
研修講座のねらい③
中山間地域で実践に取り組んでいる官民の参加者によるワーキングによる講義内容の確実な定着促進。

講義 中山間地域における地域資源活用ビジネスとリーダー像

講師 緒方英雄氏 大分県日田市 (株)おおやま夢工房取締役総支配人 (元 大山町職員)

行政職員として産業振興と地域振興をカリスマ町長のもとで推進し、その後、町3セク経営者に転身。経営者として海外からも高い評価を受ける商品を開発・企業を発展させてきた緒方英雄講師から、以下のテーマについて学んだ。

【講義のポイント】

- 地域資源の見方、資源活用への事業構想力
- 地域振興、産業振興、企業振興の共通性
- 民間の役割 行政の役割
- 求められる産業振興のためのリーダー像



【緒方講師資料(抜粋)】

■産業の担い手及び支援人材育成研修会

2010

考え方を考える 学習を必要とする 理性型メディア 欲求水準高い
感じ方を考える 学習を必要としない 感性型メディア 一般大衆
 人づくりには大きく組織コアメンバーの育成と、住民たちの意識向上や意欲づけの二つがある。更に、地域づくりには、その地域に必要な技術の習得も大事な要素である。

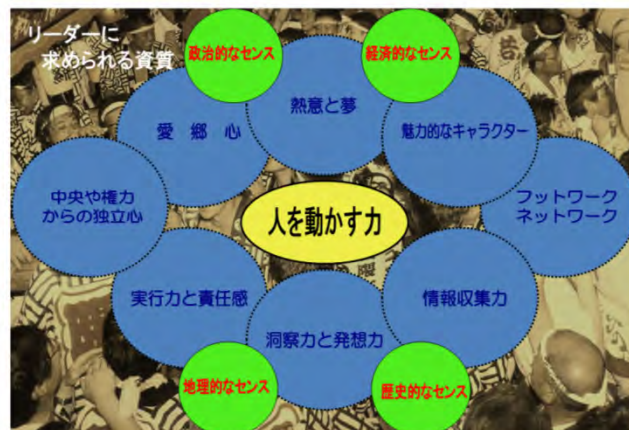
プロ集団としての役場職員研修

1. 人づくりの要諦
 人材育成の基本はOJT (on the job training) である。ただし、仕事がルーチンワークでなく新しい試みである場合が多い。新しい仕事にで自力で挑戦することで人は育つ。
 人材育成のためには、権限、責任、猶予を与えること。選材選所、外の刺激を与えること、学習と実践を重ねることが大事である。
2. 住民の啓蒙
 住民啓蒙の手段としては住民の生涯学習を兼ねた動のような場づくり、地域外への研修、情報メディアの日常的な利用がある。
3. 必要な技術
 生産技術だけでなく、デザインや企画、運用の技術も大事である。技術は利用者、消費者への気配りが基礎にあること。デザイン・イベント企画では新しい時代感覚や遊び感覚の導入を図る。



■産業の担い手及び支援人材育成研修会

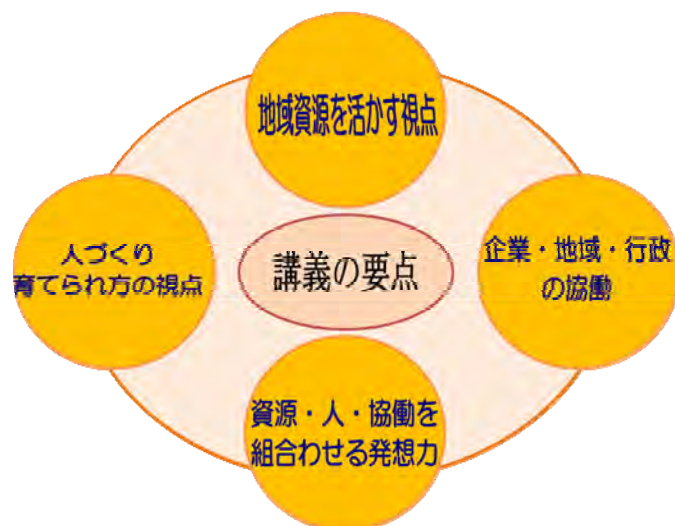
2010



解説講義 緒方講師講義をめぐっての意見交換

講師 後藤 昇氏 広島大学大学院 客員教授、緒方英雄氏

地域資源による事業創出等に詳しい後藤講師に緒方講師の講義内容を整理・解説いただくことで、理解を深め、講義の重要ポイントを共有した。



講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』

1 地域資源の与件整理とポジショニング評価

講師 中澤さかな氏 山口県萩市 道の駅 萩シーマート 駅長

大手情報出版会社を退職し、萩市にIターンした中澤講師が、これまでに修得されたマーケティングスキルを活かし、食の資源のプロデュースに成功した過程を通じて、実践的な資源活用のためのマーケティングノウハウを学んだ。

【講義のポイント】

- 資源の特性把握の重要性と進め方
- 他産地・市場動向把握の重要性と進め方
- 徹底的に情報を調べ尽くす・取材力の重要性
- 対象資源のセールスポイント キャッチフレーズ
- 対象資源のネックと対処策の仮説設定

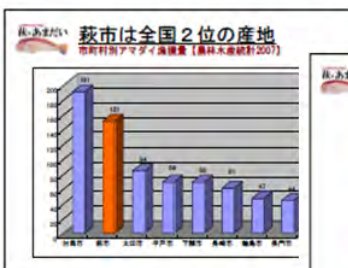


【中澤講師資料(抜粋)】



捨てていた魚は高級フレンチだった。

- ・スズキ目>ヒメジ科 地方名は「金太郎」
- ・都市部での知名度は全く無し
- ・成魚20cm・100g 体は淡赤色・尻びれに模様
- ・藩政時代から庶民の魚として愛されてきた
- ・伝統的な郷土料理が豊富
- ・現在でも普段使いの雑魚扱い
- ・水深100m内外に生息、通年味の変化なし
- ・産卵期は夏(萩では6月～7月休漁)
- ・骨が強く調理に手間が掛かる
- ・全国的に小型底引で混獲、量がまとまらない
- ・漁獲量70トン是全国有数?
- ・価格は220円/kgで最下層レベル
- ・東京築地市場でもめったに見かけない
- ・高級フレンチ Rouget de Vase の近縁種
- ・加工品は丸干しのみ



ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する-1』

講師 後藤 昇氏、中澤さかな氏

田部宏幸氏 島根県飯南町役場職員、宮脇良晴氏 道の駅赤来高原 専務取締役

□商材に関する聞き取り取材



□販売先取材調査



□第1次 SWOT 結果の講評



研修2日目

研修講座のねらい①
中山間地域にあって、未利用資源に着目し事業化に成功した起業家を訪問し、地域への思いと事業への情熱等、経営の現場に学ぶ。
研修講座のねらい②
地域資源を活用した事業創出を官民の連携・協働により実現した事例から行政と民間の連携の重要性と可能性を感じる。
研修講座のねらい③
中澤さかな氏を講師に迎え、中山間地域での実践により得た考え方とノウハウを学び、実践力の向上を図る。
研修講座のねらい④
中山間地域で実践に取り組んでいる官民の参加者によるワーキングによる講義内容の確実な定着促進を図る。

企業訪問 『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』

～地元で忘れられていた桑を見出し、商品化に成功した！ターン夫婦の起業物語～

講師 古野房子氏 島根県江津市桜江町 有限会社 桜江町桑茶生産組合 常務取締役

福岡市から桜江町に夫婦で移住。夫婦で桑茶の商品化に取り組む。二人の構想力と地域ビジネスの開発にかける情熱が、多くの人々の共感と呼び、ヒット商品に成長させた。古野氏の講義を通じて、中山間地域における起業家の本音に触れた。

【講義のポイント】

- 桑の葉に着目した発想力
- 事業創出にかけた起業家の情熱と努力
- 機能性食品としての付加価値づくり戦略
- 移住者と行政、住民の協働の重要性



講義 セッション『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』

～桑茶事業を成功に導いた行政と起業家の協働に学ぶ～

講師 釜瀬隆司氏 島根県江津市建設経済部長

古野房子氏、コメンテーター 後藤昇氏

古野夫妻の桑茶の商品開発を終始支え、中山間地域の産業創出と雇用機会の創出を達成した行政のキーパーソン・釜瀬氏の講義やトークセッションを通じて、中山間地域の産業振興における人材間連携・協働の重要性を学んだ。

【講義のポイント】

- 移住施策における人材誘致の視点
- 地域産業振興に果たす行政職員の役割
- 地域発のオンリーワン商品開発における協働の重要性



講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』

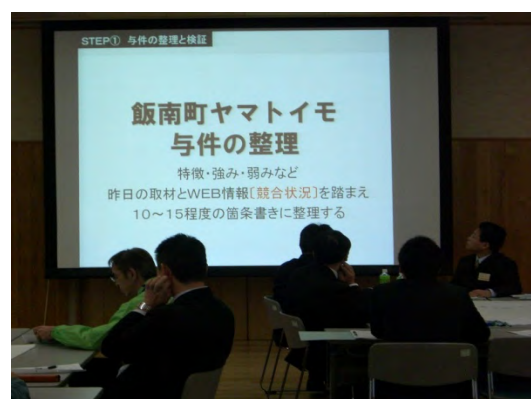
2 地域資源のプロデュース

講師 中澤さかな氏

中澤講師のマーケティングスキルを活かし、食の資源のプロデュースに成功した過程を通じて、実践的な資源活用のためのプロデュースの手法と立案から展開までを学んだ。

【講義のポイント】

- マーケット想定
(主要ターゲット層・ターゲットエリア・チャネル)
- 商材(メニュー・加工品)アイデア



【中澤講師資料(抜粋)】



ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する-2』

講師 中澤さかな氏

中澤講師の講義内容をもとに、ヤマトイモの生産・加工商品の製造販売情報の取材結果とインターネット活用による情報収集作業からグループでの SWOT 分析・ポジショニング分析等を整理し、プロデュースのための戦略を検討した。

□ ネットを活用した情報収集



□ ポジショニング分析・第2次 SWOT 分析



**交流会『わが社・わがまち 自信の品プレゼンテーション』 参加者からの持ち込み商品の紹介と品評会
～まちむら・ビジネス・カフェ形式～**

プレゼンテーション 発表者（6名）

（株）ふるさと鹿野（鳥取市） 「麦焼酎」

鳥取県大山町 「ピーナッツ製品」「日本酒」

NPO 法人てっちりこ（岡山県鏡野町） 「唐辛子しょうゆほか唐辛子加工食品」

島根県雲南市 「日本酒」「唐辛子加工食品」

（株）吉田ふるさと村（島根県雲南市） 「たたらを活かした観光商品企画」

（有）奥出雲椎茸（島根県奥出雲町） 「生しいたけ」

コメンテーター

中澤さかな氏

竹岡宏文氏

広島信用金庫お客様サポート部 インキュベーションマネージャー

当初、まちむらビジネス・カフェとして開催を想定していたプログラムを参加者によるプレゼンテーションと関係者による合同ブラッシュアップの機会として開催した。プレゼンテーションでは、受講生が自慢の商品の紹介や商品の改善課題について、アドバイザーや参加者に意見を求めたいポイント等について短時間でまとめて発表した。

講師からは、商品の品質、商品表示、パッケージ、販売ターゲットやPR手法等についての助言があり、受講生間の意見交換も行った。



研修3日目

研修講座のねらい①
中澤さかな氏を講師に迎え、中山間地域での実践により得た考え方とノウハウを学び、実践力の向上を図る。
研修講座のねらい②
中山間地域で実践に取り組んでいる官民の参加者によるワーキングによる講義内容の確実な定着促進を図る。
研修講座のねらい③
官民参加者の混成チームによる成果のとりまとめと発表。講師からの各プランに対するブラッシュアップのポイント助言、可能性評価等を受け、自身の業務へのフィードバックと自信の獲得。

講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』

3 PRと販路確保プロモーション手法

講師 中澤さかな氏

中澤講師のマーケティングスキルを活かし、商品の PR から販路確保、プロモーション手法に関する立案から展開までを学んだ。

【講義のポイント】

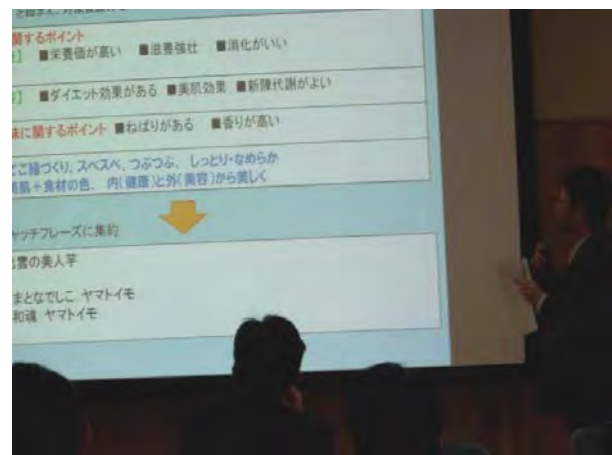
- VIS と PR ツールの整備
- イベントとパブリシティ
- 都市部での販売チャネルの確保



ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する』

講師 中澤さかな氏

中澤講師の講義内容をもとに、グループごとにヤマトイモ商品の絞り込みからプロデュース戦略、販路確保の取り組みに関する基本戦略を整理し、全体をとりまとめた。



【ワーキング成果発表（抜粋）】

受講生がグループ討議形式で検討してきたヤマトイモ産品開発企画をまとめ、プレゼンテーションを行った。発表内容に対しては、中澤講師が講評を通じて、助言を行った。

Aー資源の与件ピックアップ ワークシート作成: 中澤講師 受講生の発表内容から

③キーワード抽出
①+② を踏まえ、対象資源のセールスポイントを5つのキーワードにまとめる。

1 効能に関するポイント 【ア 健康】 ■栄養価が高い ■滋養強壮 ■消化がいい
【イ 美容】 ■ダイエット効果がある ■美肌効果 ■新陳代謝がよい
2 味・風味に関するポイント ■ねばりがある ■香りが高い
女を置いてご縁づくり、スベスベ、つぶつぶ、しっとりなめらか 「白」⇒美肌+食材の色、内(健康)と外(美容)から美しく

1本のキャッチフレーズに集約

A案: 奥出雲の美人芋
B案: やまとなでしこ ヤマトイモ
大和魂 ヤマトイモ

Aー資源の与件ピックアップ ④ネックの解消対策

①+② を踏まえ、対象資源のネックと対処策の仮案をリストアップ

ネック	対処策
生産量が少ない	希少な食材としての価値を訴える戦略を立案する
日もちにくい	冷凍保存商品の開発 泥つきの場合、生鮮品でも日持ちする...泥つきの状態で販売
アクが出る	アクのプラス効果はないのか?さらに調査が必要
ホーミング...他商品と混同しやすい・紛らわしい	現在の商品名はパンチに欠け、消費者に強い印象を残さないで新たな商品名で販売する。

Bー産品プロデュース ②商材アイデア

ターゲットをイメージし、商品化(メニュー・加工品)のアイデアをリストアップする。

製品(メニュー)仮称	内容・特徴
山芋バーガー 商品化して販売	チーズ+山芋ハンバーグをはさんだバーガーor山芋をパンズにしたバーガー、家庭で手軽に作れるパッケージ売りも。
やまといものアンチョビ チーズ焼き 商品化して販売	チーズと組み合わせた料理
ヤマトイモの食べ切りとろろ パッケージ	ヤマトイモとろろを納豆のパッケージ売りのような感覚で商品化
トトロパッケージ 丸ごと朝食セット	上記商品をメインとした朝食セット品。卵、奥出雲米とともに。
山芋ハンバーグ+パッケージ セット	お肉、山芋、チーズをセットに。
ヤマトイモのフライドポテト	ハンバーグのサイドメニューとして、また、単品として、ダイエットが気になる女性にはノンフライ高も
ヤマトイモチップス	高級チップスとしてノンフライ、低カロリー商品として

CーPR広報&販促プロモーション ①PR手法

PR手法について優先順位をつけてリストアップする。

利用メディア	PRエリア	対象商材	訴求ポイント
20代女性読者の雑誌	首都圏・都市	チーズアンチョビ焼き	健康、美容、お酒のつまみ
タウン情報誌	都市	山芋バーガー	ヘルシー 体脂肪が気になる方へ
パブリシティ	地元	山芋バーガー	
フリーペーパー	地元	山芋バーガー	

CーPR広報&販促プロモーション ②イベントプロデュース

イベント名称	実施エリア	イベントのメインプログラム
①チーズアンチョビ焼き 奥出雲から届ける 洋風楽膳	首都圏・都市 アンテナショップ (日本橋店)	洋風楽膳イベントという新しい楽膳を提案する中のメニューのひとつとして
②山芋バーガー ご当地バーガー サミット	道の駅赤来高原	各地(奥出雲、葛山など)のバーガーを集めて

③販促プロモーション手法

利用機会	対象エリア	対象チャネル	対象商材など
商談会	広島 首都圏	商談会 業務用	チーズアンチョビ焼き
		小売チャネル	チーズアンチョビ焼き
	地元		山芋バーガー



【研修終了後 受講生による意見交換】

研修プログラム終了後、受講生による研修受講後の感想や改善要望等についての意見交換を行った。主な意見は下記のとおりであった。

【意見交換での参加者の受講後感想】

- 民間の方と一緒に研修を受けたことで発想の違いやもっている情報、視点の違いに刺激を受けた。(官)
- 受講のみでなくワーキング形式だったのがよかった。学んだことをすぐに演習することで修得レベルがあがった。(官)
- 地元を歩き、徹底的に取材することの重要性を認識した。(官)
- 地域資源活用商品の開発にはビジネス化するための覚悟と地域や商品への深い愛情が不可欠であると感じた。(民)
- 一定期間を置いて再度受講し、自分の成長度合いを検証したくなるような研修だった。(民)
- わかりやすい指導で役立った。会社で実践したい。(民)
- 情報を調べ尽くすことが大切と感じた。(民)
- 研修参加は気が進まなかったが、全体の雰囲気が良く刺激的な内容で終了するのが惜しい気がするようになった。(民)



2. 実証研修結果の検証

(1) 受講者アンケート結果にみる特徴

担い手及び支援人材育成研修については、受講者アンケートを実施した。同アンケート結果から得られた主な特徴は以下のとおりである。

①参加動機と研修への事前の期待

- ・「地域資源を活かした事業開発に活用したい」「地域づくり全般に活かしたい」「企業と行政の協働による産業振興のあり方について参考にしたい」との意見が複数あった。
- ・上記の期待を反映して、研修前の期待がもっとも大きかった研修は、行政職員として地域産業振興を推進し、現在民間経営者として企業振興の担い手となった緒方講師の講義であった。

②研修全体を受講しての注目すべき意見

〔選択回答から〕

- ・研修内容に関する満足度は高く、各調査項目でほぼ 100%の満足度となった。
- ・民間・行政の合同研修方式についても 100%の満足度であった。
- ・今回のコンセプトに基づく研修が再度あった場合の参加意向は 100%であった。
- ・研修スケジュールはやや不満が 2 割程度（2 件）あった。不満要因はスケジュールが過密。
- ・研修会場は参加者居住地からの距離、交通の利便性に比例した結果となった。
- ・宿泊施設はやや不満が 2 割程度（2 件）あった。不満要因は一人部屋希望、部屋に TV がない点。
- ・運営についてはやや不満が 1 割程度（1 件）あった。不満要因の記載なし。

〔記述回答から〕

- ・研修で得たことについては、「初期段階における徹底した情報収集・分析の重要性」（7 件）、「地域を愛し、情熱をもって取り組むことの重要性」（5 件）、「販路確保、マーケティングやブランディングの手法」（5 件）
- ・仕事への活用についての意見としては、「地元資源に関する情報収集方法の見直し、徹底」（5 件）、「商品開発に活用したい」（4 件）
- ・その他の意見としては「仕事への熱意が倍増した」「今後もわかりやすいプログラムで実施してほしい」「座学だけでなくワーキングがありよかった」「スケジュールの再考を」等があった。

③各講義のなかで注目すべき意見

- ・リーダーシップのあり方（緒方講師講義）
- ・ポイント、キーワードの整理（後藤講師講義）
- ・わかりやすく丁寧。3 回通じて講義内容には高評価が多数（中澤講師講義）
- ・起業家の情熱（古野講師講義）
- ・行政の役割と地元経営者との協働の重要性（釜瀬講師講義）

④フォロー取材においてフォローすべき事項

- ・研修に関する満足／不満足要因の具体的把握

[特に取材すべき事項]

「テーマ設定・講師選定のあり方」「ワーキングの進め方」「日程等運営に関する意見」

- ・今後の研修実施に関する意見

[特に取材すべき事項]

「通常業務の向上に資するための研修のあり方」

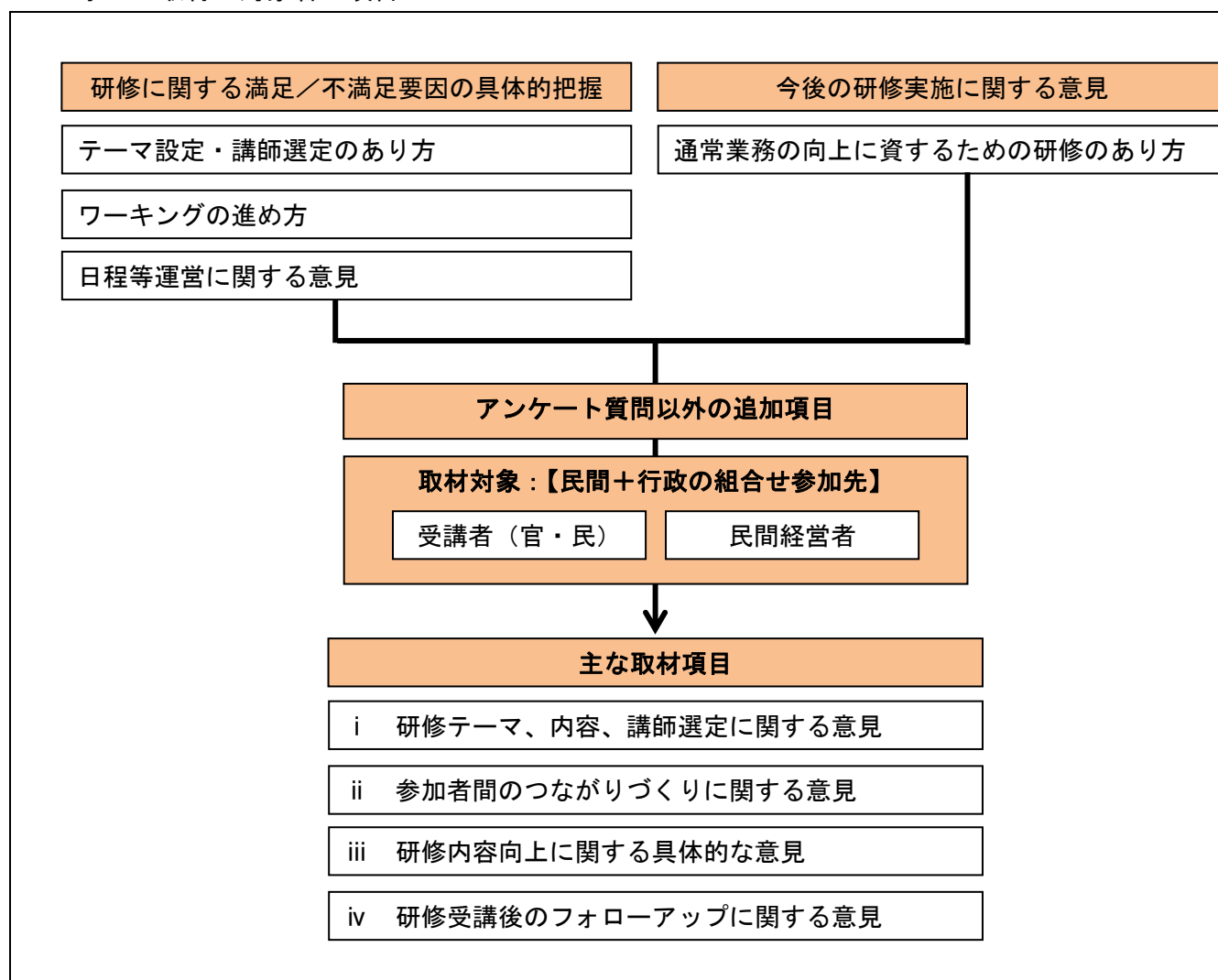
（２）フォロー取材の実施

フォロー取材にあたってはアンケート調査結果を踏まえ、以下の項目から取材項目を設定し、実施することとした。

なお、取材対象は本研修の主眼である「担い手人材及び支援人材の育成」に関する追加取材を行う必要性から、民間＋行政の組み合わせでの参加となった島根県雲南市（民間：㈱吉田ふるさと村）、岡山県鏡野町（民間：NPO 法人てっちりこ）の２組への取材を行うこととした。また、民間企業団体については、研修への派遣を行う立場である経営者の意向を把握するため、平成 20 年度「担い手調査」の取材対象であった経営者・管理者にも取材を行った。したがって、フォロー取材先対象は民間受講者 2 名、行政受講者 2 名、民間経営者 2 名の計 6 名とした。

※行政受講者の管理者取材については、行政においては所属部署でなく人事担当課の方針により、業務上調整可能であることを前提として、個人の積極的な研修受講を推奨していること等から取材対象としなかった。

■ フォロー取材の対象者・項目



■まとめ (◎フォロー調査欄 ○民間受講者 ◆民間経営者 ☆行政受講者)

i 研修テーマ、内容、講師選定に関する意見

	良かった点		改善してほしい点	
	受講者アンケート	フォロー調査	受講者アンケート	フォロー調査
研修テーマ	満足 9 割	<u>○○地域資源活用型商品が事業の中核であり、自身の関心、業務上の課題と合致していた。</u> <u>◆◆中山間地域の企業団体は、後継人材育成が大きな課題。人材育成研修は大変重要。</u> ◆中山間地域企業は住民・行政の郷土愛に支えられており、創業マインドの継承が重要。 ☆資源活用、農商工連携のなかでの行政のコーディネート活動という自身の業務上の課題と合致していた。	やや不満 1 割(ヤマトイモのケーススタディがやりにくかった)	○研修タイトルは、参加したくなる名称に変更してはどうか。(「担い手」という言葉は参加者には心理的に負担がある) ◆「財務諸表の分析力養成」「食品衛生管理の基礎知識」「販売展示(商品陳列)のノウハウ」等を加えてほしい。
研修内容				
■講義内容	満足 10 割 (一人のメイン講師講義で大変良かった) (実体験に基づいた様々な手法が参考になった) (期間をにおいてまた受講したい研修) (仕事に対する熱意が倍増した)	○実践者の話で、わかりやすく、実感をもって学ぶことができた。 <u>○○☆中澤氏の講義内容は業務に参考になる手法が多かった。</u>		○講義時間に対する情報量があまりに多い講義もあった <u>○☆講師が成功する過程に体験した苦労話・失敗談を聞きたかった。</u> ◆成功事例をもとに各地域固有の取り組みにする手法を学ぶ機会にしてほしい。
■講義資料	満足 4 割 まあ満足 6 割			
■企業訪問視察	満足 4.5 割 まあ満足 5.5 割 (講師の情熱を感じた) (地域住民との連携の広がりを感じた) (行政との信頼関係の重要性) (行政の果たす役割が理解できた)	<u>○☆起業家の話を現地で聞くことは大変有意義であった。</u> <u>☆☆企業振興を支える行政職員の姿勢、取り組みについて得るものが大きかった。</u> ○自団体の商品化に通じることが多く、参考になった。	(JA 等地域内利害関係者との連携状況についても知れたかった)	
■ワーキング	■1 回目 満足 5.5 割 まあ満足 4.5 割 (実践的で良かった) (取材の重要性が参考になった) ■2 回目 満足 8 割 まあ満足 2 割 (コーディネート役の重要性を感じた) (プロデュース手法が参考になった) ■3 回目 満足 6 割 まあ満足 2 割 (WG 実践経験が今後活かされる) (販路開拓手法が参考になった)	○「講義内容を試行してより深く理解する」という点では、目的達成できた。 ☆講義⇒ワーキングの繰返しが効果的。 ☆短時間で大変だったが、集中できた。 <u>○☆☆取材調査やケーススタディによるワーキング手法は主役が自分たちと気づかせてくれ、モチベーションがあがった。手法を取り入れたい。</u>	■1 回目(取材時間が足りなかった) ■2 回目(グループでの自己紹介の時間があれば話しやすかった) ■3 回目 やや不満 1 割(事前資料との違いに困惑した) (時間が足りなかった:2 件)	☆取材ワーキングの場合、事前に進め方や意図等について情報提供してほしい。 ☆知らない地域の特産品開発企画は難しい。
■学んだ成果	「徹底した情報収集・分析の重要性」(7 件) 「地域愛、情熱」(5 件)			

	「販路確保、マーケティング、ブランディング手法」(5 件)			
■業務で活用したいこと	「地元資源に関する情報収集方法の見直しと徹底」(5 件) 「商品開発手法」(4 件)			
講師選定	満足 7 割 まあ満足 3 割	○☆メイン講師が一人だったので、研修の方向性、展開内容が明確で、研修目的がわかりやすく、モチベーションがあがった。 ○○☆同じ中山間地域で実践している講師であり、共感しながら学べた。 ☆講義資料は手元に置いておきたい内容。 ☆「地域をどうするか」という視点からの講義で行政の役割を見出すことができた。 ○社内で指導されていることと同じ内容もあったが改めて勉強になった。 ◆20 年度調査の担い手が講師という方針は大変良い。中山間地域特有の企業・担い手育成に貢献できると思う。		☆成功事例を持っている人ばかりで、自分にとっては遠い存在だった。

ii 参加者間のつながりづくりに関する意見

	良かった点		改善してほしい点	
	受講者アンケート	フォロー調査	受講者アンケート	フォロー調査
官民合同研修について	満足 10 割	○◆◆行政との協働は不可欠であり、官民共同受講は有意義。 ○行政との連携が重要なのか桑茶の事例で理解が深まった。 ◆行政との連携の重要性を認識してもらう機会として、行政職員の発想を知る機会として企業人材育成に大きなメリットがある。		○☆官民では産業振興に関する視点も異なる。共通部分があってもよいが、基本は別内容とした方がよいのではないか。
交流会等での交流機会		○○☆商品プレゼンでの助言は大変参考になった。 ○プレゼンしたことで講師とのつながりができよかった。 ◆行政も含めた異業種、様々な地域からの参加による研修であり、異なる企業文化や業種の参加者との出会い、刺激が期待できる。異なる刺激を受けることは事業企画を考える上で大切な機会。		○○☆☆参加者間での刺激を受ける機会はあまりなかった。お互いを知り、語り合う機会があるといい。 ○プレゼン準備に関する事前情報を提供してほしい。 ☆プレゼンの趣旨が、商品自慢ではなく、ブラッシュアップの機会であることを周知してほしい。 ☆コーディネート機会を設けることで共同商品開発や販路の共有化等に発展する可能性も期待できると思う。今後反映して欲しい。 ◆観光とものづくりといった視点をプログラムに盛り込むとそれぞれの参加者同士で協力できる内容が見えてくるのではないか。

iii 研修内容向上に関する具体的な意見

	内容向上のための提言	
	受講者アンケート	フォロー調査
研修内容	今後もわかりやすい内容で	
講師選定		〇〇☆今回同様、メイン講師は一人でストーリー性あるプログラムを組んで欲しい 〇〇◆☆今回同様、中山間地域で経営を実践する講師にこだわってほしい。 ◆地域の担い手が講師になる場合、受講生と同じ目線でお互いに学び合う塾形式がよい。上から目線では人は育たない。 ◆講師は、企業振興⇒地域産業振興⇒地域振興という意識をもった経営者に。
研修内容の工夫		☆コーディネート機会を設けることで共同商品開発や販路の共有化等に発展する可能性も期待できると思う。今後反映して欲しい。(再掲) ☆交流会での商品のプレゼンやその磨き上げに対する意見交換は有意義。単独プログラムとして実施(例えばワーキングのテーマとして実施)することで成果が高まるのではないかな。 ◆地域プロデューサーのような発想で参加者同士をコーディネートして、具体的なビジネスに発展させるような内容があってもよいのではないかな。 〇〇☆☆参加者同士でお互いの仕事の様子や悩みを話し合うようなワークショップがあるといい。 〇☆行政・民間の講義内容を分ける。
開催地		〇〇◆◆☆「50 人の担い手」の企業を会場に使用しては。担い手の取り組みもケーススタディに活用してもらうことで、事業改善や新事業開発のヒントをもらうことができる。 ◆開催地となることで企業 PR、地域 PR に通じる仕掛けがあると受入れやすい。
その他		〇◆研修のタイトルはもっとやわらかく、楽しい感じのものに変えたほうがよい。
日程等運営		
日程	少し詰め込みすぎ。日程がきつい。	〇☆日程は厳しかったが、ハードだから研修に集中できる面もある。 〇1泊2日×2回開催の場合、2回目受講までに業務とのつながりを整理したりすることが可能になり、より効果があるのではないかな。 ☆2泊3日でよいが、日程をゆるやかなものにしてほしい。
開催時期		〇11月以外であれば参加可能。 〇参加しやすい時期はオフシーズンである冬期(1～2月頃)がよい。 ☆産業担当課の場合、5月～11月はイベント等が多く難しい。12～2月頃が参加しやすい。 ☆観光担当なので、オフシーズンである1～3月に開催されると参加しやすい。 ⇒概ね12～2月が共通点
宿泊		〇☆☆宿泊は一人部屋を希望。一人で落ち着いて考える時間がない。 ☆一般の宿泊施設希望。参加者の心理的負担が少ない。

iv 研修受講後のフォローアップに関する意見

	フォローアップのための意見	
	受講者アンケート	フォロー調査
受講後のフォローアップに関する意見		〇受講後、社内できかに共有できるかが重要。 〇☆☆講師や参加者の活動がわかる情報提供を継続できる仕組みが欲しい。事務局で開設するサイトやメーリングリストの運用を。 〇◆研修受講後数カ月～1年程度経過したあとで、講師と参加者が集まりその後の個々の活動を報告しあうような交流機会を開設する。 ◆☆参加者や講師との間の関係が、販路の拡大やコラボレーションによる商品開発等につながるような仕掛けがあるとよい。 〇〇☆◆◆担い手候補が集まる学校という位置づけで継続開催して欲しい。

(3) 研修実施後の講師からの意見

担い手及び支援人材育成研修について、実施後に講師からいただいた感想、今後に向けた改善点等主な意見は以下のとおりである。

① 良かった点（今後の継続に向けて継続またはさらに充実を図るとよい点）

【研修全体】

- いくつか改善していくことで、とても有効で、汎用性・拡張性も高くしかもオリジナリティのあるプログラムになると感じた。

【講師選定】

- 一人の講師が3日間通して講義を行うやり方が受講生の研修ニーズと合致しており、今後もこの方針を守るべきと感じた。

【対象】

- 行政職員と民間企業等からの参加者のペアでの参加を重視したこと、また、ペア参加の場合はあえて所属グループを分けてワーキングを実施したことで、両者に「官民の違いと共通点」「地域による違いと共通点」の2つの気づきの機会を提供する結果となっており、効果があったと感じた。

【講義スタイル】

- ワーキング中心の展開で、具体的でわかりやすい受講生主体の研修で良かった。

② 改善すべき点（今後の継続に向けて改善または再検討を行うべき点）

【研修プログラム】

- 講義とワーキングは、間に他のプログラムをはさまず続けてセットで繰り返す方法が、受講者にとってわかりやすいのではないか。
- 対象資源についての取材(対面・WEB)時間を確保する。
- エクスカーションは、独立した設定での企業訪問よりも、ワーキングのケーススタディと組み合わせ、対象資源の製造現場・販売現場・加工現場等にしたほうが研修全体のねらいがすすきりするのではないか。
- 生産量等、対象資源の基礎データについては事務局で収集・整理を行い、受講生に事前送付しておく。
- 全体のプログラムのなかで、グループワークの時間枠を拡大する。特に最後のプレゼンテーションのためのまとめ、発表準備は単独で時間を確保する。

【日程】

- 参加者に3日間業務をあけてもらって参加を募る日程は、参加したい側、させたい側にとっての負担が大きいのではないか。継続して実施する場合、参加企業・自治体の広がりをつくっていくには、もっと参加しやすい日程に再考すべきではないか。

（４）実証研修内容に関する成果と課題のまとめ

担い手及び支援人材育成研修について、「受講者アンケート結果」「受講者フォロー取材結果（企業団体の担い手意見含む）」「講師意見」の３点を成果と課題の２つの視点から以下のように整理した。

凡例：■課題（＝改善要望） □成果（＝継続・充実要望）

研修テーマ	研修内容
□地域資源活用による事業開発のテーマ設定は高評価。 □中山間地域の企業団体は、後継人材育成が大きな課題。当研修は、的確な内容と高評価。（※受講後満足度 10 割）	■成功体験だけでなく、その課程での失敗体験から学べる要素を加えてほしい。 ■参加者相互の交流プログラムを追加してほしい。 □ワーキング重視手法は受講生主役の研修として高評価。
講師選定	研修対象
□起業家訪問は高評価。 □行政職員の体験談は特に行政職員に高評価。 □メイン講師一人制は高評価。 □中山間地域の担い手講師は高評価。	■□官民共同受講は全課程合同方式を評価する層と一部分離方式を希望する層に２分される。（※受講後アンケートでは満足度 10 割）
交流会	日程 会場 運営
■参加者間の交流を深める機会としてほしい。 □商品プレゼンでの助言は大変参考になった。	■「50 人の地域ビジネスリーダー」企業の巡回開催にしてはどうか。 ■2 泊 3 日は負担が大きく参加しにくい。 ■日程を詰め込みすぎないように再考すべき。 ■宿泊環境について改善してほしい。 □開催時期は業務上 12-2 月頃が参加しやすい。
受講後のフォローアップ	
■講師や参加者の情報をサイトやメーリングリストで継続して発信してほしい。 ■受講後、講師と参加者が集まるい交流機会を開設してほしい。 ■参加者・講師の信頼関係が、販路拡大や共同での商品開発につながる仕掛けに発展させてほしい。	

第4章 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

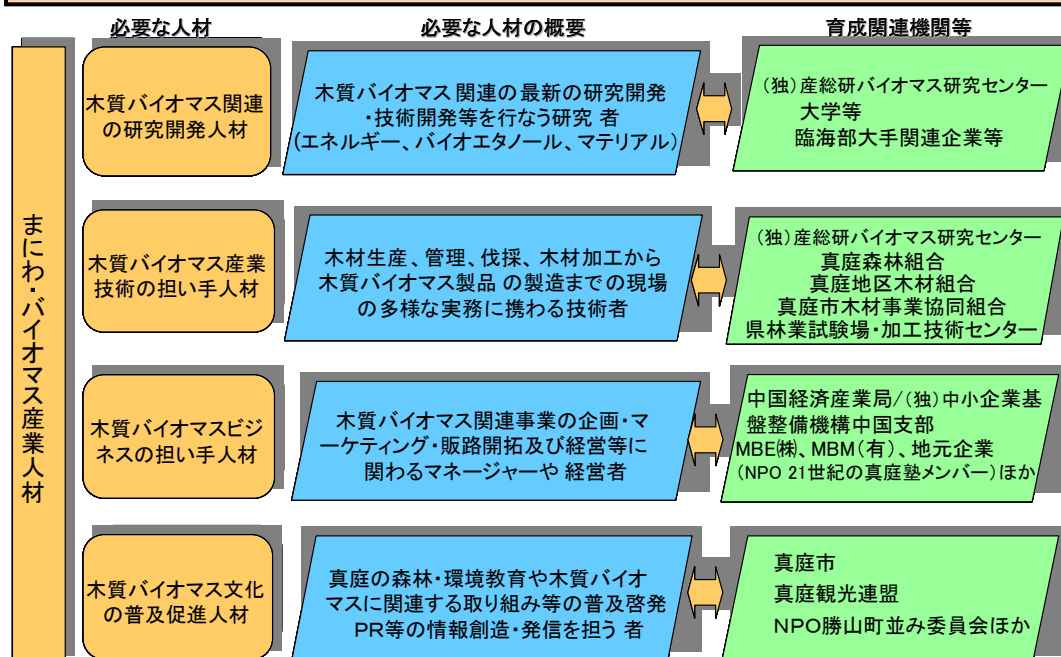
1. 研修のねらい

平成20年度「担い手調査」で報告された真庭地域での人材育成の提案を実証するために、真庭市において、バイオマス産業の担い手となる人材を育成するための研修を以下のねらいに基づき実施した。

研修講座のねらい①
木材産業で生きてきた真庭地域における新しい木質バイオマス産業の創出という視点から、川上（林業）から川下（工業製品開発と流通）まで一貫した循環型の地域産業としての可能性を共有する。
研修講座のねらい②
技術型講座にとどまらず、バイオマス関連産業の基礎知識や利用技術、真庭地域の産業現場の体験、まちづくりや産業振興への展開等幅広い内容の実践型の研修を通じ参加者の関心を高める。
研修講座のねらい③
特定層の研修ではなく、バイオマス利用技術や地域づくりに関心のある学生、バイオマス関連企業経営者・従業員、幅広いバイオマス政策に関わる行政職員や関係団体職員等幅広い関心領域と年齢層を持った受講生が一堂に会することにより新たな出会いや交流機会を創出する。

【まにわ・バイオマス産業人材育成の目標（平成20年度「担い手調査」報告書）】

バイオマス産業人材を技術系にとどめず、まにわ産業の担い手として幅広く捉える



2. 研修プログラムの作成

(1) 企画検討体制の整備

モデル地域(真庭市)においては、バイオマスタウン構想を公表するとともに木質バイオマス産業創出への先進的な取り組みが進んでいる。そこで、今回の人材育成講座もその一環として位置づけ、真庭市のバイオマス産業創出の一助とすべく、今後の展開を見据えた研修とすることをねらい、全市的組織の「バイオマスタウン真庭推進協議会」の下に位置づけられる産官学一体となった「真庭市バイオリファイナリー事業推進部会」のキーパーソンを核にし、決定機能と機動性を兼ね備えた実践体制を整備した。

- ① 組織名称 「真庭市バイオリファイナリー事業部会役員等会議（以下幹部会）」
- ② メンバー 真庭市副市長、バイオリファイナリー事業推進部会長（ランデス代表取締役）、NPO 法人 21 世紀の真庭塾塾長（銘建工業代表取締役）、同塾事務局長、産総研バイオマスセンター長、三菱総合研究所研究主査（調査委員会委員長）、事務局：産業観光部長、バイオマス政策課
- ③ 開催経過

第 1 回幹部会 2009 年 10 月 12 日

- ・ 経済産業局調査及び人材育成研修の概要をもとに協議

[主な意見等]

- ・ せっかくの機会であるので木質バイオマス産業についての理解を深める研修としたい。
- ・ 準備日程に余裕がなく厳しいだろうができれば、川上から川下までの流れをしっかりと学べる研修とし、その道の一流の講師を招きたい。特に真庭地域では川上(林業・木材加工)部分が大切。
- ・ 真庭市で開催するので地元企業や林業関係者等から講師を出すことを考えたほうがよい。

第 2 回幹部会 2009 年 11 月 23 日

- ・ 実施要領のたたき台をもとに講座プログラムと講師及び開催場所等の検討と基本的な実施スキームを決定

[主な意見等]

- ・ 講座の名称は、「木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭～森林から発想する環境産業と技術～」とする。
- ・ 会場は、定員が 30～40 名だが木材の町での開催にふさわしい「岡山県木材技術加工センター」とする。
- ・ 講座については、教室での座学形式の講義とバイオマス関連企業や集積基地等の現場視察研修を組み合わせる。
- ・ 実施時期は、参加者からは 1 月 9(土)～11 日(月)の 3 連休が最適との案が出た。年頭時期であること等から開催困難である場合は、1 月 29 日(金)～2 月 1 日(月)のうちの 3 日間とすることを決定した。
- ・ 受講生は、将来の担い手育成と今後の大学との連携等を意識し、定員との関係で①大学・高専の学生、②企業、関係団体、③真庭市の順で募集する。

第3回幹部会 2009年12月24日

- ・ 午前中に「バイオリファイナリー事業推進部会」を開催し、部会長より人材育成講座についての協力依頼を行うとともに本研修講座の実施内容について説明し、協議の後、全面的協力を取り付け
- ・ 事業推進部会に引き続き、講座実施の詳細について具体的な協議を実施

[主な意見等]

- ・ 大学生の受講生募集の依頼については、岡山大学神崎教授（推進部会委員）に引き続き、年末から年始にかけて、市から岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術化学大学、津山高専に訪問し協力を依頼する。
- ・ 講師については、すべて内諾済み（年明けに正式依頼状を送付する）。
- ・ メンバーの意欲が高く、大変充実した内容になった。広く募集することになれば全国から受講生が集まる内容である。せっかくの機会なので応募が定員を超えてもできるだけ受け入れる方向で対応することが望ましい。
- ・ カリキュラムが過密との印象を与えることもあり得るので、受講生の移動等については、できるかぎりきめ細かな対応をする。

(2) 研修プログラムの決定

研修プログラムについては、以下のように決定した。

【人材育成研修講座の開催概要】

1. 研修講座名

「木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭～森林から発想する環境産業と技術～」

2. 実施日時：平成22年1月30日（土）13：00～2月1日（月）16：00の3日間

3. 開催場所：真庭市（岡山県木材加工技術センター及び視察現場）

4. 主な受講生：学生（岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、津山高専）、真庭市内外企業社員、団体職員等（バイオマス関連企業、森林組合）、行政（真庭市職員、県民局職員、周辺市町村職員等）、30名程度

5. 受講費用：無料（ただし、宿泊費・交通費・食費・交流会参加費は参加者負担） ・・・宿泊先（勝山・原田旅館及び（落合）ハイランド落合（有料）

6. 研修カリキュラム

- ・ 教室における講義と現場の視察研修や講師との意見交換等）

【研修講座カリキュラム】

日時	講座名	場所	講師等	講義概要(想定)
1日目 1月30日(土)				
12:30	受付開始			
13:00 ～13:20	■開講 & オリエンテーション ・開講挨拶(真庭市長) ・オリエンテーション	木材加工技術センター	・真庭市長 井手紘一郎 ・(株)三菱総研 川村雅人研究主査	・市長の歓迎挨拶 ・講座のねらいと事務的手続き等
13:20 ～14:50 90分	■講義① 日本の林政の課題	木材加工技術センター	京都大学農学研究科 川村 誠 准教授	・わが国の林業の現状と林政の今日の課題を世界的な視野を交えてマクロに講義
移動(マイクロバス)10分				
15:00 ～16:30 90分	■視察研修① 木質バイオマス取り組み企業	銘建工業(株)	説明:銘建工業(株) 代表取締役 中島浩一郎	・バイオマス発電やペレット製造、森林認証等真庭市の木質バイオマスへの先駆的企業での取り組みの解説と工場見学及び中島社長とのディスカッション
移動(マイクロバス)10分				
16:40 ～17:40 60分	■講義② 森林・木材産業の現状と課題	木材加工技術センター	銘建工業(株) 代表取締役 中島浩一郎	・わが国の森林資源と木材産業のおかれている状況を海外材と国産材双方を取り扱う事業者の現場感覚をふまえて講義
移動・休憩20分				
18:00 ～21:00 講演 30分	■交流会 講演:勝山のまちづくり	場所「西蔵」	講師:(株)辻本店 代表取締役 辻均一郎	・勝山の街並みを活かしたまちづくりを民間主導で牽引してきたキーパーソン(当事者)の立場から取り組みのねらいや経緯等を具体的に解説。 ・会費制・任意参加の気軽なパーティ形式の交流会
2日目 1月31日(日)				
9:00 ～10:30 90分	■講義③ 森林資源と木材利用技術の開発	木材加工技術センター	岡山県木材加工技術センター 藤長所長	・真庭地域の森林資源の活用のための多様な木材利用技術の開発について歴史的な経緯を含めて講義
休憩 10分				
10:40 ～12:10 90分	■講義④ バイオマス利活用と地域活性化	木材加工技術センター	岡山大学農学部長 神崎浩	・農業系資源、林業系資源、生活系資源等のバイオマス利活用による地域活性化の方向等幅広い視点から講義
12:10 ～13:30	自由行動(昼食+勝山町並み散策等)			

13:30 ～15:00 90 分	■講義⑤ 木質バイオマス利用技術講座1	木材加工技術センター	産総研 坂西バイオマス研究センター長	・燃焼、ガス化、生物転換：バイオエタノール)の開発動向と展望等バイオエネルギー利用技術についての基礎的講義
休憩10分				
15:10 ～16:40 90 分	■講義⑥ 木質バイオマス利用技術講座2	木材加工技術センター	産総研 坂西バイオマス研究センター長	・木質バイオマス抽出セルロース、リグニン等のマテリアル利用法等バイオマテリアル利用技術についての基礎的講義
16:50 ～17:35 45 分	■講義⑦ バイオマスタウンの取り組み概要	木材加工技術センター	説明：バイオマス政策課 大美課長 解説：仁枝事務局長	・真庭市が取り組むバイオマスタウンの構想・計画と具体的な取り組みについて紹介
3日目 2月1日(月)				
8:30～9:00(移動(市マイクロバス)30分)				
9:00 ～10:30 90 分	■視察研修② 木質バイオマス取り組み企業	ランデス(株) 真庭バイオマテリアル(有)	講師：大月社長 解説：仁枝事務局長	・環境配慮型のコンクリート製品の開発や木質バイオマスのマテリアル利用の研究開発への取り組み解説と大月社長とのディスカッション
移動(市マイクロバス)・休憩15分				
10:45 ～12:15 90 分	■視察研修③ 木質バイオマス取り組み企業	真庭バイオマス集積基地(木材事業協同組合) 真庭バイオエネルギー(株)	鳥越理事長 堀 専務 長田専務 解説：バイオマス政策課	・真庭工業団地に整備されたバイオマス集積基地整備のねらいや全体像と現地でのチップ製造への取り組み及び木質ペレット製造についての解説と現地視察
移動(市マイクロバス)・休憩 15 分				
12:30 ～13:30	自由行動(昼食等)			
13:30 ～14:30 60 分	■講義⑧ 総括：真庭塾とバイオマス産業「バイオマスまにわの歩みと展望」	木材加工技術センター	(株)三菱総研 川村研究主査 21世紀の真庭塾 仁枝事務局長	・21世紀の真庭塾を中心とした、森林から発想する環境産業への取り組みの歴史と総括及び今後の展望について講義
14:30 ～14:50	■講師による講評と受講終了証授与	木材加工技術センター	講師代表 事務局(シース総研)	

3. 研修講座の開催準備

(1) 開催までの主な準備作業

講師依頼・講座準備関係	
・ 11月下旬	カリキュラムと講師決定（内諾）
・ 12月22日	各講師への文書依頼
・ 1月19～22日	外部講師の宿泊・交通手段・到着時間の確認
・ 1月22日	辻本店にて懇親会最終確認及び協力再依頼
・ 1月28日	視察企業協議（銘建工業） 受講生増に伴う工場内見学方法等について
受講生募集関係	
・ 12月15日	募集要項・募集チラシの作成
・ 12月24日	岡山理科大及び岡山県立大への訪問・参加依頼
・ 1月5日	津山高専への訪問・参加依頼
・ 1月6日	倉敷芸術科学大学への訪問・参加依頼
・ 1月15日	募集締切 → 随時希望者増える 最終的に26日まで受け付ける
・ 1月26日	受付名簿 作成（最終版）
会場及び宿舍関係	
・ 12月7日	木材加工技術センターへの講習会場（及び講師依頼）（再依頼）とセンター長と概略協議⇒加工技術センターから全面的協力の回答を得る。
・ 12月7日	宿泊協議（原田旅館）⇒協力への了解を得る
・ 12月7日	宿泊協議（産業学習館）⇒条件に適合しないため断念
・ 1月15日	宿泊協議（ハイランド落合）⇒協力への了解を得る
・ 1月18日～	宿泊（斡旋を伴う）者への案内（宿泊施設に関連すること等）
・ 1月21日	会場協議 最終詳細協議（時間帯＋借用品）→ 市から公文を提出
・ 1月29日	宿泊者 最終人数報告（原田旅館・ハイランド落合）
・ 1月29日	会場準備 + 最終確認
その他	
・ 1月4日	秘書広報課を通じて 報道依頼
・ 1月26日	準備品リスト 最終案 完成
・ 1月26日～	資料印刷（最終30日の朝）
・ 1月27日	役割分担 最終案 完成
・ 2月1日	会場片付け
・ 2月2日	支払い完了

木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭

～ 主催者からのメッセージ ～

経済産業省では、自立した地域経済の確立のためには、地域資源を活用した新たな事業や産業の創出が重要であり、とりわけこれらの産業の担い手育成に注目し、重点的な支援施策を展開しています。

そこで、すでに地域が一体となってバイオマス産業の創出やバイオマスタウンづくりへ取り組んでいる真庭地域をモデル地域として、これからの真庭地域において重要な産業として期待される、バイオマス産業の担い手となる人材を育成するための研修を、開催いたします。

開 催 日 平成22年 1月30日(土) ～ 2月1日(月)【受講費用は無料】

※別紙参加申込用紙により、申込(FAX送信)をお願いいたします。

開 催 場 所 真庭市内(岡山県木材加工技術センター 及び 企業(視察))

研 修 内 容 講義や講師との意見交換や企業の視察
(次ページの研修カリキュラムをご参照下さい)

受講対象者 学生、行政と地元企業等

定 員 30名程度(申込多数の場合は先着順とさせていただきます。)

中国経済産業局委託事業 (調査受託事業者) (株)シース総合政策研究所
【協力】

(独)産業技術総合研究所中国センター ・岡山県木材加工技術センター
真庭市 ・ 真庭バイオリファイナリー事業推進部会
NPO 法人 21世紀の真庭塾 ・ (株)三菱総合研究所

◇研修カリキュラム

◇1日目 平成22年1月30日(土) 13:00～21:00 ◇開講・講義・視察研修・交流会		
スケジュール	カリキュラム等	講師等
13:00～13:20	開講(挨拶) オリエンテーション	真庭市長 井手紘一郎 (株)三菱総合研究所 研究主査 川村雅人 シース総合政策研究所 専務取締役 藤原 啓
13:20～14:50	講義① 「日本の林政の課題」	京都大学 川村 誠 准教授
14:50～15:00	移動(バス等) ⇒ 銘建工業(株)	
15:00～16:30	視察研修①	銘建工業(株) 代表取締役 中島 浩一郎
16:30～16:40	移動(バス等) ⇒ 木材加工技術センター	
16:40～17:40	講義② 「森林・木材産業の現状と課題」	銘建工業(株) 代表取締役 中島 浩一郎
18:00～21:00	交流会 (酒造レストラン西蔵) 講演:「勝山のまちづくり」(30分)	(株)辻本店 代表取締役 辻 均一郎

◇2日目 平成22年1月31日(日) 9:00～17:35 ◇講義		
スケジュール	カリキュラム等	講師等
9:00～10:30	講義③ 「森林資源と木材利用技術の開発」	岡山県木材加工技術センター 所長 藤長恭常
10:40～12:10	講義④ 「バイオマス利活用と地域活性化」	岡山大学 農学部長 神崎 浩
12:10～13:30	休憩(自由行動)	
13:30～15:00	講義⑤ 「木質バイオマス利用技術講座1」	(独)産業技術総合研究所 バイオマス研究センター長 坂西 欣也
15:10～16:40	講義⑥ 「木質バイオマス利用技術講座2」	(独)産業技術総合研究所 バイオマス研究センター長 坂西 欣也
16:50～17:35	講義⑦ 「バイオマスタウンの取り組み概要」	真庭市産業観光部バイオマス政策課 課長 大美 康雄

◇3日目 平成22年2月1日(月) 9:00～14:50 ◇視察研修・講義		
スケジュール	カリキュラム等	講師等
8:30～9:00	移動(バス等) ⇒ ランテス(株)	
9:00～10:30	視察研修②	ランテス(株) 代表取締役 大月 隆行
10:30～10:45	移動(バス等) ⇒ 真庭バイオマス集積基地	
10:45～12:15	視察研修 3	真庭木材事業協同組合 理事長 鳥越康生 真庭バイオエネルギー(株) 専務取締役事業部長 長田 正之
12:15～13:30	移動(バス等)・休憩(自由行動)	
13:30～14:30	講義⑧ 「バイオマスまにわの歩みと展望」	(株)三菱総合研究所 研究主査 川村雅人
14:30～14:50	講評	講師代表他

送信先 真庭市産業観光部バイオマス政策課 宛
(FAX 0867-42-1097)

○木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭 参加申込書（お申込の×切りは1月8日です。）

1. 開催日程

開催日	時間	プログラム	会場
1月30日(土)	13:00~17:40	開校式・講義・視察	木材加工技術センター 他
	18:00~21:00	交流会	酒造レストラン西蔵
1月31日(日)	9:00~17:35	講義	木材加工技術センター
2月1日(月)	9:00~15:00	視察・講義	木材加工技術センター 他

2. 代表者連絡先

貴社名 所属団体 大学名 等	フリガナ		
氏名	フリガナ	住所	〒
TEL	()	FAX	()
E-mail			

3. 参加申込(受講等の希望する欄にチェック(☑)を記入してください)

※3日間の参加を原則としますが、日程的に無理な方は2日間の参加も受け付けます。

所属・役職・年齢	人材育成研修(無料)			交流会 3,000円 (30日)	宿泊	
氏名・性別	30日	31日	1日		30日(土) 3,500円~ (素泊り)	31日(日) 3,500円~ (素泊り)
(歳)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(男・女)						
(歳)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(男・女)						
(歳)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(男・女)						

※食事につきましては各自でお願いいたします。

(1日目には交流会を予定しておりますので、是非ご参加下さい。)

※宿泊については各自手配していただいてもよろしいですが、要望に応じて斡旋いたします。

(宿泊希望の方と個別にご相談させていただきますが、民宿や研修施設となります。)

□研修会に関するお問合せ先

真庭市産業観光部バイオマス政策課

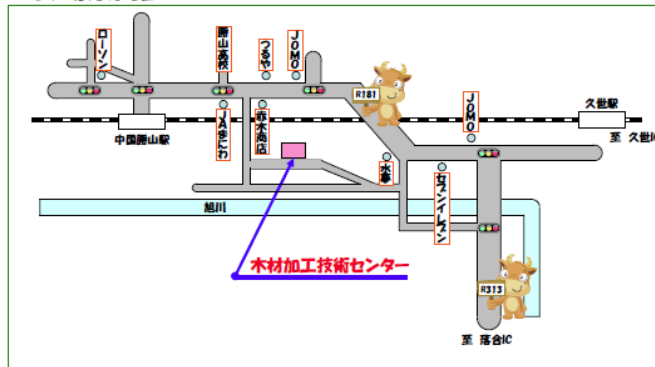
TEL 0867-42-5022

※メールにてお申込の方は以下のアドレスにお願いいたします。

E-mail biomass@city.maniwa.lg.jp

□木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭(会場案内)

○会場案内図



会場:岡山県木材加工技術センター

岡山県真庭市勝山1884-2

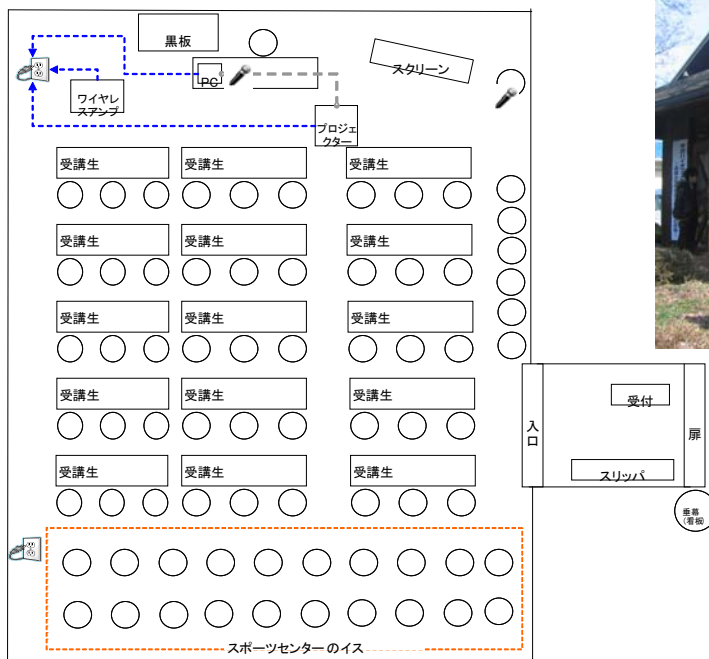
電話:0867-44-3367

○勝山駅から徒歩10分

○落合ICから車で30分



【人材育成研修講座会場レイアウト(案)】



【木材加工技術センター外観】



【人材育成講座の進行予定表】

木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭～森林から発想する環境産業と技術～
ー現場進行管理予定表(事務局資料)ー

開催日 平成22年1月30日(土)～2月1日(月)
開催場所 岡山県木材加工技術センター
真庭市勝山1884-2 Tel0867(44)3367
主催等 中国経済産業局委託事業
調査受託事業者:(株)シーズ総合政策研究所
協力 (独)産業技術総合研究所中国センター
岡山県木材加工技術センター
真庭市・真庭バイオリファイナリー事業推進部会
NPO法人21世紀の真庭塾・(株)三菱総合研究所
実質事務局 真庭市バイオマス政策課

【1月29日(金)】

13:00～ 前日会場準備・・・事務局全員(夕方 三菱総研川村氏到着)

【1月30日(土)】1日目 (受講者は各自で集合)

10:00集合 10:40～会場へ

- * マイクロバス(運転:事務局1名)、ハイエース(運転:事務局1名)
- * 社協8人乗り(運転:事務局1名)、プリウス(運転:事務局1名)
- * カルディナ(運転:事務局1名)、アクティ(運転等:事務局2名)

準備 11:00～ 会場、控室等準備(昼食)

駐車場(江崎、森田)

受付 12:30～ 受講者受付(シーズ、小山、谷本、吉田)

集金

資料等配付

来賓、講師、プレス等は事務所へ案内、接待(大美課長、影山)

開講 13:00～ (進行:シーズ藤原)

13:20 調査委員会委員長 挨拶(株)三菱総合研究所

川村研究主査

真庭市長

挨拶 井手市長

オリエンテーション(注意事項:吉田)

* 講義の紹介(シーズ藤原)

講義① 13:20～ 「日本の林政の課題」

14:50 京都大学 川村 誠 准教授

移動 14:50～15:00(44名+講師等)

木材加工技術センター → 銘建工業(株)

* マイクロバス 24名(運転:事務局1名)、ハイエース 9名(運転:事務局1名)

* 社協8人乗り 7名(運転:事務局1名)、プリウス4名(運転:事務局1名)

* カルディナ4名(運転:事務局1名)、アクティ3名(運転:事務局1名)

計51名 会場残り(事務局1名)

視察研修① 15:00～ 銘建工業(株) (安田側に駐車)徒歩で会議室へ

16:30 代表取締役 中島 浩一郎

15:00～15:30 中島社長 説明(会議室で)

15:30～16:30 工場視察 3班に分かれて

移動 16:30～16:40

銘建工業(株) → 木材加工技術センター

* マイクロバス 24名(運転:事務局1名)、ハイエース 9名(運転:事務局1名)

* 社協8人乗り 7名(運転:事務局1名)、プリウス4名(運転:事務局1名)

* カルディナ4名(運転:事務局1名)、アクティ3名(運転:事務局1名)

講義② 16:40～ 「森林・木材産業の現状と課題」

17:40 銘建工業(株)代表取締役 中島 浩一郎

移動 ①「原田旅館」宿泊者(部屋に荷物を置く)10名宿泊

* ハイエース(運転:事務局1名)プリウス(運転:事務局1名)10名を旅館に送り、交流会参加者5名を*ハイエース(運転:事務局1名)で「西蔵」へ

②「ハイランド落合」宿泊者13名(荷物を持って)会場から

→「西蔵」へ * マイクロバス13名+宿泊しない参加者6名=19名(運転:事務局1名)

③講師、関係者 →「西蔵」へ

* 社協8人乗り 7名(運転:事務局1名)、カルディナ 4名(運転:事務局1名)

* 乗れない場合は、マイクロバスへ、アクティ(運転等:事務局2名)→「西蔵」

* 市長、副市長、部長は別車で

交流会 18:00～「酒造レストラン西蔵」 (進行:真庭市バイオマス政策課)
講演「勝山のまちづくり」(株)辻本店 代表取締役 辻 均一郎
18:30～交流会(進行:吉田)
挨拶 ① 中国経済産業局 陣山総務企画部長
② 真庭市 須田副市長
乾杯 バイオリファイナリー事業推進部会 大月会長
20:30 中締め(仁枝副会長)
【送り】①「原田旅館」宿泊者 5名+1名=6名 ハイエース(森田)
②「ハイランド落合」宿泊者 13名
「リバーサイドホテル」6名
*マイクロバス(運転等:事務局2名)
久世・落合方面 講師等
*ハイエース(森田)迎え(運転:事務局1名)、社協8人乗り(運転:事務局1名)
*プリウス(運転:事務局1名)、カルディナ(運転:事務局1名)→久世庁舎へ
*アクティ(運転:事務局1名)は、交流会に参加せず、久世庁舎に帰る。

【1月31日(日)】2日目
(迎え)①「原田旅館」→ 徒歩 10名
②「ハイランド落合」8:15発 13名
「リバーサイドホテル」講師等 8:25発 5名
*マイクロバス(運転:事務局1名)、ハイエース(運転:事務局1名)
*アクティ(運転等:事務局2名)久世庁舎→ 会場へ

講義③ 9:00～ 「森林資源と木材利用技術の開発」
10:30 岡山県木材加工技術センター 所長 藤長 恭常
*記念品(木製ごみ箱) 個

講義④ 10:40～ 「バイオマス利活用と地域活性化」
12:10 岡山大学農学部 農学部長 神崎 浩
昼食・休憩 12:10～13:30 勝山町並み保存地区(徒歩:各自昼食)

講義⑤ 13:30～ 「木質バイオマス利用技術講座Ⅰ」
15:00 (独)産業技術総合研究所 バイオマス研究センター
研究センター長 坂西 欣也

講義⑥ 15:10～ 「木質バイオマス利用開発講座Ⅱ」
16:40 (独)産業技術総合研究所 バイオマス研究センター
研究センター長 坂西 欣也

講義⑦ 16:50～ 「バイオマスタウン真庭の取り組み概要」
17:35 真庭市産業観光部バイオマス政策課 課長 大美 康雄
(送り)①「原田旅館」→ 5名 徒歩
②「ハイランド落合」 →3名 ?(自車 名)
「リバーサイドホテル」 →3名 ハイエース(小山、吉田)
*マイクロバス(運転:事務局1名)、アクティ(運転:事務局1名) → 久世庁舎へ

2月1日(月)】3日目
○木材加工技術センター 集合
(迎え)①「原田旅館」 → 5名 徒歩
②「ハイランド落合」8:00発→3名
「リバーサイドホテル」8:10発→3名
*ハイエース(運転:事務局1名)、マイクロバス久世7:45→技術センター(運転:事務局1名)
*アクティ 久世7:45 →技術センター(運転等:事務局2名)

移動 8:30～9:00
木材加工センター → ランデス(株)
*マイクロバス 20名(運転等:事務局2名)、ハイエース オブザーバー等 5名(担当:事務局3名)

視察研修② 9:00～ ランデス(株)
10:30 代表取締役 大月 隆行

移動 10:30～10:45 ランデス(株) → 真庭バイオマス集積基地

視察研修③ 10:45～12:15 真庭バイオマス集積基地
10:45～ 真庭木材事業協同組合 理事長 鳥越 康生
11:30～ 真庭バイオエネルギー(株)専務取締役事業部長 長田 正之
昼食・休憩 *カルディナ(運転等:事務局2名で会場へ)(留守番1名)

講義③ 13:30～ 「バイオマスまにわの歩みと展望」(株)三菱総合研究所 研究主査 川村 雅人
14:30 岡山県真庭地方における「木質資源活用産業クラスター戦略の展開」
NPO法人 21世紀の真庭塾 事務局長 仁枝 章

閉会行事 14:30～(進行:シーズ藤原)
①講評 調査委員会委員長 川村研究主査
②修了証 中国経済産業局(又は 川村研究主査)
15:00 閉会 (片付け)全員

4. 研修講座の実施

当日の研修会場風景



研修1日目：2010年1月30日(土)

講義① 「日本の林政と課題」

講師 川村 誠 氏 京都大学農学研究科森林・林業政策学分野准教授

【講義のポイント】

- かつてバイオマス王国だった日本は、高度経済成長期にいきなり木質エネルギー→石油・原子力へと世界でも特異な生活エネルギー転換をした。
- 木材需要の拡大で自給率が急減し輸入木材が急増。
- 日本の林業だけが、無節の柱材にこだわり続け世界標準に適応できなくなった⇒座敷・床の間文化(接待文化)の崩壊(内なるグローバル化)による「柱角」林業の行き詰まり。
(国内市場が崩壊)
- 日本は、1970年代後半から10数年間林業イノベーションの谷間にあった⇒この間大規模集中処理化が進んだ北欧の林業に大きく水をあけられた(フィンランド・モデル)
- 国内「人工林」の資源化の道としては、「小規模分散型生産流通システム」と「大規模集中処理型生産流通システム」がある。日本の林業の特性を考えれば前者の確立が必要となる。

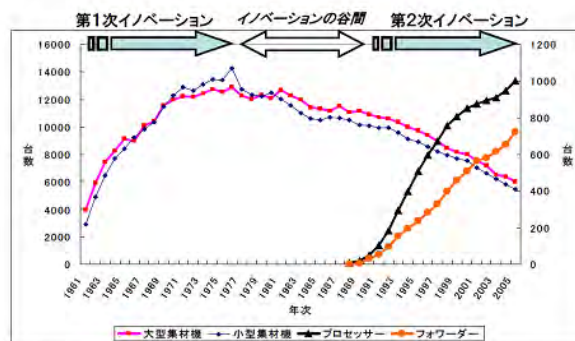


【川村誠講師資料(抜粋)】

研修に向けた報告課題

- 1 「バイオマス王国・日本」の記憶
- 2 高度経済成長とエネルギー革命
ー森林・林業にとって戦後の始まりー
- 3 木材需要の拡大と輸入材の導入
ー国内生産では間に合わなかったー
- 4 「林業基本法」の登場
ー政策による対応ー
- 5 「外材体制」下の国産材市場(日本型流通システム)形成
ー生産拡大より高価格材志向へー
- 6 90年代における“市場崩壊”
ー「日本型流通システム」の解体ー
- 7 イノベーションの進展と市場再編
ー素材生産に始まるイノベーションの行方ー
- 8 林政の混迷
ー資源問題を忘れた「森林・林業基本法」ー
- 9 政策課題の所在

林業イノベーションの時期区分



注1) 数値は年次別・全国「普及台数」(プロセッサ・フォワーダーは右目盛) 注2) 「林業統計要覧」各年版

視察研修① 「銘建工業(株)」本社工場(勝山)

現場解説 中島 浩一郎 氏 銘建工業株式会社代表取締役、NP0 法人 21 世紀の真庭塾 塾長

【木質ペレットの説明をする中島氏】

【解説のポイント】

- 事業の柱は、木質構造材(中断面、小断面、大断面集成材)で売上の9割超。
- 原材料の9割は北欧を中心とした輸入材。
(良質なペレット材料が出る)
- 木質バイオマス事業は新事業。
(エコ発電、木質ペレット製造販売等)



【エコ発電用のペレットボイラー】



【集成材の製造ライン】



講義② 「林業・木材産業の現状と課題」

講師 中島 浩一郎 氏 銘建工業株式会社 代表取締役社長、NP0 法人 21 世紀の真庭塾 塾長

【講義のポイント】

○日本の林業と木材産業は建築用が中心で住宅着工件数の急減で青息吐息である。

○国は森林・林業再生プランで木材自給率 50%を謳っているがリアリティがない。

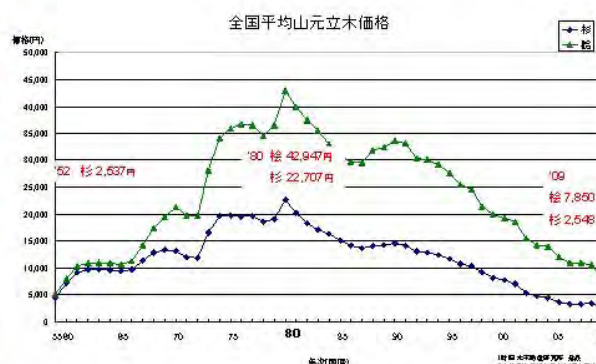
○いまや高い国産材イメージはなく杉、桧の丸太価格は、米材、北洋材並に低下。

○日本は、森林面積に対する木材生産量が、ドイツ、スウェーデン等欧州諸国に比べ数分の一と低く、製材業に元気がない。

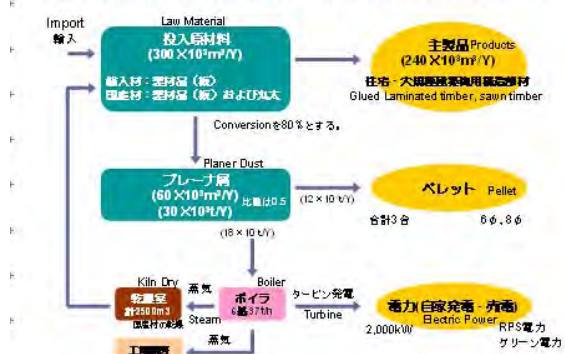
○銘建工業では、欧州中心の輸入材による集成材が主力事業であるが、製造過程で生じるプレナー屑等を活用してエコ発電燃料やペレット原材料に利用している。



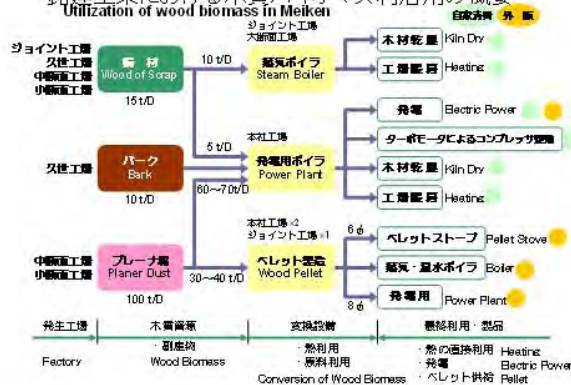
【中島講師資料(抜粋)】



銘建工業の原料・製品及びバイオマス利用全体フロー Flow of material, Glued laminated timber and Wood Biomass in Meiken



銘建工業における木質バイオマス利活用概要 Utilization of wood biomass in Meiken



交流会 「勝山のまちづくり」の講話と懇親会（酒造レストラン西藏（勝山））

講話 辻 均一郎 氏 株式会社辻本店 代表取締役

NP0 法人 21 世紀の真庭塾 まちなみ再生部会部会長

【講話のポイント】

○ NP0 法人 21 世紀の真庭塾が 1997 年開催した「環境まちづくりシンポジウム」で発表した「2010 年真庭の 1 日」で掲げたイメージのほとんどがこの 10 年強の間に実現している。

○勝山のまちなみ再生も

「ひな祭り」「のれんの街」

「文化往来館ひしお」のオープンも
実現した。

○次は「2030 年真庭の 1 日」を
考えることが重要。



【西藏での交流会風景－新たな出会いのひと時－】



研修2日目：2010年1月31日(日)

講義③ 「森林資源と木材利用技術の開発」

講師 藤長 恭常 氏 岡山県木材加工技術センター センター長

【講義のポイント】

- 世界及び日本の森林資源と木材生産・木材利用の比較（中国の木材需要の伸び等）
- 木材の基本的な構造と機能（優れた機能特性）
- 木材は環境に優しい持続的資源（カーボンニュートラル、環境指標（森林認証、ウッドマイルズ等）
- 木材加工技術センターの木材利用技術開発への取り組み



【藤長講師資料(抜粋)】

森林資源と木材利用技術の開発
— 外材から国産材へ —

I 森林資源と木材生産の概要

- 1 世界の森林資源と木材生産
- 2 日本の森林資源と木材利用

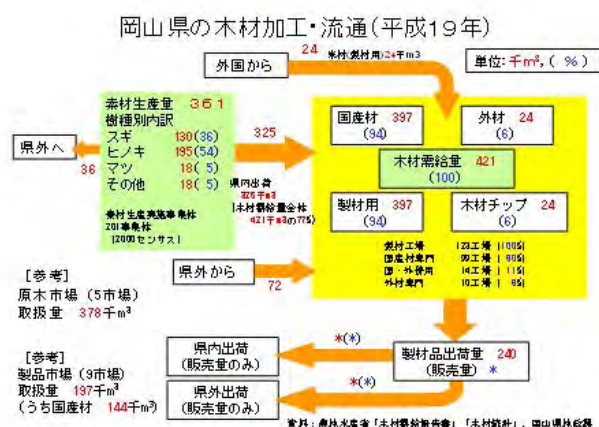
II 知っておきたい木材の基本的な知識

- 1 木材の基本的な構造と機能
- 2 木材と環境との関わり

III 木材利用技術の開発

- 1 木材加工センターの取り組み
- 2 現在取り組んでいる研究開発

岡山県木材加工技術センター
所長 藤長 恭常



分子レベルで見た木材細胞壁

セルロース 45~50%

ヘミセルロース

リグニン 20~30%

針葉樹 15~20%
広葉樹 20~30%

【参考】
セルロースは植物の主要な構成成分で、木材の強度を支える主要な成分です。ヘミセルロースはセルロースとリグニンを結合させる役割を果たしています。

【参考】
リグニンは植物細胞壁の主要な成分で、木材の強度を支える主要な成分です。針葉樹と広葉樹の細胞壁の構造は異なります。

経年変化に伴う強度性能の低下はないのか?
(法隆寺はなぜ千年以上も現存できるのか?)



「強度性能は、約200年までは徐々に高まり、その後緩やかに減少する！」という知見がある。 小原二郎氏



一般の住宅はどうなのか?

講義④ 「バイオマス利活用と地域活性化」

神崎 浩 氏 岡山大学農学部長・教授

【講義のポイント】

- インターネットで地域活性化やバイオマスを検索する（情報の集め方）。
- 岡山大学で地域活性化システム論を開催。
- 日本はバイオマスの地産地消で活路を見出すべきではないか。
（森林バイオマス地産地消政策）
- そのためには、バイオマス燃料生産のみでなく資源のカスケード利用が不可欠。



【神崎講師資料(抜粋)】

「地域再生システム論」第4回
～バイオマス資源を活かした地域活性化の可能性～
エネルギー資源としてだけでなく、『地域活性化』の『手段』としての『バイオマス』の可能性に関して、皆さんと一緒に考えましょう！

2008年12月13日(土)午後1時～4時 農学部Ⅲ号館多目的室

講師
・中国四国農政局 企画課長 近藤 浩氏 ～基調講演～
「バイオマスをめぐる情報について」

・笠岡市役所政策部平沼課長 稲垣隆雄氏
「バイオマスタウン」である笠岡市の取り組み事例を紹介

・独立行政法人食品産業技術総合研究機構 中央農産物センター 平田雅之氏
「牧草資源による農林地資源の活用と畜産・エネルギー化の可能性と課題」

パネラー 大学院環境学研究所・博士後期課程 竹内重吉氏
：笠岡市平沼地を事例とした研究の紹介

コーディネーター 岡山大学大学院環境学研究所 駐岡井(だいたい) 久 (hisashi@cc.okayama-u.ac.jp)

「地域再生システム論」 講義最終回
未利用森林バイオマスの地産地消で地域を活性化する

2008年12月20日(土) 午後1時～4時 農学部Ⅲ号館多目的室

岡山には数多くの森林バイオマス資源が未利用で眠っています。これをエネルギー利用だけでなくマテリアル分野でも有効活用することで、地域を元気にするための取り組みについて皆さんと一緒に考えましょう！

講師
・真庭森林組合 代表理事組合長 星原建雄氏
「真庭システム」を通じた地域活性化の取り組みを紹介

・MPD土佐の森・教団様 事務局長 中嶋健彦氏
「三河川流域エネルギー・自給システム」を通じた地域活性化を紹介

・岡山県農林水産部 林政課長 寺安昇平氏 (予定)
行政サイドから森林・林業の振興と地域活性化の取り組みを紹介

コメンテーター
・中国四国農政局 企画課長 近藤 浩
・岡山大学学長 平塚豊三

コーディネーター 岡山大学大学院環境学研究所・基教授 嶋 一徹 (tsukagawa@cc.okayama-u.ac.jp)

「地域活性化システム論」講義最終回
森林・林業を通じた地域の活性化

日時 平成21年12月19日(土) 午後1時から午後4時
場所 農学部Ⅲ号館 多目的室

講師
《林》部局長：森の学友 代表取締役 社長
牧 大介氏
「林業の振興と地域活性化」をテーマに、バイオマス、林業、地域活性化の取り組みを紹介

岡山森林組合 代表理事組合長
星原 建雄氏
「真庭システム」を通じた地域活性化の取り組みを紹介

岡山県農林水産部 林政課長 寺安昇平氏 (予定)
行政サイドから森林・林業の振興と地域活性化の取り組みを紹介

コーディネーター
大学院環境学研究所・環境学助教授 嶋 一徹
岡山大学大学院環境学研究所 教授 竹内 久
TEL 086-251-5286

OKAYAMA
これまでの取り組み(おかやま質バイオエタノール研究会)

森林バイオマスの地産地消のためには

バイオ燃料生産のみではなく資源のカスケード利用が不可欠

事業化するためのコスト、課題の整理、解決策の検討

原料集積基地の整備 → 20年度予算化

資源のカスケード利用 → 技術開発推進

公的支援制度の拡充 → 国への提案

OKAYAMA
バイオマス資源集積基地

森林バイオマスのカスケード利用のためには

政策面での新しいシステム構築とともに
新たな視点にたった技術開発が必要
特に経済性を考慮したバイオマス収集技術の開発は重要

原料集積基地の整備
資源のカスケード利用
公的支援制度の拡充

講義⑤. ⑥ 「木質バイオマス利活用技術講座 1 & 2」

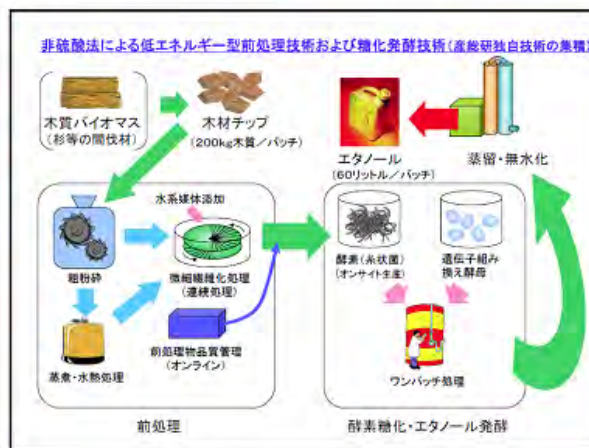
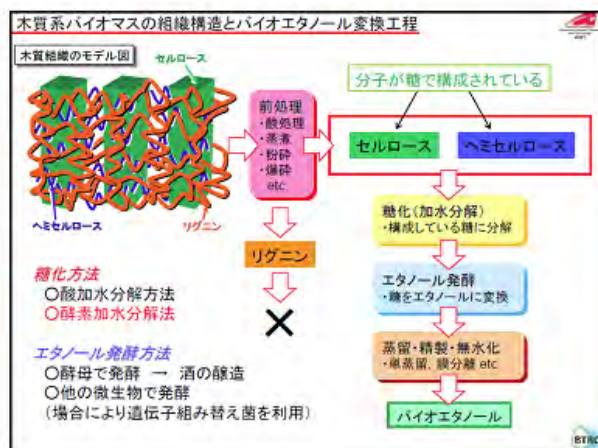
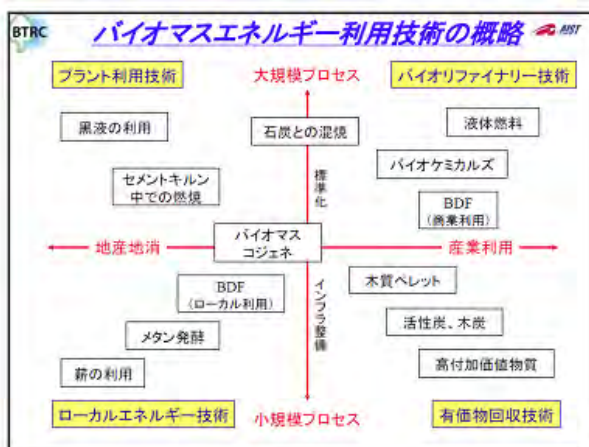
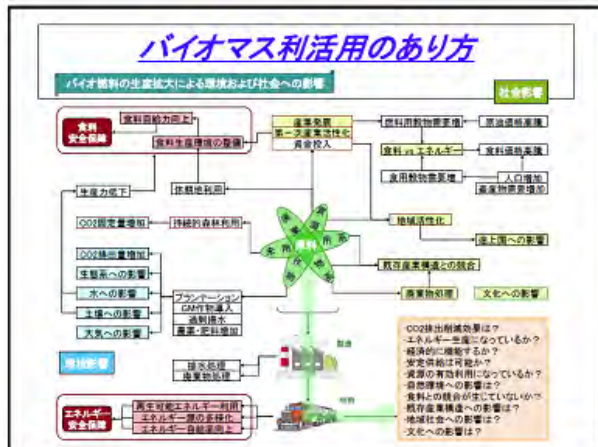
講師 坂西 欣也 氏

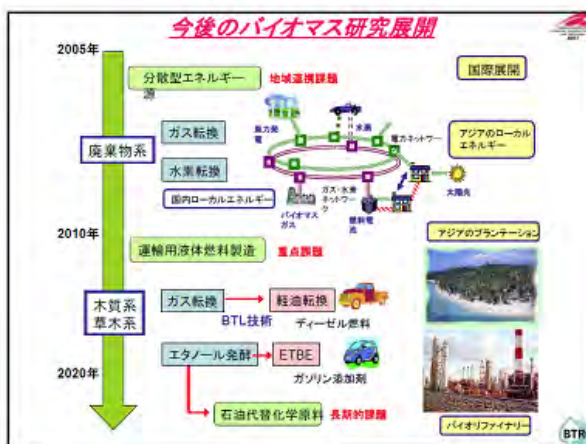
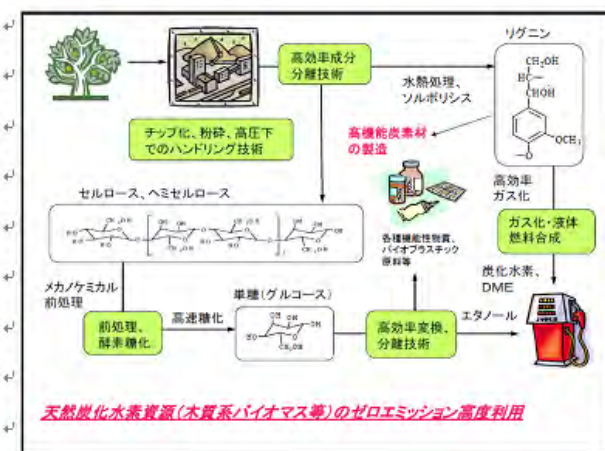
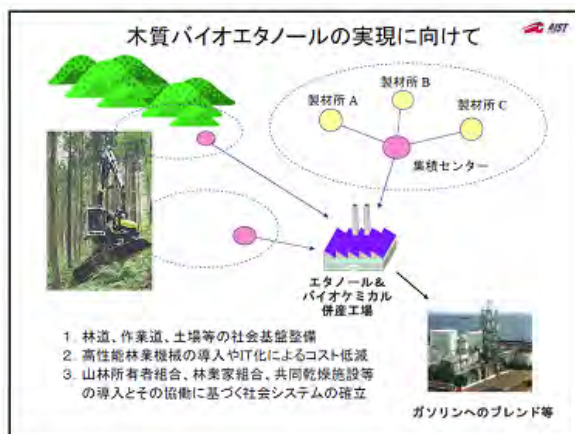
独立行政法人 産業技術総合研究所中国センターバイオマス研究センター センター長

【講義のポイント】

- バイオマス利活用のあり方とエネルギー利用技術
- 木質系バイオマスマスの組織構造とバイオエタノール転換技術(前処理、糖化、発酵技術等)
- 国産バイオエタノール実用化への課題
- 産総研におけるBTL技術(木材バイオマス資源から石油代替製品を製造する技術。Biomass to Liquid) 開発への取り組み
- シミュレーションによるバイオマス転換評価技術
- 木質バイオエタノールの実現に向けて(技術革新次世代型バイオエタノール、ゼロエミッション)
- アジアにおける持続可能なバイオマス利活用(バイオマスアジア戦略)
- 今後のバイオマス研究展開

【坂西講師資料(抜粋)】





【2日目の受講風景】



講義⑦ 「バイオマスタウンの取り組み概要」

講師 大美 康男 氏

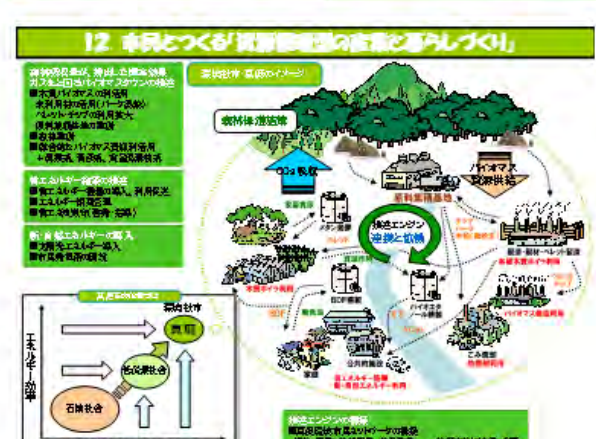
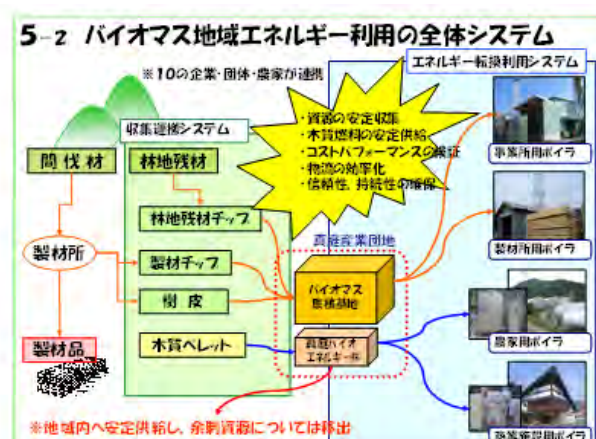
真庭市産業観光部バイオマス政策課 課長

【講義のポイント】

- 真庭市バイオマス活用計画とバイオマスタウン構想
- 真庭地域バイオマス関連施設の取り組み事例
- 木質バイオマスの地域エネルギー利用システム構築
- バイオマス産業の創出に向けた地域連携の構築へ
- 市民の理解醸成活動の実施
- 普及啓発と産業観光の展開（バイオマス・ツアー）
- 今後の展開（第2ステージの向けて）
- 市民とつくる「資源循環型の産業とくらし」



【大美講師資料(抜粋)】



研修3日目：2010年2月1日(月)

現場研修② 「ランデス株式会社」

講師・解説 大月 隆行 氏 ランデス株式会社 代表取締役社長

NP0 法人 21 世紀の真庭塾 ゼロエミッション部会部会長

【解説のポイント】

- 世界及び日本の森林資源と木材生産・木材利用の比較
(中国の木材需要の伸び等)
- 木材の基本的な構造と機能(優れた機能特性)
- 木材は環境に優しい持続的資源(カーボンニュートラル、環境指標(森林認証、ウッドマイルズ等))
- 木材加工技術センターの木材利用技術開発への取り組み



【大月講師資料(抜粋) 及び工場視察写真】

鉄鋼スラグ水和固化体(フェロフォーム)

- 特開2004-59583 ランデス、JFE
- 論文: 鉄鋼スラグ水和固化体の凍結融解抵抗性とその改善に関する研究, 土木学会論文集E, 262-275, 2007.5.

製鋼スラグ-高炉スラグ、フライアッシュ=鉄鋼スラグ水和固化体(フェロフォーム)
 $\sigma \sim 30 \text{ N/mm}^2$
 密度2.6~2.8

原材料製造のCO₂排出量比較

単位: kg-CO₂/m³

材料	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /m ³)
コンクリート	215
鉄鋼スラグ水和固化体	115

42%減

エコボックス

大型中型ブロック 建設廃棄物を利用し緑化できます

LIMEによる浸透影響評価
 Case1 従来型コンクリート舗装
 Case2 エコボックスを用いた舗装

7年後

Case2はコンクリート使用量が少なく、建設廃棄物を利用でき、緑地面積を確保できるため、約30%減量が可能と減できる！！

コンクリートが控えめな厚さで緑化に緑化できます。

間伐材沈床 実証実験

ランデス本社裏の湖に設置 (2004.11)

魚類調査 (2005.5) アブラハヤ、オイカワ、カマツリ、ナマズ等

たくさん魚が確認され、好評を得ています。

木片コンクリートを開発 (1998年)

特徴

- ① 木材の質感がある
- ② 軽い
- ③ 水を蓄える
- ④ 水を通す
- ⑤ 植物の根を通す

ヒノキのチップ (2cm程度) セメントと混ぜて固化 多孔質のコンクリート

moco ガーデニング用製品 (2006年)

置き鉢を撤去、ホームセンターやインターネット上で販売を開始

視察研修③ 「バイオマス資源集積基地」及び「真庭バイオエネルギー(株)」

【真庭バイオマス集積基地】

解説 鳥越 康生 氏 真庭木材事業協同組合 理事長

【解説のポイント】

○林地残材や製材所で発生する樹皮を利活用する目的で平成 20 年度に農水省、岡山県、真庭市、組合の資金でバイオマス集積基地を整備（建設費約 3.5 億円）。

○市民や企業の協力で搬出された丸太をチップに加工しパルプ原材料、燃料用、堆肥用等として販売。集積基地建設によりバイオマスの地産地消（収集⇒変換⇒利用の地産）を推進。



【真庭バイオエネルギー(株)】

解説 長田 正之 氏 真庭バイオエネルギー株式会社 専務取締役事業部長

【解説のポイント】

○真庭地域の木質バイオマス資源の利活用による循環型の付加価値創出型事業の起業化と地域産業の活性化を理念に起業化。メインの事業は木質ペレット(真庭ペレット)の販売で年間売上約 2 億円（北海道、東北（ボイラー用）、静岡、宮崎、福岡（園芸施設用）等）。

○新たなエコビジネスとして、農商工連携事業により、木粉、極細チップ等を開発し、オイル吸着剤「森の木粉」、シューズキーパー「森の香り」等の商品を開発。



講義⑧-1 「バイオマスまにわの歩みと展望」

講師 川村 雅人 氏 株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部 研究主査

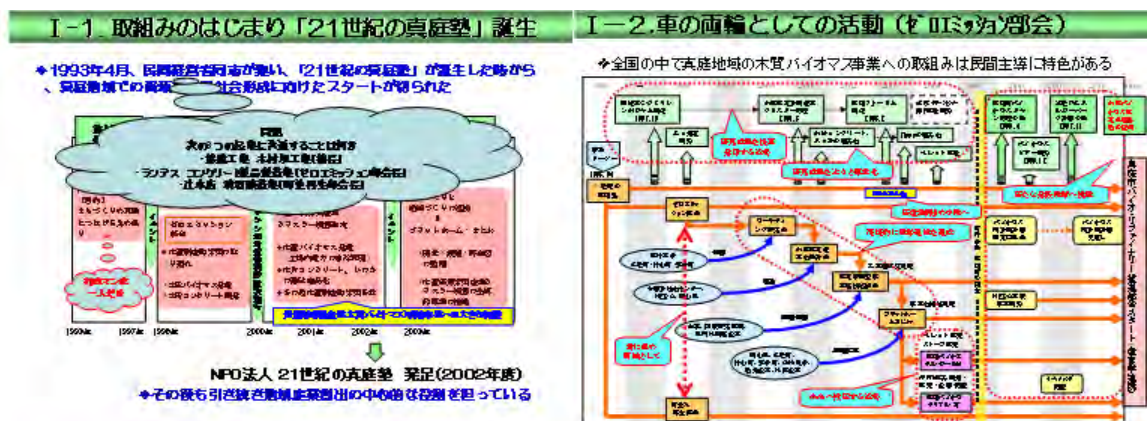
【講義のポイント】

- 真庭市の環境産業への取り組みの原点は、1993年4月のNP0法人21世紀の真庭塾の設立にある。
- バイオマス産業の創出にとって「木質資源活用産業クラスター構想」(2001年3月)の提案がターニングポイント(現在の取り組みの青写真を民間が描いた)。
- 真庭地域での取り組みで特筆すべきは、地元への思いと高い志を持った民間有志と黒子である行政マンがNP0法人21世紀の真庭塾に集い、真摯に学びその成果を社会起業家として塾外で次々と事業化した点にある。
- 今後のバイオマス産業人材育成に向け、産学官一体となった推進体制の下で、①研究開発拠点の開設、②人材育成拠点の開設、③産学官の連携体制の強化、④人材育成事業体の設立を提案。

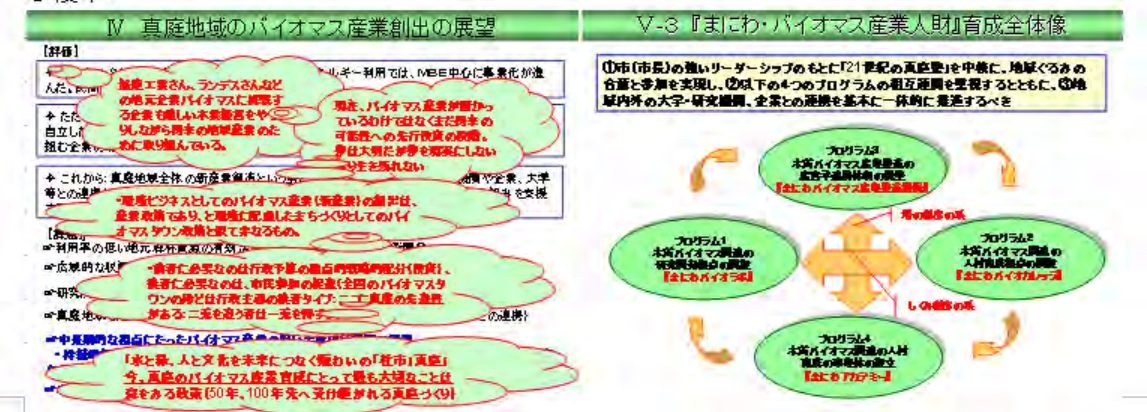


【川村講師資料(抜粋)】

○前半



○後半



講義⑧-2 岡山県真庭地域における「木質資源活用産業クラスター戦略の展開」

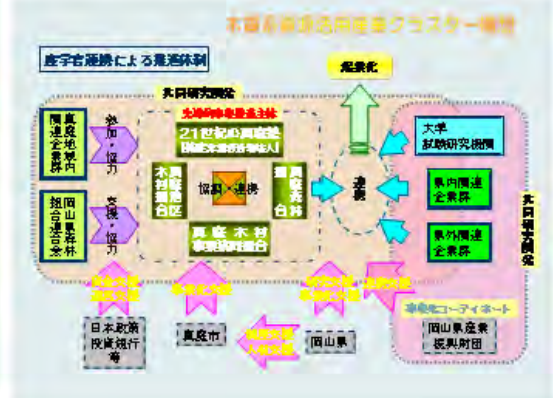
講師 仁枝 章 氏 NP0 法人 21 世紀の真庭塾 事務局長

【講義のポイント】

- 木質資源活用産業クラスター構想の目標は「持続可能な地域産業の形成」と「未来遺産である森林資源の保全」
- ・山間部から排出される木質系資源活用による広域的な産業連携を実現する。
- ・真庭地域内での産業連携の一翼を担う新たな事業体を創出し地域活性化を先導する。
- ・産学官連携で構想推進に必要な研究開発を推進する。



【仁枝講師資料(抜粋)】



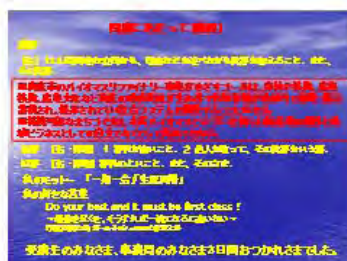
全体講評及び閉講・受講修了証授与

講評 川村 雅人 氏 株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部 研究主査

- 3日間の講義と視察研修、12人の講師が密度の濃い資料と熱意ある話であった。若い学生さんには、消化不良の部分もあったと思うが木質バイオマス産業の全体像がなんとなく理解できたと思う。私も久しぶりに学生の気持ちで頭脳を駆使してかなり疲れた。
- また、講座と交流会を通じ、様々な立場・年代の方が一堂に集まり交流できたことは、真庭地域にとっても受講生の皆さんにとっても新しい可能性の場のスタートだと感じた。

閉講挨拶・修了証授与 宅見 幸一氏 中国経済産業局資源エネルギー環境部 課長補佐

○全体講評



○閉講挨拶



5. 研修の成果検証と今後の展開

(1) 受講生のアンケート結果

	アンケート回答者		講座受講者(受付)
	参加者数	非参加者	
第1日目	32	1	42
第2日目	31	2	41
第3日目	18	15	27
交流会	22	11	19
名簿総数	33		45

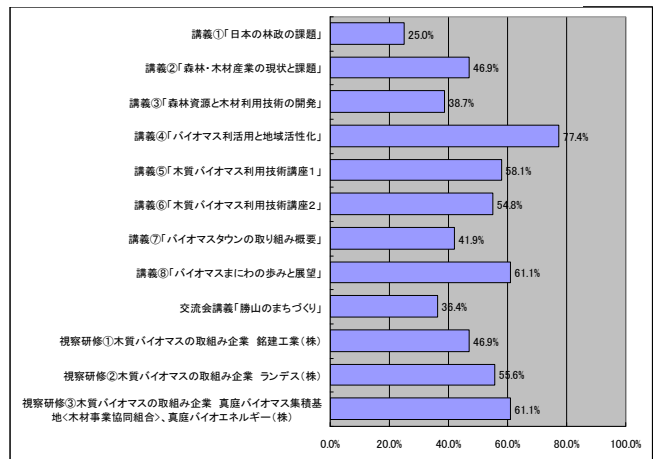
(注1)講師、解説者、経済産業局関係者、市長・市職員20数名は講座受講者数にカウントしていない。

(注2)1日だけの受講者があるため実際の参加人数は45名(うち大学生・高専生19名、講師等5名)

1) 研修前アンケート

- ・ 回答者の55%が自ら希望して参加
- ・ 参加の理由は、バイオマスの知識習得から個別テーマの専門知識修得まで多岐にわたる
- ・ 受講者の関心はバイオマス資源の活用のテーマが林業・木材利用より高い傾向にある。

特に期待しているプログラム



2) 研修後アンケート

① 講義全体について

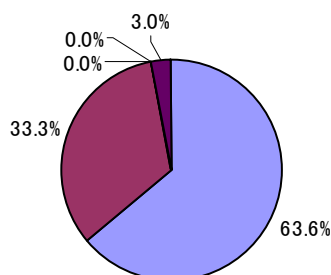
【選択回答：満足度】

- ・ 研修テーマと内容についても満足層は97%と高い(満足60.6%、まあ満足36.4%)
- ・ 講義資料に対する満足層も84%と高い(満足45.5%、まあ満足48.5%)。スライド1枚に情報量が多すぎる点に不満。
- ・ 宿泊者の96%は合宿形式の研修を有効と見ている(有効56.0%、まあ有効40.0%)。休憩が十分取れない点へ指摘がある。
- ・ 今後の参加意向も91%と高い(参加したい57.6%、まあ参加したい33.3%)
- ・ 研修スケジュールへの満足層は2/3。やや不満層3割は、休憩時間が足りない、スケジュールの詰め込み過ぎ、平日は参加しにくい、2日間程度がよい等を指摘。
- ・ 真庭での開催については、満足層は82%と高い(満足48.5%、まあ満足33.3%)。不満層からは、会場の寒さ、交通の不便さ・開催地の遠さ等の声がある。
- ・ 研修施設については、かなり手狭だったのにもかかわらず満足層が85%と高い(満足51.5%、まあ満足33.3%)。
- ・ 研修全体の運営に対する満足層は97%と極めて高い(満足66.7%、まあ満足30.3%)。

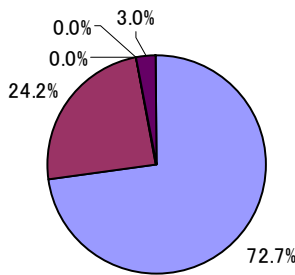
【自由回答の傾向】

- ・ 学んだこととして、関係者の熱意や信念等を感じたという意見が多く、また企業の現場の取り組みを学び、直接経営者の話を聞いたことに意義を感じる者も多い。
- ・ 日ごろバイオマスへの関心があまり無かった学生層の中から、本講座における関係者の熱気を汲み取り、地域活性化等への参加へ関心を持ったという声があった。

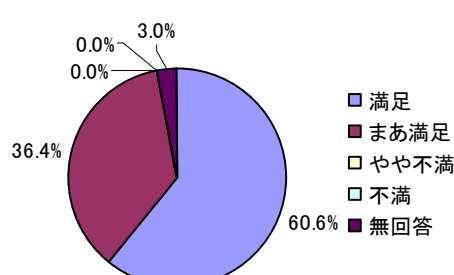
研修内容全体の満足度



講師の選定の満足度



研修テーマと内容の満足度



② 個別講義・視察研修について

個別の研修いずれについても各項目で相当に高い評価が得られた。

- ・ 内容が期待していたものだったかについて、満足層は、77.5%～97%と高い。また講話と交流会については 95.5%と高い。
- ・ 内容の理解については、概ね 90%以上と高かったが、専門性の高いバイオマス技術については無回答が多くやや難しかったようだ。
- ・ 自身の活動や研究に役立つかについては、役立つとした層は 8 割～9 割以上と高かったが、内訳を見ると大いに役立つという層は概ね 2～4 割と低めだった。
- ・ 環境産業や地域づくりへの関心の高まりについては、関心が高まったとする層がほとんどの講座で 90%～100%と極めて高く、幅広い分野でバイオマス産業を包括的に捉えた結果と思われる。
- ・ 現地視察で経営者の熱意と人柄が伝わり、現場を見た後の講義でバイオマス産業とまちづくり等一体となった取り組みやその必要性を理解し関心が高まったといった感想も多い。

3) 受講生アンケート結果総括から見てきたこと

- 本講座は、定員 30 名に対し、県外を含め 5 大学 1 高専から学生 19 名と教員 5 名計 24 名や NPO メンバー等受講生 45 名が集まる盛況であったことが大きな成果といえる。
- 林業やバイオマスの知識があまりない学生が多かった点を考慮すれば、本講座への期待や、受講後の講座内容や講師への満足度の高さは想定外であった。
- 大学の講義等に比べると、会場が手狭で休憩時間も短く、移動も多い上に多くのカリキュラムが詰め込まれた講座であったにもかかわらず、本講座受講者の高い評価は、以下のような本講座の特色に起因するものと考えられる。

① 木質バイオマス産業を持続可能な環境産業として捉え、循環型社会づくりに貢献するという社会起業(ソーシャルビジネス)の視点から語られた点

② 林業(森林)から木材加工・注通、バイオマス資源のエネルギー活用、マテリアル活用さらには、地域経済やまちづくりとの関係等俯瞰的に捉え、川上から川下までストーリーを持ったカリキュラムを組み立てた点(バイオマス産業と地域づくりの関連性を幅広い視野から語った)

③ それぞれの分野の一流の研究者、地元の研究開発型の先進的な企業の経営者等の熱意や信念を持った講義及び社長自らが思いを語った視察研修だった点

④ バイオマスタウンづくりに取り組む真庭市が市長、副市長以下バイオマス政策課とNPO 法人 21 世紀の真庭塾メンバー企業等が精力的に運営に参画しサポートを行った点

（２）講師および事務局の意見

今回の人材育成講座で中心的な役割を担った、NPO 法人 21 世紀の真庭塾関係者、バイオマス関連のリーディング企業経営者、副市長等で構成される幹部会および講座運営に直接携わった事務局（真庭市バイオマス政策課）メンバーにより、本講座終了後に総括会議を行った。

[会場の雰囲気、受講生の反応等]

- ・ どの講座についても受講生が熱心に講義を聴いていたように思えた。
- ・ 視察に対応していてもみな興味を持って真剣なように感じた。
- ・ 自費のため学生が交流会に参加するか心配だったが思ったより多くの参加があり、会場も盛り上がっていた。

[受講生のアンケート結果について]

- ・ 講座全体およびどの講座もとても高い評価で驚いている。開催してよかった。
- ・ 自由回答等を見ると視察研修が特に好評のように思える。特に社長自らの説明は学生には貴重な体験だったと思う。
- ・ どの講座についても自由回答への記述が多いのには驚いた。みなまじめに回答していると感じた。
- ・ 市長や副市長以下、バイオマス政策課、木材加工技術センター、企業のみなさん等地元の熱心な受け入れ体制が評価を高めたのではないかな。

[今後の開催について]

- ・ 今回の実証実験的開催で講座へのニーズの高さが確認できた。平成 22 年度以降もぜひ人材育成講座を開催したい。
- ・ 大学の期末試験に重なる等開催時期や日数については再考の余地があるだろう。
- ・ 今後の担い手育成ということで、学生をターゲットにしたプログラムで、社会人にも門戸を開くものがよいと思う。
- ・ 今回の反応と真庭で開催することの意味を考えると、現場中心で座学を入れるというカリキュラムがいいのではないかな。
- ・ 今回は、講座参加費は無料、学生さんの宿泊費は真庭市が助成したが、今後は、実費負担ということも考える必要がある。
- ・ 開催日数は、1泊2日を複数回という意見もあるが、今回のような3日間のコースが川上から川下までがわかるという意味で充実しており、2泊3日も捨てがたい。開催時期は、学生の夏休みが始まってすぐあたりなら集まるのではないかな。
- ・ 会場はやや狭かったが、木のぬくもりという雰囲気もあり結果的に好評だったが人数的には限界だった。平成 22 年度にはバイオマスラボも設置する見込みであり、ここも含めて会場を考えたらよい。
- ・ 交流会は思った以上に盛り上がった。とくに年齢や立場の違う学生と経営者等が同じテーブルで楽しく話ができたことは大いに収穫だった。

(3) 今後の展開について

- 真庭地域においては、すでに産学官連携体制による新産業創出に向けたバイオマスリファイナリー事業の推進に向けた取り組みがスタートしている。その中で平成 22 年度 4 月に研究開発拠点（真庭バイオマスラボ）の設置とともにバイオマスリファイナリー事業の推進母体として協議会の設置を準備している。その計画の中で、バイオマス産業の人材育成も事業の柱と位置づけ、今回の実証型の研修講座の成果をふまえ、22 年度から継続的なバイオマス人材育成講座の開催を計画している。
- 今年度の実証研修においては、真庭市バイオマス政策課総動員で準備・運営等にかかなりの時間を割き、また地元企業や県木材加工技術センター、産総研バイオマス研究センター、大学等の厚意により、ネットワークを活用することができたことで、低コストで充実した研修講座を開催することができた。今後の人材育成講座の開催にあたっては、引き続き今年度のような行政支援が必要と思われるが、一方では、継続開催を担保する視点から、研修実費の受益者負担等も視野に、できるだけ財政負担の少ない開催方法を考えていく必要がある。
- 一方、エネルギーとマテリアルの両面の可能性を有する木質バイオマス産業は、地域資源に根ざした資源循環型の環境貢献産業であり、中四国地域においては、地域の特色を活かした次世代産業として大いに注目される。したがって、木質バイオマス産業の担い手人材育成は、新産業創出の重点政策に位置づけられることから、真庭地域を超えたより広域的な地域連携を視野に置いた戦略的な産業人材育成（＝みらい型投資）という視点から国（経済産業局や農政局、関連機関等）県等の積極的な支援が望まれる。

第5章 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言

1. 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言

実証研修結果をもとに、地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムを策定するとともに、関連事業に関する提言を行う。

(1) 地域産業の担い手・支援人材の育成プログラムの基本方針案

①前提

中国地域の中山間地域においては、急激な人口減少と少子高齢化の進展により、地域活力の低下が懸念されている。また、国・自治体ともに、財政の健全化に取り組んでおり、中山間地域においても地域の自立に向けた自助努力が求められているところである。

一方、近年、中国地域の中山間地域では、地域資源の活用により都市にはない新たな商品やサービスを開発し、顧客を創造している企業があらわれてきている。こうした企業には共通して事業を成功に導いた産業の担い手の存在がある。こうした担い手は、企業家・経営者としての資質に優れているとともに、地域貢献意識が極めて高いことがわかっている(平成20年度「担い手調査」報告書)。

中山間地域の産業の担い手育成は、中山間地域が自立していく上での経済・雇用の基盤づくりに通じるとともに、地域社会の活力増進にも大きな影響を及ぼす取り組みといえる。

次に、こうした産業の担い手による企業活動の成功事例を検証した結果、それらの成功要因に自治体の支援・協力が大きく影響していることがわかっている(平成20年度「担い手調査」報告書)。

こうした中国地域における中山間地域の産業振興の特徴を踏まえ、本調査においては、産業の担い手及び支援人材育成に関する実証検証を実施した。

その結果、「中山間地域の産業人材育成」と「官民共同参加」というコンセプトについて、一定の成果をえることができた(第3章参照)。一方で、今後の継続開催に向けての改善要望も多数あることから、これらの成果と課題をもとに再検討を行い、中山間地域の産業活動の現場に根ざした産業人材育成のための研修プログラム案を策定するものである。

②研修の基本方針

1) 目標とする人材像

本研修の目指す中山間地域の産業人材像は以下のとおりである。

- ☐ 地元(中山間地域)の地域資源の価値を発見・再評価し、事業価値に高めていくことのできる知見や専門性及び人脈等を有する産業の担い手人材
- ☐ 中山間地域の産業の担い手の事業活動を支え、地域経済の活性化と雇用機会の拡充に結びつくさまざまな機会及び人脈のコーディネートを行う産業の支援人材
- ☐ 中山間地域の雇用や後継人材の育成、地域社会における協調及び信頼関係の向上に関する貢献意識の高い産業の担い手人材及び支援人材

2) 本研修のねらい

本研修のねらいは以下のとおりである。

- ☐ 中山間地域における地域資源の見方、分析に関すること
- ☐ 中山間地域の地域資源活用による事業(商品・サービス)開発に関すること

【重点分野】

- ☐ 地域資源を活かした食品開発(機能性商品含む)
- ☐ 地域資源を活かした観光(ツーリズム)サービス開発
- ☐ その他中国地方の特色といえる地域資源を活かした新事業開発

3) 基本方向

本研修の基本方向は以下のとおりである。

- ☐ 現場(職場)重視
中山間地域の産業人材育成に関する課題を起点とする研修内容
- ☐ 受講生重視
受講生自らが主体的・積極的に資質・能力向上を行うことのできる研修内容
- ☐ 成果重視
研修成果を業務に反映できることを重視した研修内容
- ☐ つながり重視
講師と受講生、受講生相互のつながりづくりを重視した研修内容
- ☐ 継続重視
研修参加時のみならず、受講後、職場での実務に継続的に反映できる研修内容

③ 研修の体系

1) 研修の特徴

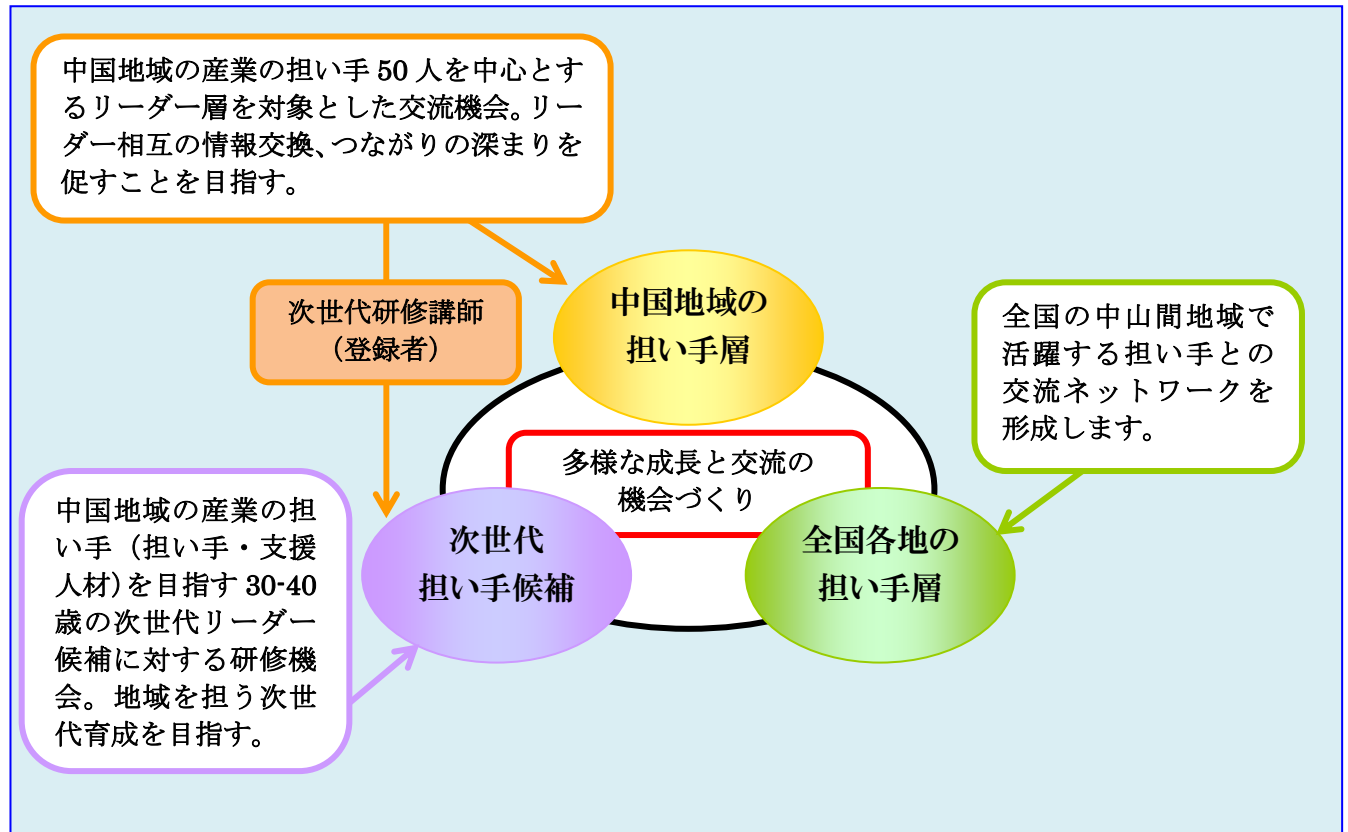
- ☐ 中山間地域の地域資源活用型産業振興に関する資質向上に絞った研修とする。

【重点項目】

- ☐ 担い手に求められる企業人材としての意識及び実践スキルの向上
- ☐ 産業支援人材に求められる産業振興と地域振興を結びつけていく意識の醸成
- ☐ 企業団体等民間と自治体(産業振興担当課)や商工会・商工会議所等支援機関からの参加による官民共同研修とする。
- ☐ 中山間地域の産業現場で担い手とともに学び、ともに考え、地域と交流する研修とする。
- ☐ 研修受講後のフォローアップとの連動性を確保し、受講成果を具体的に業務に反映できる研修とする。

2) 研修の体系

研修の体系化にあたっては、中山間地域の産業人材のつながりを重視し、「担い手への成長⇒後継者育成⇒担い手への成長⇒…」という人材の循環を促す仕組みを目指して策定する。また、全国の中山間地域で活躍する担い手との交流機会を確保し、相互に刺激を与え合う機会を提供する。



上図の考え方をもとに下記の研修体系を設定する。

○次世代育成研修

担い手及び支援人材を目指す30～40歳代の中堅層のための研修

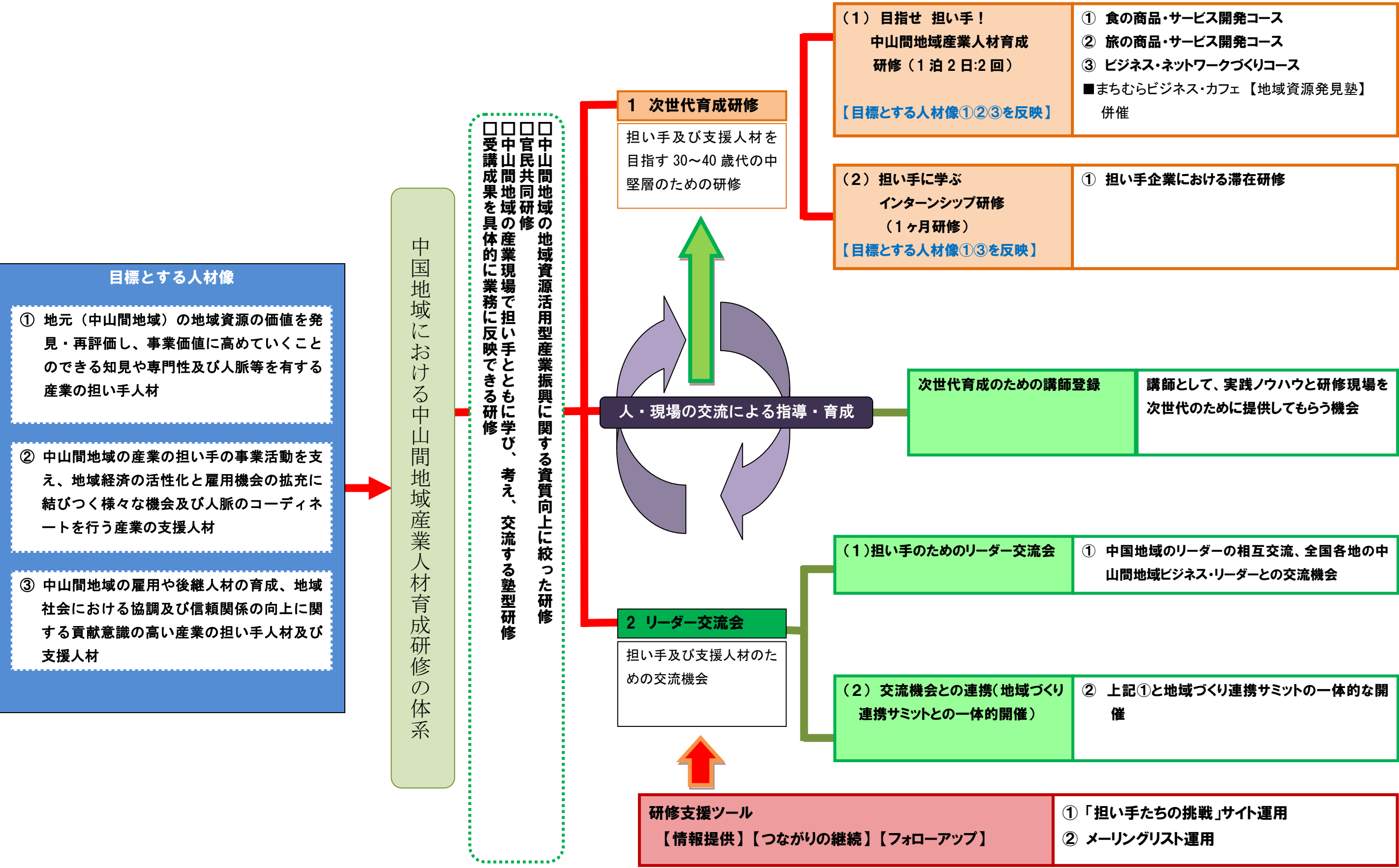
- ・目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修
(1泊2日研修 2回セット ※まちむら・ビジネスカフェ～地域資源発見塾併催)
- ・担い手に学ぶインターンシップ研修(1ヶ月研修)

○リーダー交流会

担い手及び支援人材のための交流機会

- ・担い手交流会(1日)
- ・交流機会(地域づくり連携サミット【※開催自治体・中国経済産業局等主催】との一体的展開
※次世代育成のための講師登録、指導協力)

【研修体系】



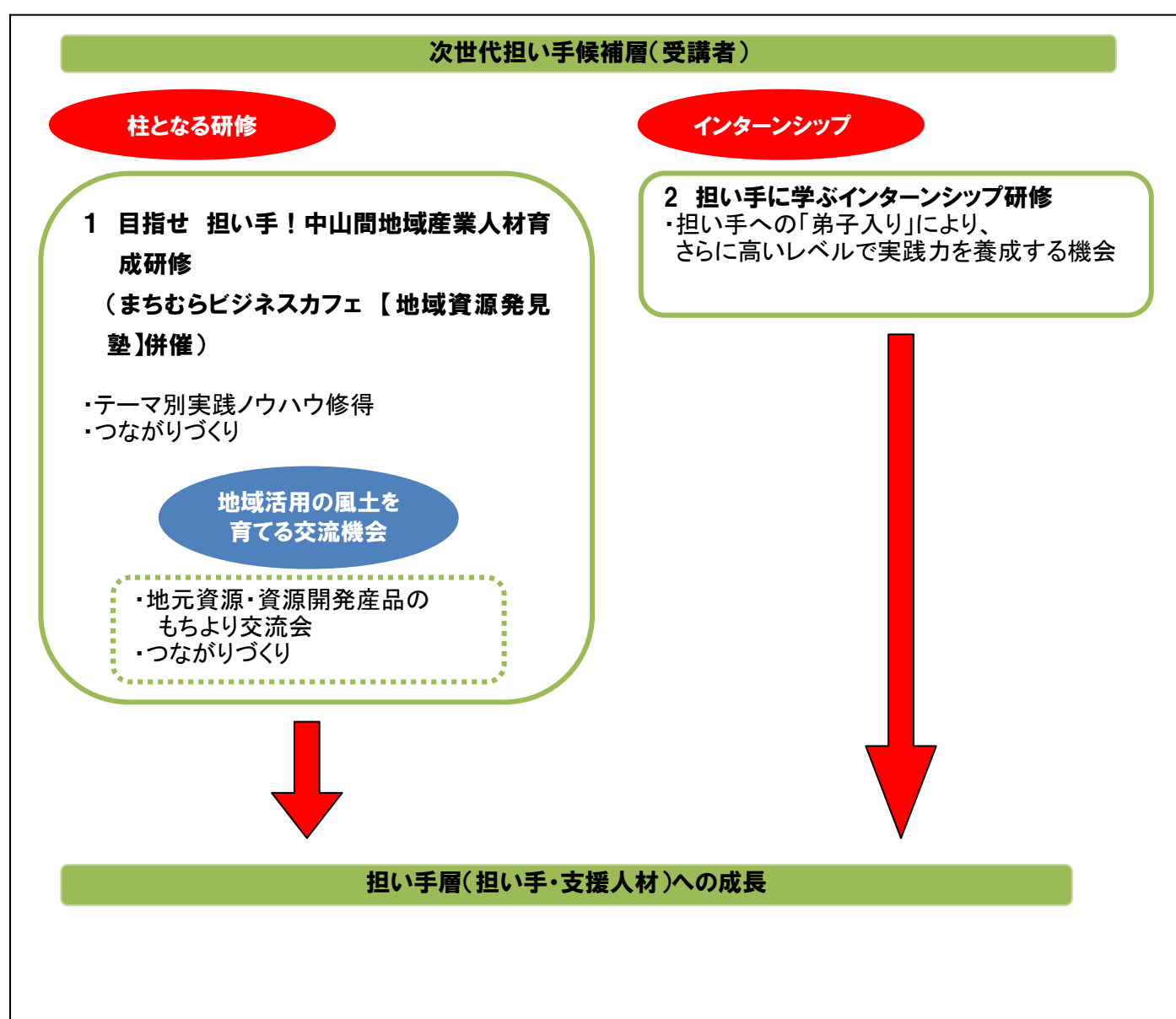
(2) 地域産業の担い手・支援人材の育成プログラムの各プログラム案

①研修の構成

1) 次世代育成研修の構成

次世代産業人材育成は、実証研修内容を継承し、受講生意見、講師意見に基づく改善を加える中で、新たにプログラムを追加し、2種類の研修で構成する。

□次世代育成研修の構成【成長段階に応じた研修の必要性】

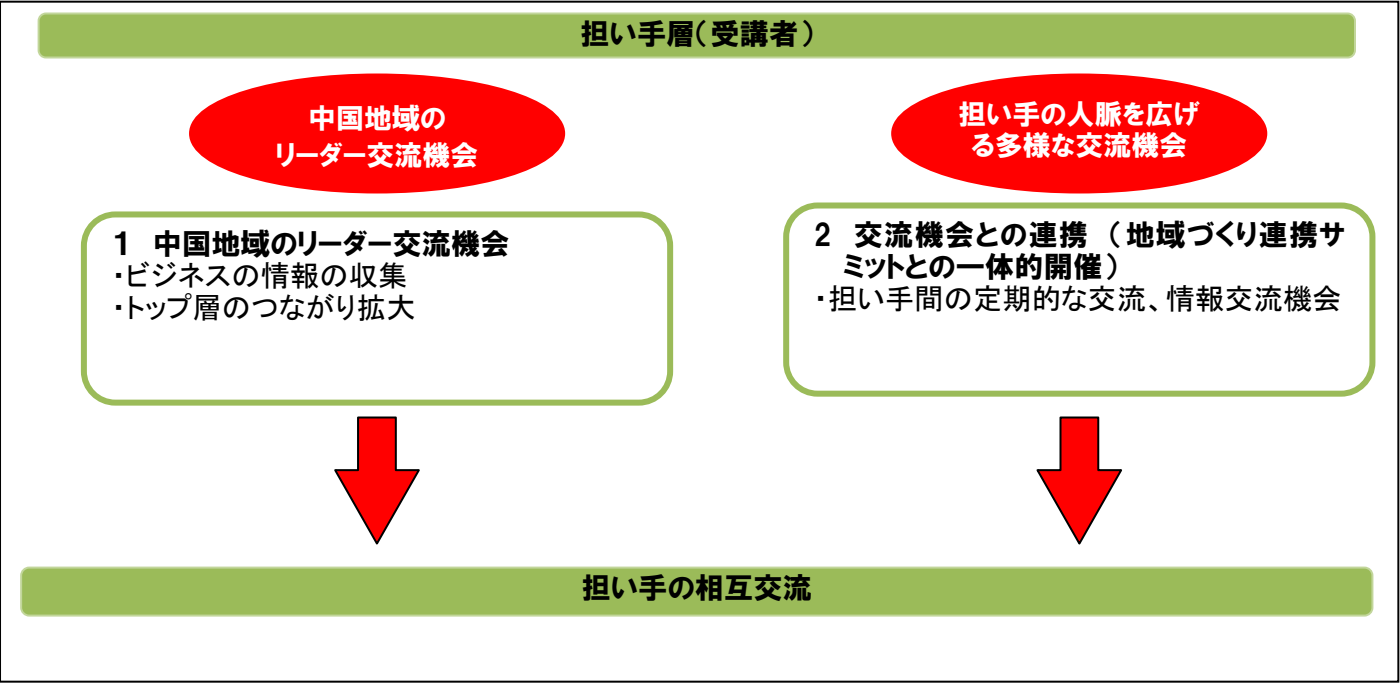


2) リーダー交流会の構成

リーダー交流会は、中国地域の中山間地域の担い手として活躍する経営者の相互交流機会を確保し、互いの事業活動に学び合う機会を提供することで、新たな異業種連携、地域間連携のきっかけづくりを目指して開催する。

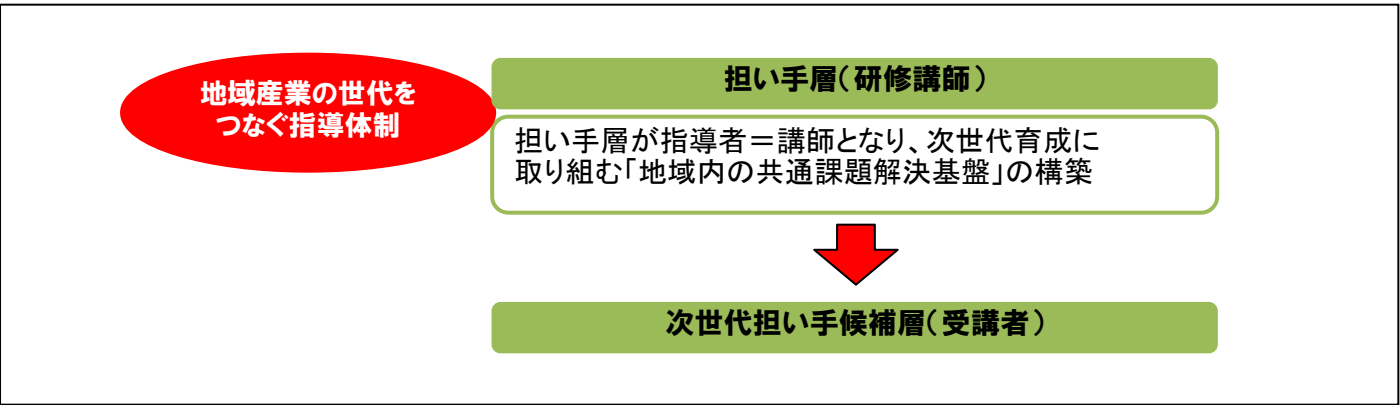
また、全国の中山間地域で活躍する担い手（企業経営者等）との交流機会をつくり、ビジネス人脈の拡充と企業の発展を支援することを目指して開設する。

□リーダー交流会の構成



3) 担い手の講師登録

担い手層が修得してきた実践ノウハウや経営マインド、地域振興マインドを次世代に継承するため、研修講師としての協力を仰ぎ、世代間のつながりづくり、循環する人材育成の仕組みの構築を目指す。



②次世代育成研修の実施概要

1) 目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修 ～中山間地域の官民共同産業人材育成研修～

目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修 ～中山間地域の官民共同産業人材育成研修～		定員	20 人	1 回 日数	1 泊 2 日	研修 回数	2 回
研修目標	中山間地域での企業活動や産業支援活動に求められる地域資源活用及び販路開拓に関する実践スキルを修得するとともに、事業活動にあたる上での地域貢献意識の醸成を図る。	研 修 時期	第 1 回:2 月上旬 第 2 回:3 月上旬				
特徴	□民間・自治体(支援機関含む)の共同研修 □中山間地域の企業で活躍する担い手の経営現場で研修開催。 □中山間地域の企業で活躍する担い手実践を通じて修得したノウハウを直接伝授。 □ケーススタディ型ワーキングにより問題解決能力の修得促進	研 修 場所	中国地域の中山間地域で活躍する企業が立地する地域から選定				
対象者	担い手及び支援人材を目指す 30～40 歳代の企業及び行政等の中堅社員・職員	研 修 方法	講義、グループ討議、演習、現地視察				
主な 研修科目	【Ⅰ 基礎編】地域産業振興マインドの醸成と基礎的な実践スキルを修得する。 A 食の商品・サービス開発コース ・中国地域の農林水産資源を活かした食の商品・サービス開発の実践講座 B 旅の商品・サービス開発コース ・中国地域の地域環境や資源を活かした旅の商品・サービス開発の実践講座 <u>主な講義構成</u> 1 マインドアップ講義 2 地域資源活用による講義＋ワーキング(地域資源ポジショニング分析・活用 事業企画立案・プロデュース PR 販促プロモーション) 3 担い手企業視察 【Ⅱ 応用編】基礎編の成果を高める実践スキルを修得する。 A ビジネス・ネットワークづくりコース ・食及び旅の商品・サービス開発にあたっては、その事業成果を高めていく上で消費者をはじめ、さまざまな支援者及び協力者、取引先等との信頼関係を構築していくことが極めて重要な成功要因となっている(平成 20 年度「担い手調査」)。 ・以上を踏まえ、効果的な消費者や販売先等多様な支援想定先との交流、連携手法及びその進め方を学ぶ講座を開設する。 <u>主な講義構成</u> 1 ステークホルダーとのつながりづくりに関する講義＋ワーキング 2 販売先関係者・消費者リーダーの講義 3 参加者間の交流型ワークショップ ※各コースの実施イメージを次ページに掲載。						

□各研修科目の実施イメージ

I 基礎編

【A 食の商品・サービス開発コース】

中国地域の農林水産資源を活かした食の商品・サービス開発の基礎講座

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 地域資源の活用にあたっての着眼点
- 競合品に対する商品優位力の発見と磨き上げ
- 商品企画力とプロデュース
- 商品販売力と販路の選定
- 流通に関する創意工夫
- その他

【B 旅の商品・サービス開発コース】

中国地域の地域環境や資源を活かした旅の商品・サービス開発の基礎講座

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 地域資源の活用にあたっての着眼点
- 競合観光地及び旅行商品に対する優位力の発見と磨き上げ
- 交流サービス及び旅行商品の企画開発とプロデュース
- 交流サービスの提供方法、旅行商品の販売手法
- イベント等プロモーション手法
- その他

II 応用編

【A ビジネス・ネットワークづくりコース】

食及び旅の商品・サービス開発成果をさらに高めていくため、実践現場で求められる消費者、支援者及び協力者、取引先等との信頼関係づくり、絆づくりを目的とする交流、連携手法及びその進め方を学ぶ応用講座。

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 消費者、販売先等との支援ネットワーク体制のつくり方
 - ・消費者等との信頼、協力関係の手法と進め方
 - （例１：会員制顧客が、安全で品質の高い食品を製造する企業を購買行動によって支援する動につながる相互の信頼関係、絆づくりに関する消費者との交流活動、広報活動等に関する実践手法を学ぶケース。）
 - （例２：消費者や販売先とともに事業企画を進めていくコラボレーション手法を学ぶケース）
 - ・都市からのＩターン者人材の確保・効果的な活用を図るための意識醸成と現場での実践手法
 - ・その他

□第 1 回 日程案【A コースの場合】

1 日目		
時間	内容	講師
13:00 ～ 13:15	【開会・挨拶】 【オリエンテーション】	
13:15 ～ 14:15	【マインドアップ講義】(60 分) 中山間地域における産業振興・地域振興に関する概略と担い手・支援人材の果たす役割	支援 人材
14:15 ～ 15:15	【「私の仕事」課題発見ワークショップ】(60 分) 中山間地域における産業振興・地域振興からみた企業・行政の役割 自身の役割に関する参加者相互によるディスカッションをとおして自身の研修課題を発見する。	大学 研究者等 事務局
15:15 ～ 15:30	【休憩】(15 分)	
15:30 ～ 16:30	【担い手講義】(60 分) ○地域資源ポジショニング分析・活用	担い手
16:30 ～ 18:00	【現地視察ワーキング】(90 分) ○地域資源ポジショニング分析・活用に関する視察形式のワーキング	担い手 事務局
18:30 ～	【懇親・意見交換会】(120 分) ・参加者と講師との意見交換	
2 日目		
8:30 ～ 10:00	【ワーキング】(90 分) ○地域資源ポジショニング分析・活用に関するワーキング	担い手 事務局
10:00 ～ 10:10	【休憩】(10 分)	支援 人材
10:10 ～ 11:00	【ワーキング中間発表・講師助言】 ○地域資源ポジショニング分析・活用に関するワーキング報告と講師助言	担い手 事務局
11:00 ～ 12:00	【担い手講義】(60 分) ○第 1 回のポイント整理と第 2 回に向けた課題学習に関する講義	担い手

□第2回 日程案【Aコースの場合】

1 日目		
時間	内容	講師
13:00 ～ 13:15	【開会・挨拶】 【オリエンテーション】	
13:15 ～ 13:45	【レビュー】(30 分) 第 1 回のポイント、ワーキング内容の振り返り	担い手 事務局
13:45 ～ 15:00	【担い手講義】(75 分) ○商品・サービスプロデュース手法	担い手
15:00 ～ 15:15	【休憩】(15 分)	
15:15 ～ 17:00	【ワーキング】(105 分) ○商品・サービスプロデュース手法に関するワーキング	担い手 事務局
17:00 ～ 18:00	【担い手講義】(60 分) ○PR 販促プロモーション	担い手
18:30 ～	【懇親・意見交換会】(120 分) ・参加者と講師との意見交換	
2 日目		
8:30 ～ 10:00	【ワーキング】(90 分) ○PR 販促プロモーション	担い手 事務局
10:00 ～10:10	【休憩】(10 分)	
10:10 ～ 11:00	【ワーキングまとめ プレゼン準備】(50 分) ○ワーキング成果のまとめとプレゼン準備	担い手 事務局
11:00 ～ 12:00	【ワーキング成果の発表 担い手講評】(60 分) ○ワーキング成果の発表、講師講評	担い手
	【閉会・挨拶】 受講修了授与	

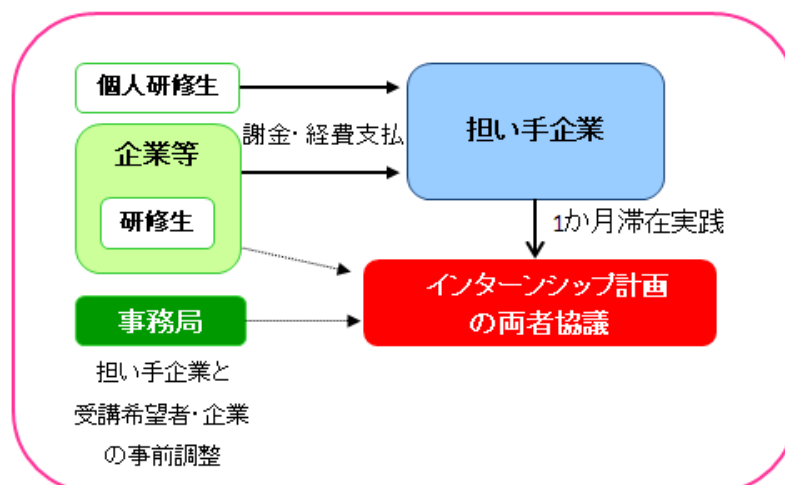
■まちむらビジネスカフェ

まちむらビジネスカフェ ～地域資源発見塾～		目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成 研修 ～中山間地域の官民共同産業人材育 成研修～のプログラムとして実施	
研修目標	中山間地域での地域資源活用ビジネスの種となりうる産品、試作品、加工品等を持ち寄り、生産者、加工業者、販売者、都市住民等の交流のなかで意見交換を行い、ブラッシュアップの場、地域資源活用による事業創出環境としての向上を図る。		
特徴	□多様な層の参加により地域資源活用とブラッシュアップをカフェ形式で開催 □研修プログラム A-C の展開内容により組み合わせて実施		
出席者	担い手を目指す人材、産業支援人材 販売先 消費者 金融機関等	研修 方法	産品等紹介、意見交換

2) 担い手に学ぶインターンシップ研修（1 ヶ月研修）

担い手に学ぶインターンシップ研修		定員	1 人	研修 期間	1 ヶ 月	研修 回数	1 回
研修目標	企業活動を通じて地域社会の向上に貢献することを目指す層を対象として、担い手企業での滞在研修を通して実践能力の向上を図り、成長促進を図るとともに、中山間地域の企業間人材連携を促進する。	研修 時期	5 月				
		場所	中国地域の中山間地域で活躍する担い手の企業現場				
		方法	研修計画に基づく実務体験				
特徴	□担い手のもとで、滞在しながらマインドと実践スキルの向上を図る仕組み。 □1 ヶ月のインターンシップ期間における研修プログラムについては事前準備期間において両者協議の上設定。 □研修終了後の成果発表交流会で両企業の交流を深める。						
対象者	○目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修受講生						

□実施イメージ



③リーダー交流会の実施概要

1) 担い手のためのリーダー交流会

担い手のためのリーダー交流会		定員	若干名	1回 日数	1日	研修 回数	1回
研修目標	中山間地域で活躍する産業の担い手の人脈づくり、情報の交流機会、事例発表機会を提供することで、新たなビジネスチャンスの開拓や担い手としての飛躍を促進する。	研修 時期	※地域づくり連携サミットと併催				
特徴	□リーダー間の交流機会 □担い手の事例発表機会 □地域づくり連携サミットとの一体開催により、相互の学びと多様な参加層との交流機会を提供	研修 場所	地域づくり連携サミット開催地				
対象者	中山間地域で活躍する企業等の担い手	研修 方法	講義、事例発表、現地視察				
主な 内容	1 講師講義（全国の中山間地域で活躍する企業経営者） 2 企業視察（事例発表）						

□日程案

1日目		
時間	内容	講師
10:00 ～ 10:10	【開会・挨拶】	
10:10 ～ 10:50	【企業視察】(40分) ○訪問企業視察	担い手
10:50 ～ 12:00	【担い手事例発表・意見交換】(70分) ○事例発表 40分 ○意見交換 30分	担い手

□終了後、地域づくり連携サミット、交流会に参加。

2) 交流機会との連携 (地域づくり連携サミットとの一体的開催)

上記1) の研修は過去2回(年1回)開催されている地域づくり連携サミット(開催自治体、中国経済産業局等主催)との一体的開催を目指すことを提言する。

同サミットは、中山間地域の地域資源活用及び農商工連携による産業振興を促進するための意識啓発機会として開催されているもので、毎年、全国的な注目を集める企業経営者等の実践者を講師に迎え、中国地域の活動事例を発表する場となっている。

また、同日夜の交流会には、「担い手たちの挑戦」掲載の地域ビジネスリーダーが多数参加し、リーダーたちの交流機会となっている。

そこで、上記1) 研修を同日午前に開催し、午後からの地域づくり連携サミット、夜の交流会と一体的なプログラムとすることで多忙な担い手にとって負担の少ないスタイルとする。

【第2回地域づくり連携サミット開催資料】

1日目

10月22日(木)

◆地域づくり連携サミット・交流会

タイムスケジュール

13:30～13:40

開会挨拶【真庭市長】井手 敏一郎・【中国経済産業局長】長尾 正彦

13:40～14:40

第1部 基調講演【(株)小布造場(株)併一市村酒造場 代表取締役】市村 次夫氏

14:40～14:50

休憩

14:50～16:55

第2部 リレートークセッション 中国地域事例(4名)

16:55～17:00

開会挨拶【(地)中小機構企業基盤整備機構 中国支部長】石村 孝夫

18:30～20:30

交流会 ～「地域ビジネスリーダー」たちを囲む会～

【サミット】

■場所

久世エスバランド

■時間

13:30～17:00

【住所】

岡山県真庭市鍋屋17-1

TEL. (0867) 42-7200

FAX. (0867) 42-7202

【アクセス】

米子自動車道久世ICから車で約10分

【交流会 ～「地域ビジネスリーダー」たちを囲む会～】

■場所

湯原温泉郷 元禄旅館 油屋

■時間

18:30～20:30

■会費

6,000円

～メッセージ～

「中山間地域における地域ビジネスリーダー」たちを囲んで、その成功談・失敗談について語り合い、中国地域の地域づくりの新たなネットワークづくりを目指す交流会にご参加ください。

モデレーター

(株)三菱総合研究所
チーフアドバイザー 川村 雅人氏

1960年 札幌市生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。地域経営分野におけるシンクタンク界の第一人者。平成20年度に中国経済産業局が実施した「地域産業の新しい手組出しのための方策調査」では調査委員を務めるとともに、事例集「中国地域 地域産業担い手たちの挑戦」の監修を行った。著書に「全戦略 日本ビジネス 産業再生のシナリオ50」(共著)「都市 地域の新潮流ー人口減少時代の地域づくり」とビジネスチャンス」(共著)ほかがある。

基調講演

(株)小布造場 (株)併一市村酒造場【長野県小布施町】
代表取締役 市村 次夫氏

1948年長野生まれ。1971年慶應義塾大学法学部卒業。同年佐藤化学工業株式会社に入社。1980年同社を退社し、株式会社小布施代表取締役。株式会社併一市村酒造場代表取締役に就任。街歩き専攻事業、国際企業会議小布施会議開催、まちづくり会社「アサ・小布施」設立、「小布施アクション」組織などを担い、地域ブランド化に成功。長野県人事委員会委員長、長野県都市計画審議会会長、社団法人21世紀・ビジネス協議会会長、財団法人長野県国際文化産業推進協議会理事、長野県バイオテクノロジー研究会会長、財団法人北信産研理事、国土庁地域振興アドバイザー、名古屋工業大学非常勤講師など。

中山間地域から、産業の活性化に取り組む

リレートークセッション／中国地域事例

岸本 康子氏

NPO法人 養生の郷
理事

食言市在住。平成の市町村合併を機に旧金町の町づくりを進めることを目的に設立されたNPO法人養生の郷。その専任職員として、2000年から地域資源を活用した「食言市道徳教育事業」「食言市見守りづくり甲賀行列」「田舎体験事業」「楽園講習会」の開催など、さまざまな地域プロジェクトを推進してきた。2008年には「とっとり楽園ネット」を設立。ライフワークとして環境問題にも取り組む。とっとり楽園ネット会長。

中澤 さかな氏

道の駅 秋一まーと
駅長

日本海の幸に恵まれた山口県萩市。道の駅秋一まーとは平成11年に設立され、年間およそ140万人が訪れ、約9億円の年商を上げている中国地方有数の観光道の駅。地元郷土を中心に、地元客がワストップで買い物をするこのでるよう地元産品にこだわった商品が数多くある。中澤さんは、大手出版社で編集マーカーとして活躍後、家族で萩市に移住。同施設の企画から運営までを手掛けたキーパーソンとして知られる。

藤下 建蔵氏

代表取締役 森下 勝義氏

建設業の発展推進が目的で、平成5年頃から事業転換を図るため、高断熱、高気密工法の新技術を取り入れて、次世代に遺した家づくりの住宅建築家として活動中。また、バイオマス発電事業の推進により、西日本地域のバイオマス発電事業の発展に貢献。また、バイオマス発電事業の推進により、西日本地域のバイオマス発電事業の発展に貢献。また、バイオマス発電事業の推進により、西日本地域のバイオマス発電事業の発展に貢献。

中島 浩一郎氏

NPO法人 21世紀の真庭塾(建設工業(株)代表取締役)

小布施・中野両町産材の生産量では国内トップを誇る同町の産材事業として、1998年より大型ボイラーによるバイオマス発電を開始。2004年よりバイオマス発電の生産を開始。また、1993年には、地域資源の活用による産業創出に担い手人材育成を目的として設立されたNPO法人21世紀の真庭塾の代表に就任。産材の活用による産業創出の推進役として、現在にも地域振興をけん引している。1994年真庭郡木下町長選挙同席合議事執行。2004年から真庭バイオマスエネルギー株式会社代表取締役。岡山県真庭地域の森林バイオマス活用プロジェクトの中心的存在として、特にバイオエネルギーの活用を推進している。

2日目

10月23日(金)

◆オプションツアー「バイオマスツアー 真庭」

バイオマスとは、生物由来の再生可能な資源を指す言葉です。私たちの身の回りにも、木くず、農産物、生ごみなどたくさんあるバイオマスがあります。このツアーでは、バイオマスを活用したバイオマスタウン真庭の取り組みと地域づくりを見学していただきます。

詳しくは「バイオマスツアー 真庭」<http://www.biomass-tou-amanaiwa.jp/> または真庭市産業観光部観光課まで。

タイムスケジュール

所要時間

所要場所(所要時間)

8:20集合

8:30集合

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

8:30～9:00

30分

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)
「湯原温泉郷のバイオマス発電事業について」
「バイオマス発電事業の推進について」
「バイオマス発電事業の推進について」

9:30～10:00

30分

真庭市バイオマス発電事業
「バイオマス発電事業の推進について」
「バイオマス発電事業の推進について」

10:20～11:10

50分

真庭市(真庭市工業団地)真庭市(真庭市工業団地)
「バイオマス発電事業の推進について」
「バイオマス発電事業の推進について」

11:20～11:40

20分

真庭市(真庭市工業団地)真庭市(真庭市工業団地)
「バイオマス発電事業の推進について」
「バイオマス発電事業の推進について」

11:50～13:00

70分

真庭市(真庭市工業団地)真庭市(真庭市工業団地)
「バイオマス発電事業の推進について」
「バイオマス発電事業の推進について」

13:30解散

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

【注意事項】

①集合時間厳守(集合時間10分前集合)

②集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

③集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

④集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑤集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑥集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑦集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑧集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑨集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑩集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑪集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑫集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑬集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑭集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑮集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑯集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑰集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑱集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑲集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

⑳集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉑集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉒集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉓集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉔集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉕集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉖集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉗集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉘集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉙集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉚集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉛集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉜集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉝集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉞集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㉟集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊱集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊲集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊳集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊴集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊵集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊶集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊷集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊸集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊹集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊺集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊻集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊼集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊽集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊾集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

㊿集合場所

湯原温泉郷(湯原観光情報センター)

90

④中山間地域企業の共通課題である「人材育成」に関する仕組みづくり

実証研修においては、中山間地域で活動する実践者を講師に迎えての講義は、受講生にとって事業課題に関する実感を共有できること、現場ニーズに沿った研修内容であること等から大変好評であった。

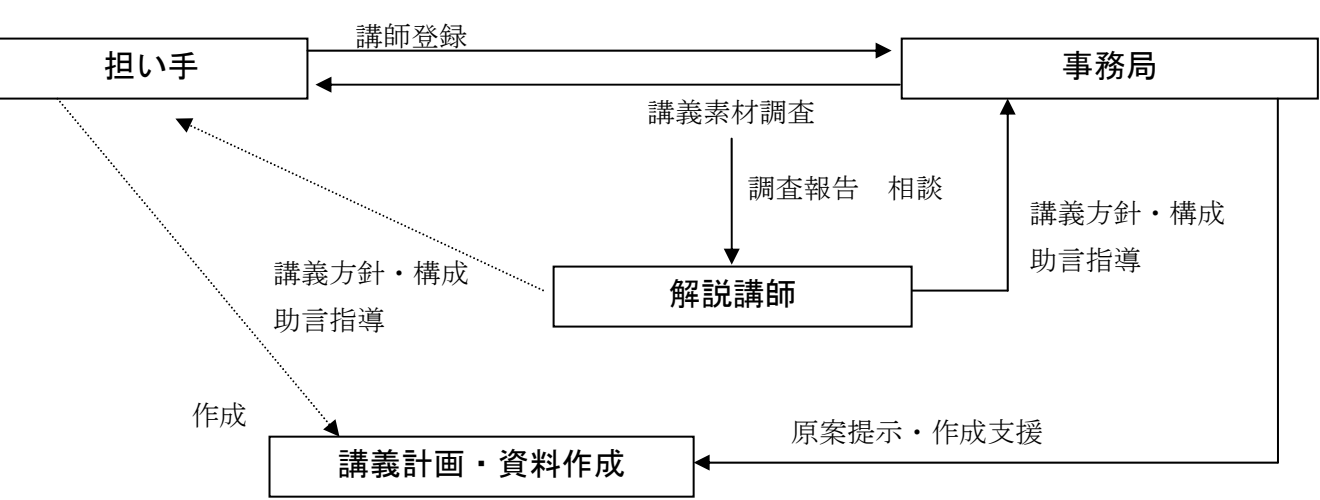
この成果は、こうした担い手自らが人材育成のための講師として協力する仕組みをつくることで、中山間地域企業の共通課題である「人材育成」に関する仕組みを構築することが可能になることを示すものといえる。

そこで、担い手の実践ノウハウや地域貢献への思いを次世代に継承するため、「担い手たちの挑戦」掲載の50人の地域ビジネスリーダーを中心とする企業経営者に講師登録への協力を依頼する。なお、講義実施にあたっては、解説講師を依頼する大学研究者等の助言を受けながら、事務局の支援により講義計画・講義資料を策定した上で実施する。

解説講師は、研修プログラムに沿って、担い手の経験、実践ノウハウ等を用いた有意義な講義内容の設定について事務局を介して指導・助言を行う立場として位置づける。

この課程が担い手にとって、人材育成スキルを高める経験となる。こうした取り組みを通じて、中山間地域において人が育つ・人を育てる環境の向上を図る。

□講師登録から講義準備までの流れ 案



⑤情報交流ツール

本調査において、中山間地域の産業人材育成をサポートする目的で下記の WEB サイト「担い手たちの挑戦」及びメーリングリストを開設した。

主なコンテンツは中国地方の中山間地域における企業活動や人材育成研修に関する情報提供、対象者からの情報発信に関するコンテンツからなる。

今後も同サイトを活用した研修事前事後のフォローを行っていくことを目指している。

【初期のコンテンツ】

- お知らせ
- 研修情報
- 企業活動情報等の発信
- 担い手たちの今（川村塾）
- 「担い手たちの挑戦」掲載の地域ビジネスリーダー50 人の
フォロー情報の掲載
- 新たな担い手の追加
- 次世代の担い手立ち（中澤塾）
- 次世代担い手（担い手・支援人材）候補の情報交換
- ※上記更新情報、掲載希望情報をメーリングリストにて収集・更新を行う。



⑥事業推進にあたっての体制づくり

次年度以降の運営体制については概ね以下の体制を想定する。

平成 22 年度においては、中国経済産業局のもとでの実施を前提とする。また、研修内容のフォローアップ及び将来的な研修推進体制について検討を行う「中山間地域の地域産業人材育成研究会（仮称）」を発足させる。

平成 23 年度以降の実施体制については、地域における自主的で持続的な課題解決の仕組みを構築することを目指し、上記研究会において、中国地域 5 県等との連携による運営体制への移行について実現可能性を探ることとする。